

宮城県仙台市



— 平成15年度発掘調査概報 —



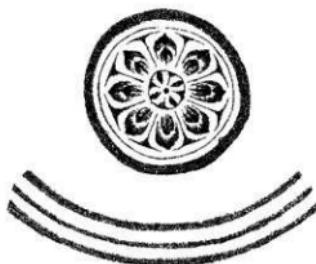
2004. 3

仙台市教育委員会

宮城県仙台市

郡山遺跡 24

— 平成15年度発掘調査概報 —



2004. 3

仙台市教育委員会



第147次調査区全景（南西から）

序 文

郡山遺跡の本年度の発掘調査事業は第5次5ヵ年計画の4年次にあたり、主にⅠ期官衙東辺を対象に調査を実施しました。板塀と建物で囲まれている中枢部付近では、他の地区とは異なり、さらにその外側に塙が存在し二重に区画されていることがわかりました。また外側を囲む塙のなかにのちの方四町Ⅱ期官衙の外郭となる材木列とほぼ同じ規模のものも存在することがわかりました。

国庫補助事業による継続的な発掘調査を開始してから24年が経過しておりますが、その間大地に埋もれていた謎の歴史が次々と明らかにされてきました。

本書は平成15年度の発掘調査成果の概要をまとめたものです。これにより国や教育委員会及び全国の研究機関などにおける飛鳥時代から奈良時代にかけての歴史の解明に資したいと思います。

今後はこれまでの調査成果を市民の皆様にもわかりやすくご紹介していこうと思っております。これからも郡山遺跡の発掘調査が進み、歴史公園としてまちづくりに大きく貢献できるよう努めてまいりたいと思います。

平成16年3月

仙台市教育委員会

教育長 阿 部 芳 吉

例 言

1. 本誌は郡山遺跡の平成15年度範囲確認調査の概報である。

2. 本調査は国庫補助事業である。

3. 本概報は調査の速報を目的とし、作成にあたり次のとおり分担した。

本文執筆 長島榮一 IV、V、VI、VII

松本知彦 I、II、III、VII

編集は長島・松本がこれにあたった。

4. 遺構図の平面位置図は相対座標で、座標原点は任意に設置したNo.1原点 ($X = 0$ 、 $Y = 0$) とし、高さは標高値で記した。

5. 文中で記した方位角は真北線を基準としている。

6. 遺構略号は次のとおりで、全遺構に通し番号を付した。

S A	柱列などの跡	S E	井戸跡	S X	その他の遺構
S B	建 物 跡	S I	豎穴住居跡・豎穴遺構	P	ピット・小柱穴
S D	溝 跡	S K	土 坑		

7. 遺物略号は次のとおりで、各々種別毎に番号を付した。

A	縄 文 土 器	F	丸瓦・軒丸瓦	K	石製品
B	弥 生 土 器	G	平瓦・軒平瓦	L	木製品
C	上鍋器（ロクロ不使用）	H	鶏 尾	N	金属製品
D	土鍋器（ロクロ使用）	I	陶 器	P	土製品
E	須 恵 器	J	磁 器		

8. 建物跡模式図中の記号は以下の基準により図示した。

●=柱痕跡の検出されたもの

○=掘り方のみ検出されたもの

◎=他遺構との重複により検出されないもの

9. 遺物実測図の網スクリーントーン張り込みは黒色処理を示している。

10. 本概報の土色については「新版標準土色帳」（古山・佐藤：1970）を使用した。

11. 本概報中の獨立柱建物跡の記載の中で「柱痕跡は21cmの円形で…」とあるものは、柱痕跡の直径が21cmの意である。

目 次

序 文	
例 言	
Iはじめに	1
II調査計画と実績	2
III第147次発掘調査	4
1. 調査経過	4
2. 発見遺構・出土遺物	5
3. まとめ	25
IV第152次発掘調査	39
1. 調査経過	39
2. 発見遺構・出土遺物	39
3. まとめ	45
V第153次・第155次発掘調査	48
1. 調査経過と発見遺構・出土遺物	48
(1) 第153次調査	48
(2) 第155次調査	49
VI第156次発掘調査	55
1. 調査経過	55
2. 発見遺構・出土遺物	55
3. まとめ	57
VII総括	60
調査成果の普及と関連活動	69

I はじめに

平成15年度は郡山遺跡範囲確認調査第5次5カ年の4年次にあたり、下記の体制で臨んだ。(敬称略・順不同)

調査主体 仙台市教育委員会(生涯学習部文化財課)

発掘調査、整理を適正に実施するため調査指導委員会を設置し、指導、助言を受けた。

委員長 工藤雅樹(福島大学名誉教授 考古学)

副委員長 今泉隆雄(東北大学文学部教授 古代史)

岡田茂弘(東北歴史博物館館長 考古学)

進藤秋輝(東北歴史博物館副館長 考古学)

桑原滋郎(前宮城県考古学会会長 考古学)

須藤 隆(東北大学文学部教授 考古学)

宮本長二郎(東北芸術工科大学芸術学部教授 建築学)

発掘調査および遺物整理にあたり、次の方々からご協力をいただいた。

現地指導 工藤雅樹、今泉隆雄、岡田茂弘、桑原滋郎、宮本長二郎(いずれも調査指導委員)、玉田芳美(文化庁文化財保護部記念物課)、鳥羽政之(岡部町教育委員会)

資料提供 佐川正敏(東北学院大学文学部教授)

調査担当 文化財課 課長 青柳 良文

主幹 田中 則和

整備活用係長 吉岡 基平

主任 長島 栄一

主任 長谷川隆二

文化財教諭 松本 知彦

郡山遺跡は、仙台平野中央部に位置する飛鳥から奈良時代の官衙・寺院跡である。仙台市教育委員会では、昭和54年度以来継続的な調査を行ってきた。これまでの調査から、7世紀後半から8世紀初頭にかけての2時期にわたるⅠ期・Ⅱ期官衙とⅡ期官衙に付属する寺院(郡山廃寺)があったことなどがわかっている。Ⅰ期官衙は7世紀中期から7世紀末にかけての古代陸奥国内の重要な構跡、Ⅱ期官衙は多賀城以前の初期陸奥国府(衙)の可能性が高いと考えられている。また近年の周辺地区の発掘調査により隣接する西台畠遺跡・長町駅東遺跡からも飛鳥～奈良時代の遺構が発見され、郡山遺跡と密接な関係のある集落が広がっていたことが明らかになって来ている。

II 調査計画と実績

平成15年度の発掘調査は、郡山遺跡発掘調査の第5次5カ年計画における第4年次目にあたる。第5次5カ年計画では、以下5項目の達成を目指している。

- (1) II期官衙中枢部の構造の解明
- (2) 郡山魔守の内部構造の解明
- (3) I期官衙の構造と変遷の解明
- (4) 南方官衙の範囲と性格の解明
- (5) 郡山遺跡調査成果概要書の作成 などである。

これらは平成11年度郡山遺跡調査指導委員会で審議し、了承されたものである。詳細は「仙台市文化財調査報告書第250集郡山遺跡21」I-2を参照していただきたい。これにより今年度は「(3) I期官衙の構造と変遷の解明」を主目的として、これまでと同様に国庫補助事業である「市内遺跡発掘調査」で発掘調査を実施することにした。発掘調査は、一昨年度より仙台城跡の主要遺構の遺存状況を把握するための発掘調査も含め、総経費5066万6千円、国庫補助金額2533万3千円の予算で計画した。またこれまで個人住宅などの小規模開発に伴う発掘調査は「仙台平野の遺跡群」として実施してきたが、今年度も該当する発掘調査が必要になったときには同様に対応することとした。したがって総経費5066万6千円を郡山遺跡発掘調査に1773万6千円、仙台城跡に2966万6千円、仙台平野の遺跡群として326万4千円という配分にした。これにより郡山遺跡発掘調査については、以下の実施計画を立案した。

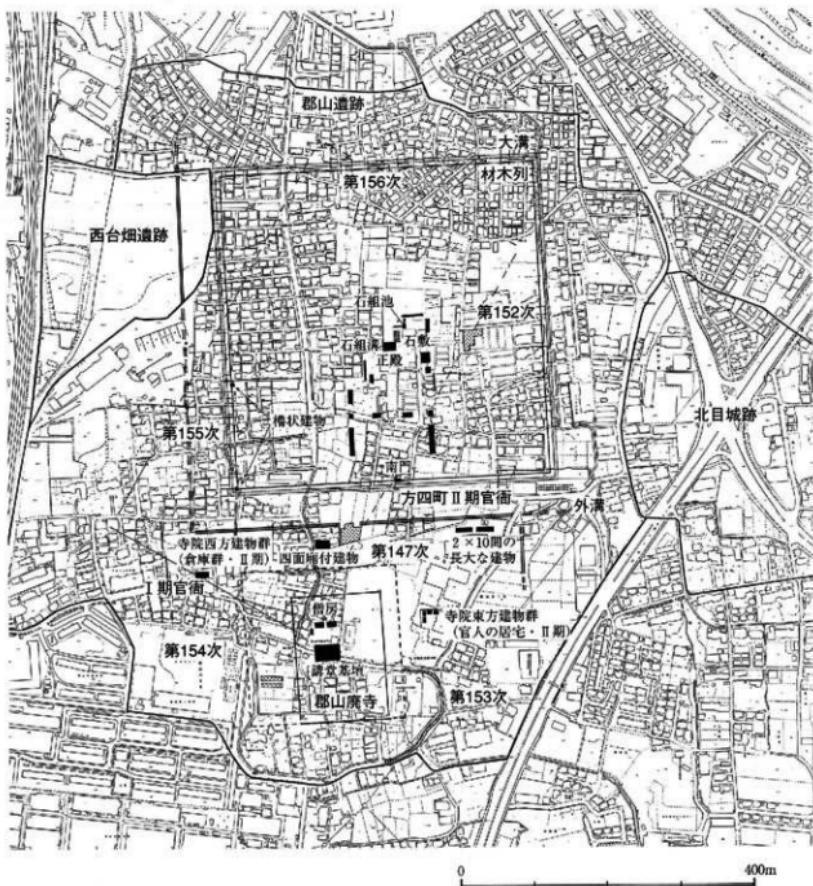
第1表 発掘調査計画表

調査次数	調査地区	調査予定面積	調査予定期間	調査原因
第147次	南方官衙西地区、I期官衙東辺	600m ²	5月～7月	範囲確認調査
第152次	I期官衙東辺	200m ²	8月～9月	範囲確認調査

4月以降、地中線埋設工事や宅地造成ならびに個人住宅の建築等で、4箇所の調査が必要となった。よって年度当初から予定されていた第146・152次調査、地中線埋設工事に伴う事前調査として第153次調査、宅地造成に伴う立会い調査として第154次調査、用水路改修工事に伴う立会い調査として第155次調査、個人住宅の建築に伴う調査の必要となった第156次調査の6箇所を以下のとおりに実施した。

第2表 発掘調査実績表

調査次数	調査地区	調査面積	調査期間	調査原因	対応
第147次	南方官衙西地区、I期官衙東辺	600m ²	5月12日～12月18日	範囲確認調査	郡山遺跡発掘調査
第152次	I期官衙東辺	185m ²	9月4日～11月28日	範囲確認調査	郡山遺跡発掘調査
第153次	遺跡内南部	192m ²	5月12日～6月17日	地中線埋設工事	開発に伴う事前調査
第154次	郡山堺寺西辺	66m ²	9月8日～9月10日	宅地造成	開発に伴う事前調査
第155次	方四町Ⅱ期官衙内南西部	530m ²	1月16日～3月12日	用水路改修工事	+
第156次	方四町Ⅱ期官衙内北部	47m ²	2月3日～2月16日	個人住宅建築	仙台平野の遺跡群
第157次	方二町准定寺城西辺	300m ²	2月19日～3月15日	市道拡幅工事	開発に伴う事前調査



第1図 郡山遺跡全体図

これらの調査のうち第147次調査は、昨年度個人住宅建築に伴う第148次調査の実施のため一時中断したものを開したものである。また第2表以外に郡山廃寺内で2件の住宅新築に伴う発掘届が提出されたが遺構を損なわないよう設計を変更するよう調整を行った。なお今回「仙台平野の遺跡群」として調査した第156次は郡山遺跡内での調査であるため報告は本書に含めることにした。よって今年度は「仙台平野の遺跡群」としての報告は単独では刊行しない。なお第154次調査は開発に伴う事前調査であるため国庫補助事業の「市内遺跡発掘調査」では扱わず、別途報告する予定となっている。本事業の報告は「仙台市文化財調査報告書第269集郡山遺跡24－平成15年度発掘調査概報－」、「仙台文化財調査報告書第270集仙台城跡3」「仙台文化財調査報告書第271集仙台城跡4」の3書である。

III 第147次発掘調査

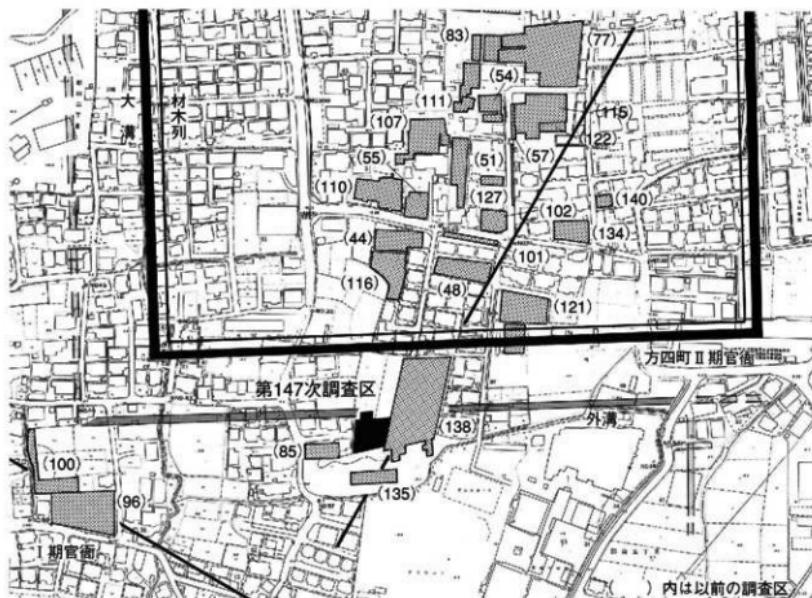
1. 調査経過

第147次調査区は平成13年度の第138次調査区に隣接している。Ⅰ期官衙の東辺上に位置し、Ⅱ期官衙の時期には方四町Ⅱ期官衙と郡山廃寺の間に広がる南方官衙西地区に位置している。これまでの調査で南方官衙地区には官衙の中核に配置されるような構造や規模の大型の建物が配置されていた。方四町Ⅱ期官衙のみならず、その外側にも重要な官衙ブロックが広がっていることが明らかとなっている。調査は平成14年10月から第138次調査で発見されたような大型の建物が建ち並ぶのかどうかを確認するために実施した。しかし急遽個人住宅建築に伴う第148次調査を実施する必要が生じたため、平成14年度中は遺構を検出するにとどめていた。遺構の検出状況からはこれまで南方官衙地区で発見してきたような大型の建物跡は発見されなかった。

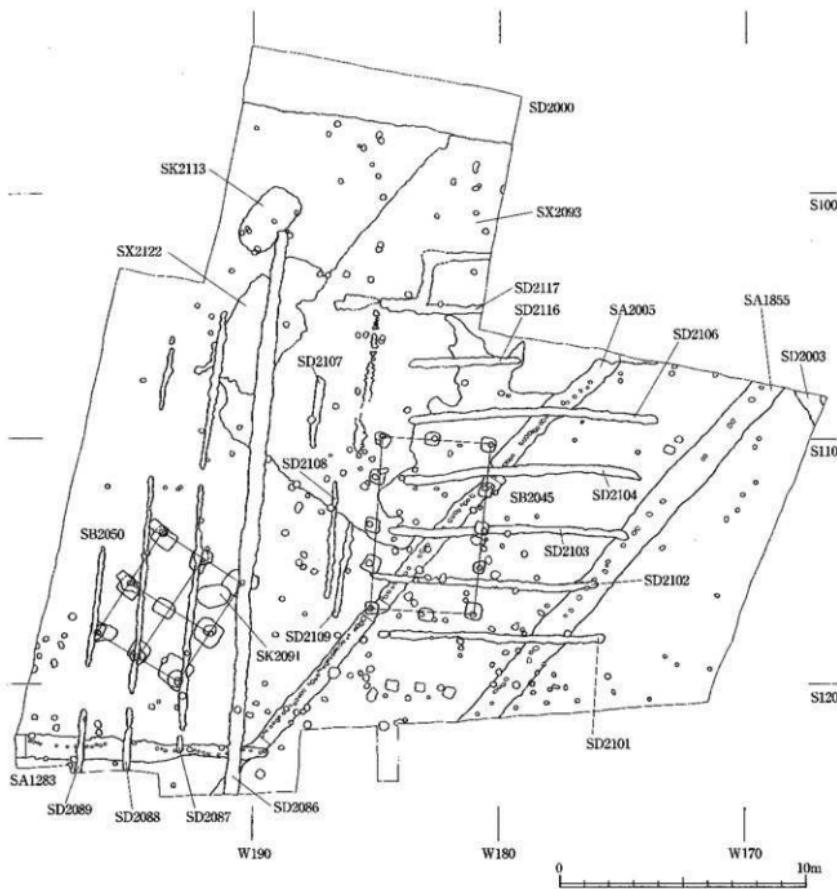
今年度は第152次調査と合わせてⅠ期官衙東辺の様相を明らかにすることを目的として調査を再開した。Ⅰ期官衙の遺構は調査地点により造られた方向に微妙な違いがあり、同一の材木列でも屈曲する部分があるなど一定していない。第138次調査区では、Ⅰ期官衙東辺材木列が3列発見され、これまで東辺と考えられていた2列の材木列との接続や構造の違いについて調査を行なうこととした。

調査区の現況は、旧水田で仙台市土地開発公社の所有地となっている。表土の厚さは15~60cm程度で、遺構の検出面までの基本層位の堆積は調査区内の地点によって違っていた。調査区北部から中央部は表土直下が遺構の検出面となっていたが、調査区南端のみが表土の下に第Ⅱ、Ⅲ層があり、遺構の検出面まで表土上から60cm程度となっている。

今年度は4月末から準備に入り、5月12日から調査を再開した。SX2093性格不明遺構から多量の遺物が出土し



第2図 第147次調査区位置図



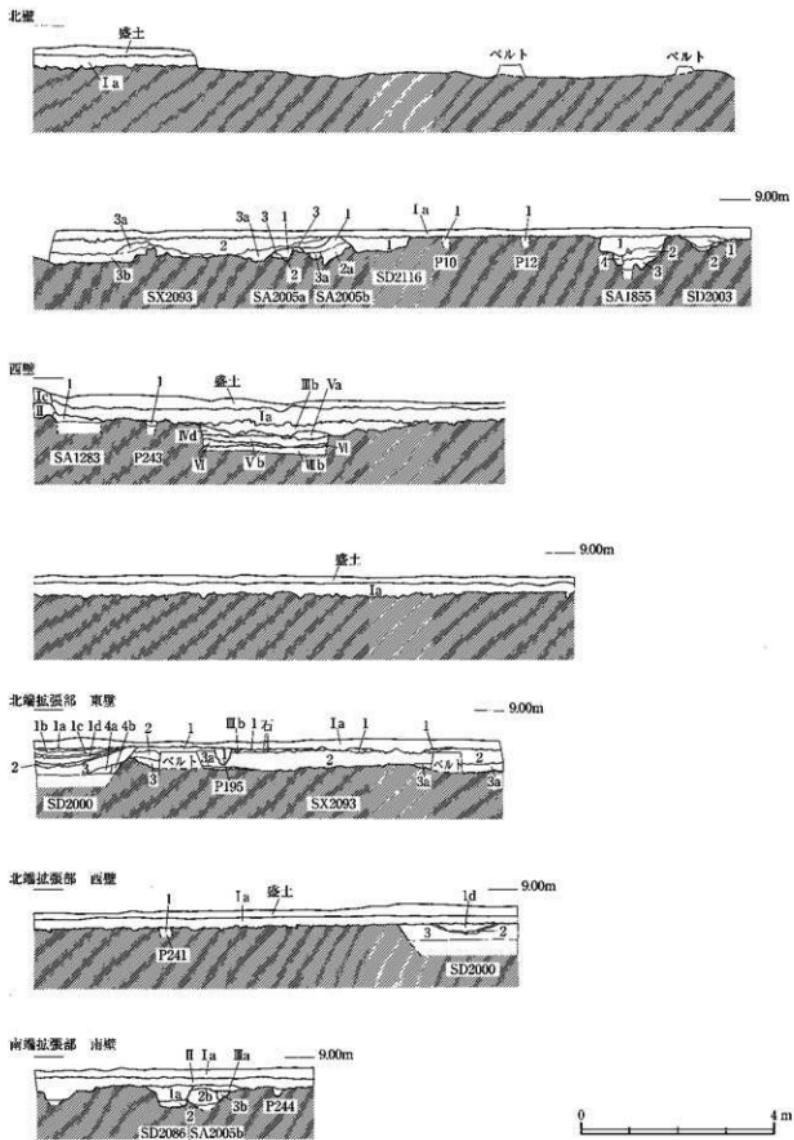
第3図 第147次調査区遺構配置図 (1/200)

ていることや調査区南端部分でSA1283材木列が発見されたため、6月に拡張を行なって遺構の全容把握に努めた。調査成果がまとまった10月30日に報道発表、11月1日に現地説明会を第152次調査と合わせて実施した。追加の記録を行い埋め戻し、整地作業が終了したのは12月18日である。

2. 発見遺構・出土遺物

今回の調査で発見された遺構は、掘立柱建物跡2棟、材木列4列、溝跡17条、土坑3基、性格不明遺構2基、ピットなどである。これらの遺構は基本層位第、層上面で検出されている。以下ここで報告するのは、第IV層上面で検出された主な遺構である。

SA1855材木列 上幅110~140cmの溝状の抜き取り底面において、掘り方と直径15~20cm程の柱痕跡が検出された。抜き取られた際の深度は一定しておらず、材木列掘り方底面よりも深く抜き取られた箇所もある。柱痕跡の方向はN-34°-Eである。検出した総長は約19mである。



第4図 第147次調査区断面図 (1/100)

基盤名	層位	土色	土性	備考
	表土			
	1a N40 地色	紺上	砂土	
	1b 25YR4/2 黄灰色	紺下	全部に微かく膠化色を含む。水田層	
	1c N40 地色	紺上	水田層	
	II 10YR4/2 从黃褐色	紺下	暗め	
	IIIa 10YR3/2 黑褐色	紺上	水田層	
	IIIb 10YR3/1 黑褐色	紺上	白灰色土を含む	
	IIIg 10YR4/2 黄褐色	紺下	褐色土を含む	
	IIIb 10YR2/2 黑褐色	紺上		
	IVe 10YR3/2 黑褐色	紺下	白色土を混入する	
	Vd 5WV4/4 に近い赤褐色	紺上	膠化色が強い	
	Ve 10YR6/4 に近い黃褐色	紺下		
	Va 10YR6/2 黄褐色	紺下	膠化色が強い	
	Vb 10X6E/2 从黃褐色	紺上		
	Vc 10YR5/2 黄褐色	紺下		
	Vd 10Y6E/3 に近い灰褐色	紺下	灰褐色土を含む	
	Wb 10YR2/5 黑褐色	紺上	灰褐色土を含む	
SX-0093	1 10YR2/2 黑褐色	紺上	微かに、灰褐色土を含む	
	2 10YR5/2 从黃褐色	紺下	微子土(暗かい)	
	3a 10YR4/1 黑褐色	紺上	混合物土。灰褐色土、黒褐色土を全体に含む	
	3b 10YR7/4 に近い青褐色	紺上	3等土を全体に含む	
SA-2005a	1 10YR2/2 黑褐色	紺下	抜き取り	
	10YR6/2 黄褐色	紺上	柱状構造	
	2 10YR5/3 に近い黃褐色	紺下	微淡だが黒褐色土を含む。裏面に膠化鉄錆層	
	3 10YR7/4 に近い黄褐色	紺下	裏面は土色を含む	
	1 10YR4/2 黄褐色	紺下	拔き取り	
	10YR5/2 黑褐色	紺上	混合層	
SA-2005b	2a 10YR6/3 に近い黄褐色	紺土	抜き取り	
	2b 10YR6/3 黑褐色	紺土	混合層	
	3a 10YR6/3 に近い黄褐色	紺土	抜き取り	淡褐色土を少量含む
	3b 10YR5/2 黄褐色	紺土	掘り方崩土	白灰色土、褐色土を含む
	4a 10YR6/3 黑褐色	紺土	掘り方崩土	黒褐色土、褐色土を含む
	4b 10YR6/3 に近い黄褐色	紺土	掘り方崩土	黒褐色土、褐色土をブロック状に含む
SA-1855	1 10YR2/2 黑褐色	紺下	抜き取り	
	2 10YR2/2 黑褐色	紺下	抜き取り	白灰色土、褐色土を含む
	3 10YR4/2 に近い黃褐色	紺下	掘り方崩土	黒褐色土、褐色土をブロックで含む
	4 10YR6/3 に近い黄褐色	紺下	拔き取り	黒褐色土、褐色土をブロックで含む
SA-1285	1 10YR2/2 黑褐色	紺下	掘り方崩土	
	10YR5/2 黑褐色	紺上	白灰色土、褐色土を含む	
SD-2116	1. 10YR4/3 に近い黄褐色	シルト質粘土	黑褐色土、褐色土を含む	
SD-2003	1. 10YR4/3 に近い黄褐色	紺下	黑褐色土、褐色土を少しへきりと含む	
	2 10YR7/3 に近い黄褐色	紺下		
	3 10YR5/3 に近い黄褐色	紺下		
	4 10YR5/3 に近い黄褐色	紺下		
	5 10YR5/3 に近い黄褐色	紺下		
	6 10YR4/2 黄褐色	紺下		
	7 10YR4/2 黄褐色	紺下		
	8 10YR6/2 黄褐色	紺下		
	9 10YR4/1 棕褐色	紺下		
	10 10YR4/1 黄褐色	紺下		
	11 10YR4/1 黄褐色	紺下		
	12 10YR4/2 黄褐色	紺下		
	13 10YR4/1 黄褐色	紺下		
	14 10YR4/1 黄褐色	紺下		
	15 10YR4/1 黄褐色	紺下		
	16 10YR4/1 黄褐色	紺下		
	17 10YR4/1 黄褐色	紺下		
	18 10YR4/1 黄褐色	紺下		
	19 10YR4/1 黄褐色	紺下		
	20 10YR4/1 黄褐色	紺下		
	21 10YR4/1 黄褐色	紺下		
	22 10YR4/1 黄褐色	紺下		
	23 10YR4/1 黄褐色	紺下		
	24 10YR4/1 黄褐色	紺下		
	25 10YR4/1 黄褐色	紺下		
	26 10YR4/1 黄褐色	紺下		
	27 10YR4/1 黄褐色	紺下		
	28 10YR4/1 黄褐色	紺下		
	29 10YR4/1 黄褐色	紺下		
	30 10YR4/1 黄褐色	紺下		
	31 10YR4/1 黄褐色	紺下		
	32 10YR4/1 黄褐色	紺下		
	33 10YR4/1 黄褐色	紺下		
	34 10YR4/1 黄褐色	紺下		
	35 10YR4/1 黄褐色	紺下		
	36 10YR4/1 黄褐色	紺下		
	37 10YR4/1 黄褐色	紺下		
	38 10YR4/1 黄褐色	紺下		
	39 10YR4/1 黄褐色	紺下		
	40 10YR4/1 黄褐色	紺下		
	41 10YR4/1 黄褐色	紺下		
	42 10YR4/1 黄褐色	紺下		
	43 10YR4/1 黄褐色	紺下		
	44 10YR4/1 黄褐色	紺下		
	45 10YR4/1 黄褐色	紺下		
	46 10YR4/1 黄褐色	紺下		
	47 10YR4/1 黄褐色	紺下		
	48 10YR4/1 黄褐色	紺下		
	49 10YR4/1 黄褐色	紺下		
	50 10YR4/1 黄褐色	紺下		
	51 10YR4/1 黄褐色	紺下		
	52 10YR4/1 黄褐色	紺下		
	53 10YR4/1 黄褐色	紺下		
	54 10YR4/1 黄褐色	紺下		
	55 10YR4/1 黄褐色	紺下		
	56 10YR4/1 黄褐色	紺下		
	57 10YR4/1 黄褐色	紺下		
	58 10YR4/1 黄褐色	紺下		
	59 10YR4/1 黄褐色	紺下		
	60 10YR4/1 黄褐色	紺下		
	61 10YR4/1 黄褐色	紺下		
	62 10YR4/1 黄褐色	紺下		
	63 10YR4/1 黄褐色	紺下		
	64 10YR4/1 黄褐色	紺下		
	65 10YR4/1 黄褐色	紺下		
	66 10YR4/1 黄褐色	紺下		
	67 10YR4/1 黄褐色	紺下		
	68 10YR4/1 黄褐色	紺下		
	69 10YR4/1 黄褐色	紺下		
	70 10YR4/1 黄褐色	紺下		
	71 10YR4/1 黄褐色	紺下		
	72 10YR4/1 黄褐色	紺下		
	73 10YR4/1 黄褐色	紺下		
	74 10YR4/1 黄褐色	紺下		
	75 10YR4/1 黄褐色	紺下		
	76 10YR4/1 黄褐色	紺下		
	77 10YR4/1 黄褐色	紺下		
	78 10YR4/1 黄褐色	紺下		
	79 10YR4/1 黄褐色	紺下		
	80 10YR4/1 黄褐色	紺下		
	81 10YR4/1 黄褐色	紺下		
	82 10YR4/1 黄褐色	紺下		
	83 10YR4/1 黄褐色	紺下		
	84 10YR4/1 黄褐色	紺下		
	85 10YR4/1 黄褐色	紺下		
	86 10YR4/1 黄褐色	紺下		
	87 10YR4/1 黄褐色	紺下		
	88 10YR4/1 黄褐色	紺下		
	89 10YR4/1 黄褐色	紺下		
	90 10YR4/1 黄褐色	紺下		
	91 10YR4/1 黄褐色	紺下		
	92 10YR4/1 黄褐色	紺下		
	93 10YR4/1 黄褐色	紺下		
	94 10YR4/1 黄褐色	紺下		
	95 10YR4/1 黄褐色	紺下		
	96 10YR4/1 黄褐色	紺下		
	97 10YR4/1 黄褐色	紺下		
	98 10YR4/1 黄褐色	紺下		
	99 10YR4/1 黄褐色	紺下		
	100 10YR4/1 黄褐色	紺下		
	101 10YR4/1 黄褐色	紺下		
	102 10YR4/1 黄褐色	紺下		
	103 10YR4/1 黄褐色	紺下		
	104 10YR4/1 黄褐色	紺下		
	105 10YR4/1 黄褐色	紺下		
	106 10YR4/1 黄褐色	紺下		
	107 10YR4/1 黄褐色	紺下		
	108 10YR4/1 黄褐色	紺下		
	109 10YR4/1 黄褐色	紺下		
	110 10YR4/1 黄褐色	紺下		
	111 10YR4/1 黄褐色	紺下		
	112 10YR4/1 黄褐色	紺下		
	113 10YR4/1 黄褐色	紺下		
	114 10YR4/1 黄褐色	紺下		
	115 10YR4/1 黄褐色	紺下		
	116 10YR4/1 黄褐色	紺下		
	117 10YR4/1 黄褐色	紺下		
	118 10YR4/1 黄褐色	紺下		
	119 10YR4/1 黄褐色	紺下		
	120 10YR4/1 黄褐色	紺下		
	121 10YR4/1 黄褐色	紺下		
	122 10YR4/1 黄褐色	紺下		
	123 10YR4/1 黄褐色	紺下		
	124 10YR4/1 黄褐色	紺下		
	125 10YR4/1 黄褐色	紺下		
	126 10YR4/1 黄褐色	紺下		
	127 10YR4/1 黄褐色	紺下		
	128 10YR4/1 黄褐色	紺下		
	129 10YR4/1 黄褐色	紺下		
	130 10YR4/1 黄褐色	紺下		
	131 10YR4/1 黄褐色	紺下		
	132 10YR4/1 黄褐色	紺下		
	133 10YR4/1 黄褐色	紺下		
	134 10YR4/1 黄褐色	紺下		
	135 10YR4/1 黄褐色	紺下		
	136 10YR4/1 黄褐色	紺下		
	137 10YR4/1 黄褐色	紺下		
	138 10YR4/1 黄褐色	紺下		
	139 10YR4/1 黄褐色	紺下		
	140 10YR4/1 黄褐色	紺下		
	141 10YR4/1 黄褐色	紺下		
	142 10YR4/1 黄褐色	紺下		
	143 10YR4/1 黄褐色	紺下		
	144 10YR4/1 黄褐色	紺下		
	145 10YR4/1 黄褐色	紺下		
	146 10YR4/1 黄褐色	紺下		
	147 10YR4/1 黄褐色	紺下		
	148 10YR4/1 黄褐色	紺下		
	149 10YR4/1 黄褐色	紺下		
	150 10YR4/1 黄褐色	紺下		
	151 10YR4/1 黄褐色	紺下		
	152 10YR4/1 黄褐色	紺下		
	153 10YR4/1 黄褐色	紺下		
	154 10YR4/1 黄褐色	紺下		
	155 10YR4/1 黄褐色	紺下		
	156 10YR4/1 黄褐色	紺下		
	157 10YR4/1 黄褐色	紺下		
	158 10YR4/1 黄褐色	紺下		
	159 10YR4/1 黄褐色	紺下		
	160 10YR4/1 黄褐色	紺下		
	161 10YR4/1 黄褐色	紺下		
	162 10YR4/1 黄褐色	紺下		
	163 10YR4/1 黄褐色	紺下		
	164 10YR4/1 黄褐色	紺下		
	165 10YR4/1 黄褐色	紺下		
	166 10YR4/1 黄褐色	紺下		
	167 10YR4/1 黄褐色	紺下		
	168 10YR4/1 黄褐色	紺下		
	169 10YR4/1 黄褐色	紺下		
	170 10YR4/1 黄褐色	紺下		
	171 10YR4/1 黄褐色	紺下		
	172 10YR4/1 黄褐色	紺下		
	173 10YR4/1 黄褐色	紺下		
	174 10YR4/1 黄褐色	紺下		
	175 10YR4/1 黄褐色	紺下		
	176 10YR4/1 黄褐色	紺下		
	177 10YR4/1 黄褐色	紺下		
	178 10YR4/1 黄褐色	紺下		
	179 10YR4/1 黄褐色	紺下		
	180 10YR4/1 黄褐色	紺下		
	181 10YR4/1 黄褐色	紺下		
	182 10YR4/1 黄褐色	紺下		
	183 10YR4/1 黄褐色	紺下		
	184 10YR4/1 黄褐色	紺下		
	185 10YR4/1 黄褐色	紺下		
	186 10YR4/1 黄褐色	紺下		
	187 10YR4/1 黄褐色	紺下		
	188 10YR4/1 黄褐色	紺下		
	189 10YR4/1 黄褐色	紺下		
	190 10YR4/1 黄褐色	紺下		
	191 10YR4/1 黄褐色	紺下		
	192 10YR4/1 黄褐色	紺下		
	193 10YR4/1 黄褐色	紺下		
	194 10YR4/1 黄褐色	紺下		
	195 10YR4/1 黄褐色	紺下		
	196 10YR4/1 黄褐色	紺下		
	197 10YR4/1 黄褐色	紺下		
	198 10YR4/1 黄褐色	紺下		
	199 10YR4/1 黄褐色	紺下		
	200 10YR4/1 黄褐色	紺下		
	201 10YR4/1 黄褐色	紺下		
	202 10YR4/1 黄褐色	紺下		
	203 10YR4/1 黄褐色	紺下		
	204 10YR4/1 黄褐色	紺下		
	205 10YR4/1 黄褐色	紺下		
	206 10YR4/1 黄褐色	紺下		
	207 10YR4/1 黄褐色	紺下		
	208 10YR4/1 黄褐色	紺下		
	209 10YR4/1 黄褐色	紺下		
	210 10YR4/1 黄褐色	紺下		
	211 10YR4/1 黄褐色	紺下		
	212 10YR4/1 黄褐色	紺下		
	213 10YR4/1 黄褐色	紺下		
	214 10YR4/1 黄褐色	紺下		
	215 10YR4/1 黄褐色	紺下		
	216 10YR4/1 黄褐色	紺下		
	217 10YR4/1 黄褐色	紺下		
	218 10YR4/1 黄褐色	紺下		
	219 10YR4/1 黄褐色	紺下		
	220 10YR4/1 黄褐色	紺下		
	221 10YR4/1 黄褐色	紺下		
	222 10YR4/1 黄褐色	紺下		
	223 10YR4/1 黄褐色	紺下		
	224 10YR4/1 黄褐色	紺下		
	225 10YR4/1 黄褐色	紺下		
	226 10YR4/1 黄褐色	紺下		
	227 10YR4/1 黄褐色	紺下		
	228 10YR4/1 黄褐色	紺下		
	229 10YR4/1 黄褐色	紺下		
	230 10YR4/1 黄褐色	紺下		
	231 10YR4/1 黄褐色	紺下		
	232 10YR4/1 黄褐色	紺下		
	233 10YR4/1 黄褐色	紺下		
	234 10YR4/1 黄褐色	紺下		
	235 10YR4/1 黄褐色	紺下		
	236			

第3表 第147次調查区土壤鉛容積

遺物は抜き取りより土師器壺、須恵器壺、須恵器杯、その他多数の土師器、須恵器の小破片が出土している。

SU2101 : 2102 : 2103 跡跡に切られている。

SA2005b材木列 上幅60~90cmの溝状の抜き取り底面において、掘り方と直径10~15cmの柱痕跡が検出された。

抜き取られた際の深度は一定しておらず、柱痕跡底面よりも深く抜き取られた箇所もある。柱痕跡の方向はN-34°-Eであるが北端部では東に屈曲しN-40°-Eとなる。検出した総長は約24mである。

遺物は抜き取りより土師器、須恵器の小破片が少量、掘り方より土師器の小破片が出土している。

SA2005a材木列を切り、SA1283材木列、SB2045掘立柱建物跡、SD2086・2102・2103・2104・2106・2116溝跡、SX2093性格不明遺構に切られている。

SA2005a材木列 SA2005b北端部で先行する材木列掘り方と直径15cm程の柱痕跡を検出した。柱痕跡の方向はN-34°-Eである。検出した縦長は約6.4mである。遺物は出土していない。

SA2005b材木列、SX2093性格不明遺構に切られている。

SA1283材木列 調査区南西隅で検出した材木列で、第85次調査B区で発見されたSD1283溝跡の延長部分と考えられる。上幅35~95cmで、溝状の抜き取り底面で、掘り方とその内部から直径15~20cmの柱痕跡を検出した。抜き取られた際の深度は一定しておらず、材木列掘り方より深く抜き取りを受けている箇所も見られる。柱痕跡の方向はE-5° -Nである。検出した総長は約10.2mである。

遺物は抜き取りより土師器、須恵器、弥生土器の小破片が少量、掘り方埋土より頂部に木葉痕が明瞭な弥生土器B-300蓋（第17図15）、その他弥生土器の小破片が出土している。

SA2005b材木列を切り、SD2086・2087・2088・2089溝跡に切られている。

SB2045掘立柱建物跡 柱行2間（総長4.2m~4.4m、柱間寸法210~230cm）、桁行4間（総長7~7.1m、柱間寸法155~190cm）の南北棟の掘立柱建物跡である。方向は東桁行でN-1° -Wである。西桁行では柱痕跡の出入りが見られる。柱穴は一辺50~70cm程の隅丸長方形で、柱痕跡は直径20~28cm程の円形、または梢円形である。抜き取りは認められない。

遺物はS1E1、S4E1柱穴掘り方埋土より須恵器の小破片が少量、S2E3、S3E3、S4E3、S5E2、S5E3各柱穴掘り方埋土より土師器の小破片が少量、S3E1柱穴掘り方埋土より鉢が出土している。

SA2005b材木列、SD2102・2103溝跡、SX2093性格不明遺構を切る。

SB2050掘立柱建物跡 東西2間（総長3.8m、柱間寸法190cm）、南北2間（総長4.8m、柱間寸法240cm）の総柱建物跡である。方向は東柱列でN-28° -Eである。柱穴の掘り方は一辺55~120×75~115cmの隅丸方形または長方形で、柱痕跡は直径20~25cm程である。柱痕跡には抜き取りが施されている。S2E2柱穴では柱痕跡が確認できなかった。

遺物は抜き取りからはS3E3柱穴より沈線文が施された弥生土器B-295鉢（第17図7）、その他S2E1、S2E3、S3E2、S3E3各柱穴より弥生土器の破片が少量、

S3E1より土師器、須恵器の小破片が少量、S3E3より土師器の小破片が少量、掘り方からはS2E2より土師器甕などの土師器の破片が出土している。

SD2086・2087・2088・2089溝跡に切られている。

SD2000溝跡 上幅240cm以上の溝跡であり、調査区北端を東西に横断する。平成13年度に調査した第138次調査で発見された方四町II官街外溝であるSD2000溝跡の西延長部分と考えられる。方向は遺構南端でE-1° -Sである。検出した総長は約11.1mである。堆積土は3層以上確認された。第138次調査のSD2000溝跡の堆積土は6層に分層され、検出面から底面までの深さは120cm程である。今回の調査では検出面より30~40cm程掘下げ、第1~3層までに相当する。そのうち第2層は灰白色の火山灰である。

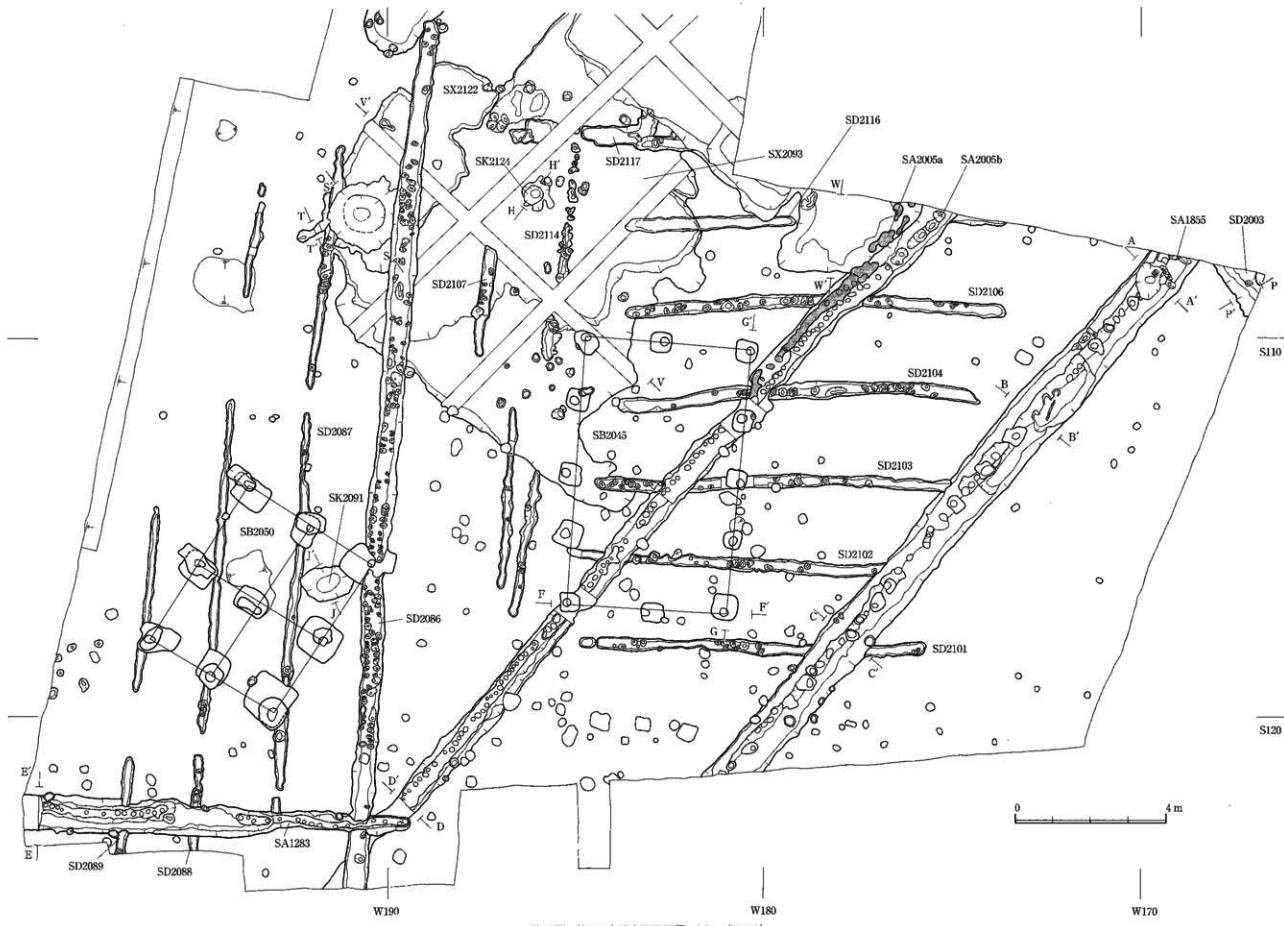
遺物は1層より底部が回転糸切り無調整の土師器D-93甕（第7図1）、波状紋のある須恵器甕、ロクロ使用の土師



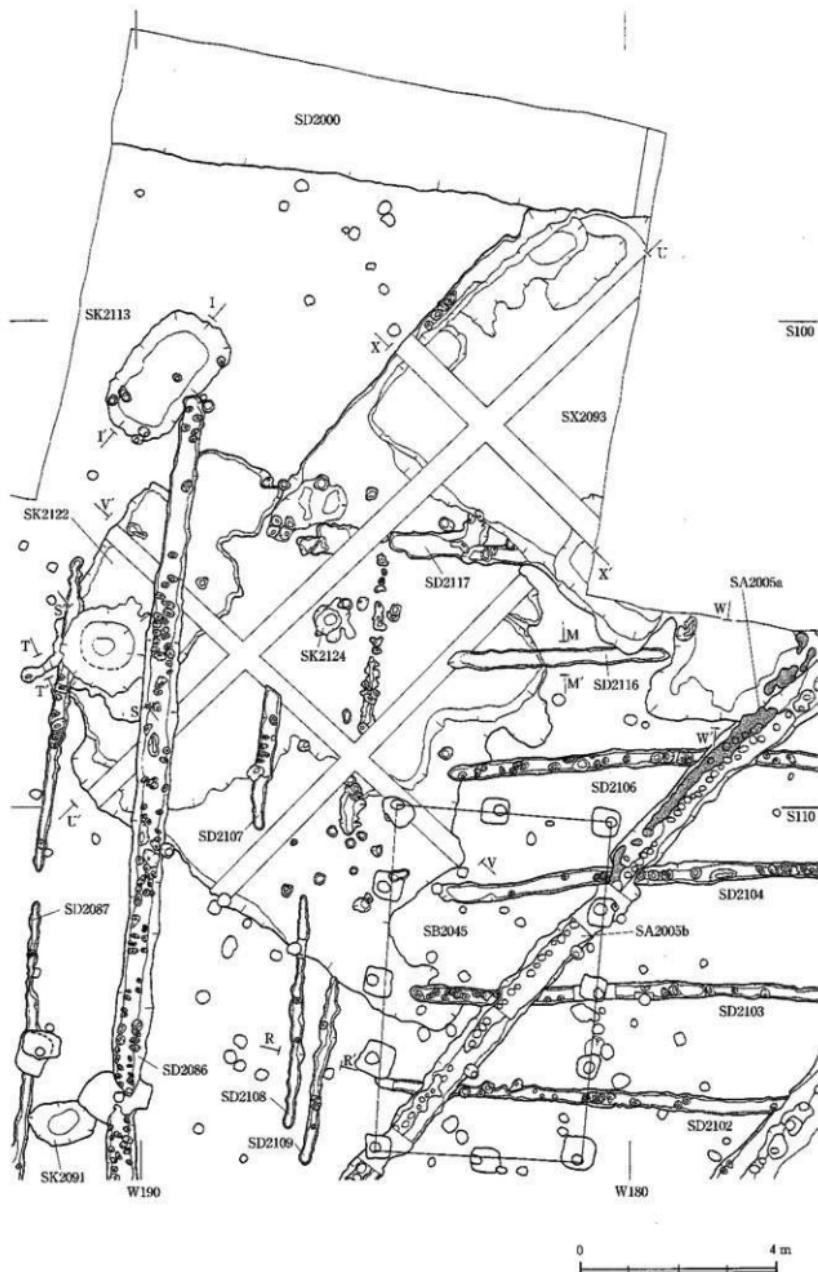
1 SB2045掘立柱建物跡



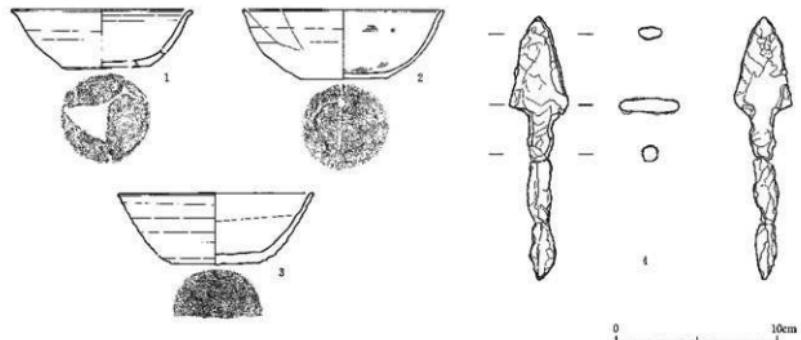
2 SB2050掘立柱建物跡



第5図 第147次調査区平面図 (1) (1/100)



第6図 第147次調査区平面図 (2) (1/100)



第7圖 SD2000遺跡出土遺物

参考番号	規格番号	種類	曲面	用土量	土質	備考	法 直 (m)		外 菲 國 塘		内 菲 計	内 菲 計
							直	斜	直	斜		
D-93	土壓錐	杯	SU2000	1	標準高約3.7	土壓錐11.4 底面積約5.5	口鉢形	偏角約10度	底面凹凸無引出	ロクロナ	100	
D-94	上部錐	杯	SU2000	3	標準高約3.7	口徑12.5 底面積約5.3	シラコボ	底面凹凸無引出	ヘラミガボ	内面黑色地色	99	
E-489	後部錐	杯	SU2000	3	標準高約3.7	口徑12.1 底面積約4.4	口鉢形	偏角約10度	底面凹凸無引出	ロクロナ	100	
E-122	全面錐	曲面	SU2000	3	全面高約3.7 底面積約4.4	偏角約10度	偏角約10度	偏角約10度	偏角約10度	偏角約10度	122	

器を含む多数の土師器の破片、3層より内面が黒色処理され、底部が回転糸切り無調整の土師器D-94坏（第7図2）、底部が回転ヘラ切り後にナデ調整された須恵器E-489坏（第7図3）、N-122鉄錠（第7図4）、内外面に漆の付着した横断あるいは長颈瓶、須恵器壺、瓦の小破片、その他多数の土師器の破片が出土している。

SX2093性格不明消機を切る。

SD2003溝跡 上幅115~140cm、底面幅は18cm程、深さ30cm程度で、断面形は船底形の溝跡である。平成13年度の第138次調査で発見されたSD2003溝跡の西延長部分と考えられる。壁は北壁は角度を持って立ち上がるが、南壁は緩やかに立ち上がり、底面にはやや凹凸がある。方向はN-53°-Wである。堆積土は2層である。遺物は出土していない。

SD2086溝跡 上幅42~76cm、底面幅25~50cm、深さ80cm程度で、断面形は逆台形である。壁は傾斜をもって直線的に立ち上がり、底面はおむね平坦であるが鎌先状の痕跡の凹凸がある。方向は南部ではN-3°-Wであるが、北部ではN-0°-Eとなり、北端で浅くなり途切れている。検出した総長は23mである。堆積土は2層である。

造物は1層より大型の弥生土器B-306壺(第17図16)、平瓦小片、口縁部が屈曲する関東系の土器坏片、その他多数の土器部、須恵器の破片、2層より隆帯が施された弥生土器B-305壺(第17図13)が、底面より弥生土器B-296鉢(第17図2)、弥生土器B-297鉢(第17図1)、弥生土器B-298小破片(第17図6)などが出土している。

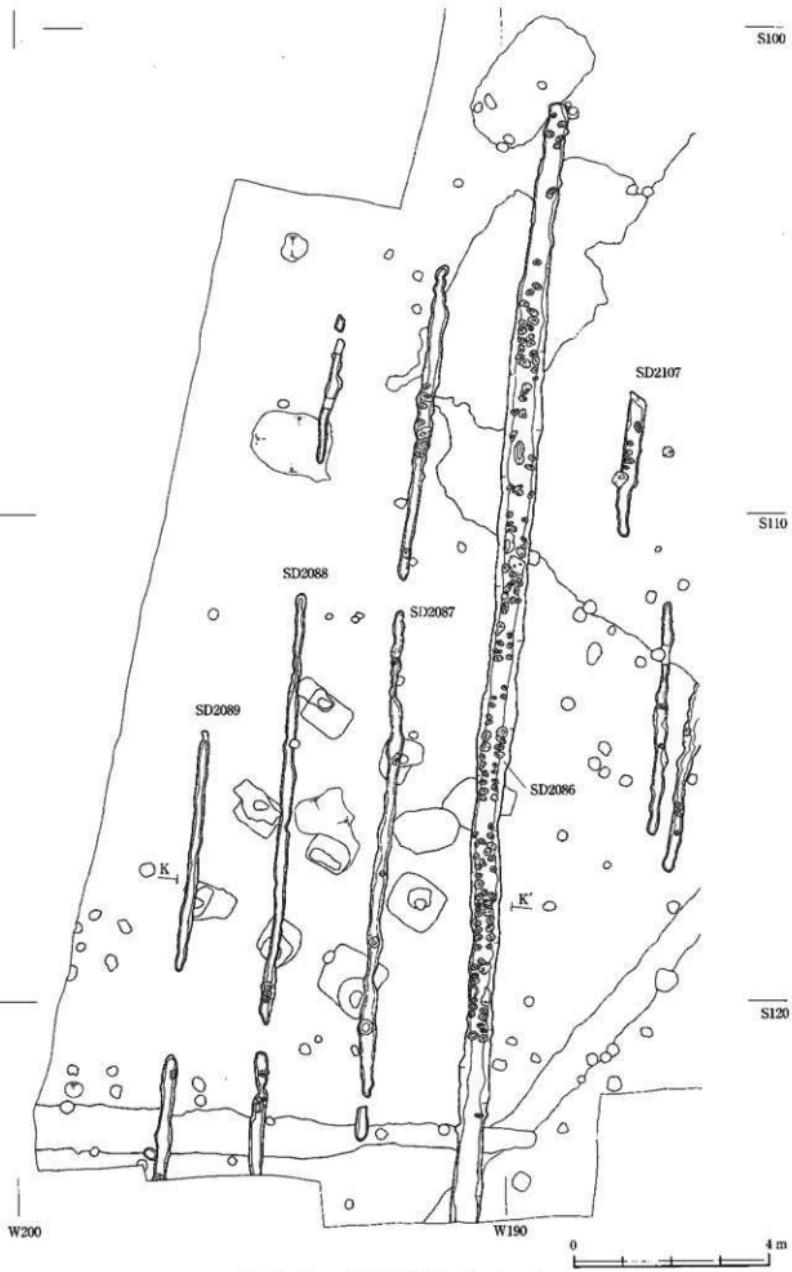
SA1283・2005b材木列、SB2050櫛柱建物跡、SK2113土坑、SX2093・2122性格不明遺構を切っている。

SD2087溝跡 上幅10~40cm、底面幅3~25cm程、深さ7~13cm程で、断面形は逆台形の溝跡である。壁は傾斜をもって直線的に立ち上がり、底面はおおむね平出であるが一部に凹凸が著しい箇所がある。方向は南部ではN- 2° 、-Wであるが、北部ではN- 2° 、-Eとなる。検出した総長は18mである。堆積土は1層である。

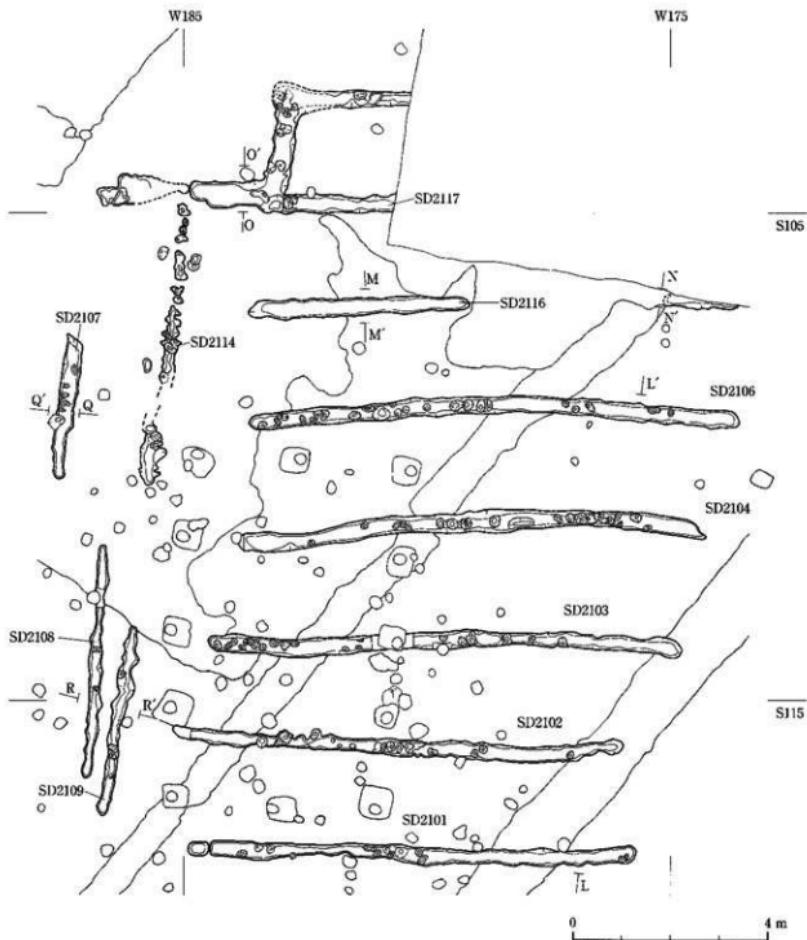
遺物は土師器の破片が少量出土している。

SA1283材木列、SB2050掘立柱建物跡、SX2093・2122性格不明遺構を切る。

SD2088溝跡 上幅10~30cm、底面幅5~18cm程、深さ5~6cm程で、断面形は逆台形の溝跡である。壁は傾斜をもって直線的に立ち上がり、底面はおおむね平坦であるが一部に凸凹が著しい箇所がある。方向は南部ではN- 2° -Wであるが、北部ではN- 2° -Wとなる。検出した総長は17.7mである。堆積土は1層である。



第8図 第147次調査区平面図 (3) (1/100)



第9図 第147次調査区平面図(4) (1/100)

遺物は突起が2箇所あるN-123鉄片、土師器や須恵器の破片が少量出土している。

SA1283木材列、SB2050掘立柱建物跡を切る。

SD2089溝跡 上幅18~32cm、底面幅8~24cm程、深さ5cm程で、断面形は逆台形の溝跡である。壁は傾斜をもって直線的に立ち上がり、底面はおおむね平坦であるが一部に凹凸が著しい箇所がある。方向はN-1°~Wである。検出した総長は9.3mである。堆積土は1層である。

遺物は土師器、弥生土器の破片が少量出土している。

SA1283木材列、SB2050掘立柱建物跡を切る。

SD2101溝跡 上幅14~34cm、底面幅10~28cm程、深さ5~7cm程で、断面形は偏平なU字形の溝跡である。壁は傾斜をもって直線的に立ち上がり、底面は凹凸が著しい箇所がある。方向はE-5°-Nである。検出した総長は9.2mである。堆積土は1層である。

遺物は上師器の破片が少量出土している。

SA1855材木列を切る。

SD2102溝跡 上幅15~32cm、底面幅10~22cm程、深さ10~12cm程で、断面形は偏平なU字形の溝跡である。壁は傾斜をもって直線的に立ち上がり、底面は一部に凹凸が著しい箇所がある。方向は西部ではE-3°-Nであるが、東端部で北に屈曲する。検出した総長は9.25mである。堆積土は1層である。

遺物は土師器、須恵器の破片が少量出土している。

SA1855・2005b材木列を切り、SB2045掘立柱建物跡に切られている。

SD2103溝跡 上幅20~35cm、底面幅10~28cm程、深さ5cm程で、断面形は偏平なU字形の溝跡である。壁は傾斜をもって直線的に立ち上がり、底面は一部に凹凸が著しい箇所がある。方向はE-9°-Nであるが、東端は南に、西端は北に屈曲する。検出した総長は9.7mである。堆積土は1層である。

遺物は上師器の小破片が2点出土している。

SA1855・2005b材木列、SX2093性格不明遺構を切り、SB2045掘立柱建物跡に切られている。

SD2104溝跡 上幅28~50cm、底面幅14~30cm程、深さ15cm程で、断面形は偏平なU字形の溝跡である。壁は傾斜をもって直線的に立ち上がり、底面は一部に凹凸が著しい箇所がある。方向はE-9°-Nであるが、両端部は南に屈曲する。検出した総長は9.6mである。堆積土は1層である。

遺物は多量の土師器の破片と須恵器の破片3点が出土している。

SA2005b材木列を切る。

SD2106溝跡 上幅26~40cm、底面幅16~22cm程、深さ7~15cm程で、断面形は偏平なU字形の溝跡である。壁は傾斜をもって直線的に立ち上がり、底面は一部に凹凸が著しい箇所がある。方向は東部ではE-2°-Nであるが、西部ではE-11°-Nである。検出した総長は10.1mである。堆積土は1層である。

遺物は多量の土師器の破片と須恵器の破片3点が出土している。

SA2005b材木列、SX2093性格不明遺構を切る。

SD2107溝跡 上幅18~34cm、底面幅12~30cm程、深さ12cm程で、断面形は偏平なU字形の溝跡である。壁は傾斜をもって直線的に立ち上がり、底面はおおむね平坦であるが一部に凹凸が著しい箇所がある。方向は西部ではN-0°-Eである。検出した総長は3m程である。堆積土は1層である。

遺物は多量の土師器の破片と須恵器の小破片1点が出土している。

SX2093性格不明遺構を切る。

SD2108溝跡 上幅10~28cm、底面幅6~8cm程、深さ6cm程で、断面形は偏平なU字形の溝跡である。壁は傾斜をもって直線的に立ち上がり、底面はおおむね平坦であるが一部に凹凸が著しい箇所がある。方向はN-3°-Wである。検出した総長は4.8mである。堆積土は1層である。遺物は出土していない。

SX2093性格不明遺構を切る。

SD2109溝跡 上幅16~30cm、底面幅6~16cm程、深さ5cm程で、断面形は舟底形の溝跡である。壁は緩やかに立ち上がり、底面はおおむね平坦であるが一部に凹凸が著しい箇所がある。方向はN-2°-Eである。検出した総長は3.9mである。堆積土は1層である。遺物は出土していない。

SX2093性格不明遺構を切る。

SD2114溝跡 上幅10~50cm、底面幅4~20cm、深さ5cm程で、断面形は偏平なU字形の溝跡である。遺構の前

平が著しく、北部は底面の凹凸が著しい箇所のみ検出できた。方向はN-2° -Wである。検出した総長は5.8mである。堆積土は1層である。

遺物は内面が黒色処理された土師器壺や高壺を含む土師器の破片が少量出土している。

SX2093性格不明遺構を切る。

SD2116溝跡 上幅24~36cm、底面幅20~28cm程、深さ15cm程で、断面形は偏平なU字形の溝跡である。壁は傾斜をもって直線的に立ち上がり、底面はおおむね平坦であるが一部に凹凸が著しい箇所がある。方向はE-8° -Nである。検出した総長は10.1mである。堆積土は1層である。

遺物は多量の土師器、須恵器の破片が出土している。

SA2005b木材列、SX2093性格不明遺構を切る。

SD2117溝跡 平面形がコの字状の溝跡であるが南辺が西側に突出し井桁状となる。上幅28~60cm、底面幅15~45cm程、深さ30cm程で、断面形は偏平なU字形の溝跡である。壁は傾斜をもって直線的に立ち上がり、底面はおおむね平坦であるが一部に凹凸が著しい箇所がある。方向は南部ではE-6° -Nで、西部ではN-1° -Wである。堆積土は1層である。

遺物は多量の須恵器、土師器の破片が出土している。

SX2093性格不明遺構を切る。

SK2091土坑 東西1.4m、南北0.86mの土坑で、深さは13cm程である。壁は緩やかに立ち上がり、底面はほぼ平坦である。堆積土は1層である。遺物は出土していない。

SB2050掘立柱建物跡、SD2086溝跡に切られている。

SK2113土坑 東西1.5~1.6m、南北2.85mの土坑で、深さは15cm程である。壁は緩やかに立ち上がり、底面はほぼ平坦である。堆積土は1層である。

遺物は須恵器壺を含む土師器、須恵器の破片が少量出土している。

SD2086溝跡に切られている。

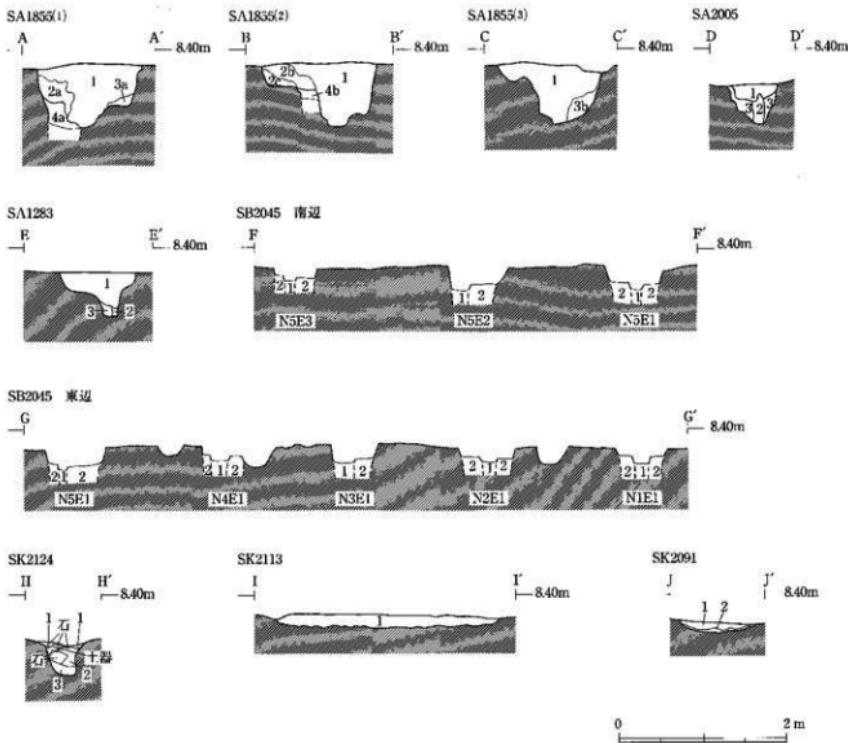
SK2124土坑 東西0.7m、南北0.9mの土坑で、深さは40cm程である。壁は角度を持って立ち上がり、底面はほぼ平坦である。堆積土は3層である。

遺物は1層より土師器、須恵器の破片が少量、2層より土師器、須恵器の破片が少量と切石が出土している。

SX2093性格不明遺構に切られている。

SX2093性格不明遺構 調査区の北部で検出された遺構である。東西10.7m、南北16.4m以上で、深さは北半部が30~45cm、南部は15~25cmである。底面の形状からはおおむね2面に分かれ、北半部が南半部より一段深く掘り込まれている。方向は西辺でN-35° -Eで、南辺はE-30° -Sあるが、東辺は不整形である。堆積土は3層である。

遺物は各層より出土しており、第1層中より小型で口縁部が直線状に開く土師器C-943壺（第13図4）、小型で平底風の土師器C-944壺（第13図5）、小型で口縁部が直線的に外傾する土師器C-970壺（第13図6）、内外面に明瞭な段または棱を有さない土師器C-945壺（第14図1）、体部と口縁部の境に段が付く土師器C-947壺（第13図20）、体部外面に明瞭な段を有し、口縁部が直立気味に内湾する土師器C-948壺（第13図22）、平底風の土師器C-952壺（第13図8）、口縁部がやや外反気味に開く土師器C-953壺（第14図4）、丸底で体部が直線的に開く土師器C-955壺（第14図6）、丸底で体部と口縁部の境に明瞭な沈線状の段が付く土師器C-957壺（第13図11）、内面に明瞭な段を有さない丸底の土師器C-964壺（第13図10）、口縁部から体部の段までの短い土師器C-965壺（第13図7）、平底風で、口縁部が直線的に外傾する土師器C-966壺（第13図21）、火熱を受けて変色し、体部外面に明瞭な段を有する土師器C-967壺（第14図3）、外面に不明瞭な段を有する土師器C-946高壺（第14図8）、有窓で壺部外面の屈曲が明瞭な土師器C-941高壺（第14図12）、壺部が皿状で大型の土師器C-968高壺（第14図7）、脚部の広がりが顕著で小型の土師器



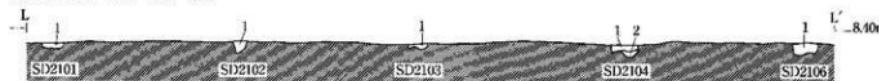
地層名	層位	土性	標本	地層名	層位	土性	標本
SA1855 A-A' - B-B' - C-C'							
1	10YR4/3	にぶい黄褐色	粘土	1	10YR3/2	黒褐色	粘土
2a	10YR7/2	にじみ黄褐色	粘土	2	10YR4/2	灰黃褐色	粘土
2b	10YR8/1	灰褐色	粘土	3	10YR5/6	黃褐色	糊り力強土
2c	10YR7/3	にじみ黄褐色	粘土	4	10YR5/2	黒褐色	粘土
3a	10YR7/2	にじみ黄褐色	粘土	5	10YR6/4	にじみ黄褐色	粘土
3b	10YR8/2	灰褐色	粘土質シルト	6	10YR4/2	灰黃褐色	糊り力強土
4a	10YR7/1	灰褐色	粘土質シルト	7	10YR3/2	黒褐色	粘土
4b	10YR7/3	にじみ黄褐色	粘土質シルト	8	10YR4/2	灰黃褐色	粘土
SA2005 D-D'							
1	10YR3/2	黒褐色	粘土	1	10YR3/2	黒褐色	粘土
2	10YR4/1	灰褐色	粘土	2	10YR4/2	灰黃褐色	粘土
3	10YR5/2	灰黃褐色	粘土	4	10YR5/6	黃褐色	糊り力強土
SA1855 E-E'							
1	10YR3/2	黒褐色	粘土	1	10YR3/2	黒褐色	粘土
2	10YR4/4	にじみ黄褐色	粘土	2	10YR4/2	灰黃褐色	粘土
3	10YR4/4	黒褐色	粘土	4	10YR5/2	黒褐色	粘土
SK2124 H-H'							
1	25Y4/1	灰褐色	粘土	1	10YR4/2	灰黃褐色	粘土
2	7.5Y4/1	灰色	粘土	2	10YR5/6	黃褐色	糊り力強土
3	25Y5/1	青灰色	粘土	4	10YR4/2	灰黃褐色	粘土
SK2113 I-I'							
1	10YR2/2	黒褐色	粘土	1	10YR3/2	黒褐色	粘土質シルト
2	10YR4/2	灰黃褐色	粘土	2	10YR3/4	暗褐色	粘土質シルト
3	10YR5/2	灰黃褐色	粘土				
SK2091 J-J'							
				1	10YR3/2	黒褐色	粘土質シルト
				2	10YR3/4	暗褐色	粘土質シルト

第10図 第147次造構断面図(1)(1/60)

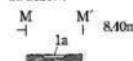
SD2086・2087・2088・2089



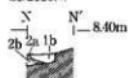
SD2101・2102・2103・2104・2106



SD2116(1)



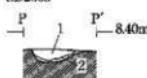
SD2116(2)



SD2117



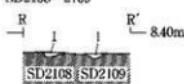
SD2003



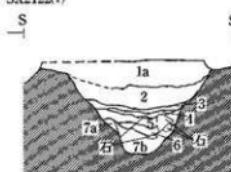
SD2107



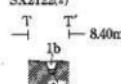
SD2108・2109



SX2122(1)



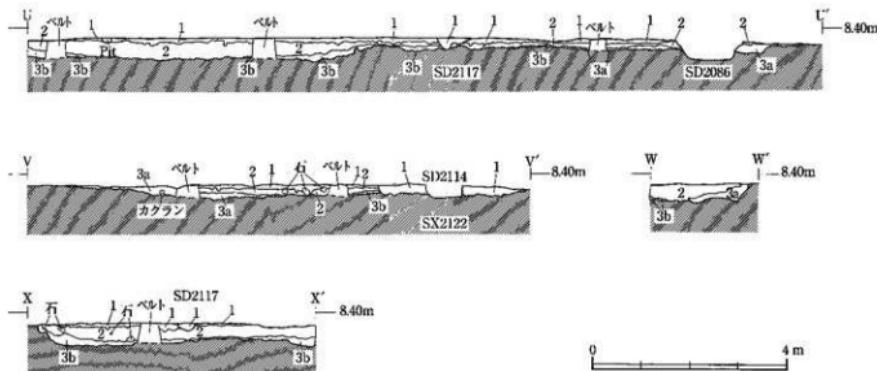
SX2122(2)



0 2 m

地層名・層位	土色	土性	標 級	地層名・層位	土色	上 賦	標 級
SD2086・2087・2088・2089 K-K'				SX2003 P-P'			
1 a 10YR5/1 黄灰褐色	粘 土	マンゴン粒を含む		1 10YR5/2 黄褐色	シルト		
SD2086 1 10YR5/1 黄灰褐色	粘 土	黄褐色砂土を斑状に含む		2 10YR5/2 黄褐色	粘 土	マンゴン粒、火山灰を微量に含む	
2 10YR5/2 黄灰褐色	粘 土	黄褐色砂土をブロック状に多量に含む		SX2007 Q-Q'			
SD2087 1 b 10YR5/2 黄灰褐色	粘 土	泥化物を少量含む		1 10YR5/2 黄褐色	粘 土	にぶい黄褐色粘土をブロックで含む	
1 c 10YR5/2 にぶい黄褐色	粘 土			SX2108 1 10YR6/2 黄褐色	粘 土		
SD2088 1 a 10YR5/2 黄灰褐色	粘 土	マンゴン粒、泥化物を含む		SX2108 3 10YR5/4 にぶい黄褐色	粘 土	白色粘土をブロック状に含む	
1 b 10YR5/1 黄灰褐色	粘 土			SX2122 S-S' 7-T'			
SD2089 1 10YR5/3 にぶい黄褐色	粘 土	マンゴン、砂粒を少量含む		10YR7/4 にぶい黄褐色	粘 土		
SD2102 2103・2104・2106 L-L'				1 a 10YR3/2 黄褐色	粘 土		
SD2101 1 10YR5/2 黄灰褐色	粘 土	褐色砂土を少量含む		10YR4/2 黄褐色	粘 土	混合層（人為堆積）	
SD2102 1 10YR5/2 黄灰褐色	粘 土	白色粘土をブロック状に含む		10YR4/2 黄褐色	砂質粘土		
SD2103 1 10YR5/3 にぶい黄褐色	粘 土	褐色砂土を少量含む		1 b 10YR4/2 黄褐色	粘 土		
SD2104 1 10YR5/1 黄灰褐色	粘 土			1 c 10YR4/3 にぶい黄褐色	粘 土		
2 10YR6/1 黄褐色	粘 土	褐色砂土を少量含む		2 2.5YR4/4 黄褐色	粘 土		
SD2105 1 10YR6/1 黄褐色	粘 土	マンゴンを少量含む		3 10YR3/1 黄褐色	粘 土		
SD2111 M-M'・N-N'				4 10YR4/5 鮮紅色	砂 砂		
1 a 10YR5/4 にぶい黄褐色	粘 土	にぶい黄褐色砂土を含む		5 10YR2/1 黄褐色	砂 砂		
1 b 10YR5/3 にぶい黄褐色	シルト質粘土			6 10YR4/4 黄褐色	粘 土		
2 a 10YR5/2 にぶい黄褐色	粘 土			7 a 2.5Y7/2 黄褐色	粘 土	白色粘土を微量に含む	
2 b 10YR5/2 黄褐色	粘 土	白色砂土を含む		7 b 2.5Y7/2 黄褐色	粘 土	白色砂土を微量に含む	
SD2117 O-O'							
1 10YR5/2 黄褐色	粘 土						
2 10YR4/2 黄褐色	粘 土	混合層					
3 10YR5/3 にぶい黄褐色							

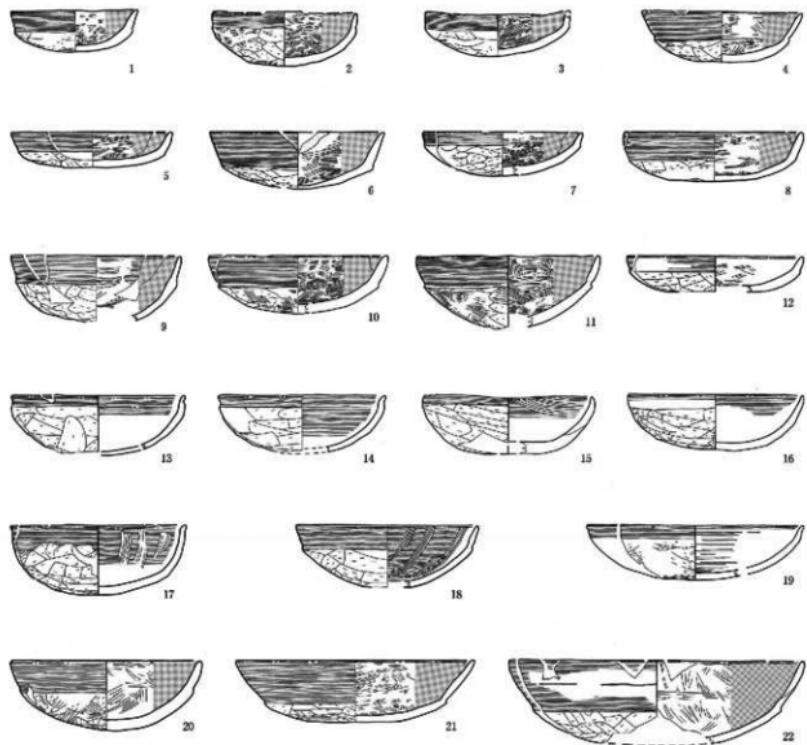
第11図 第147次透構断面図(2) (1/60)



第12図 SX2093断面図 (1/100)

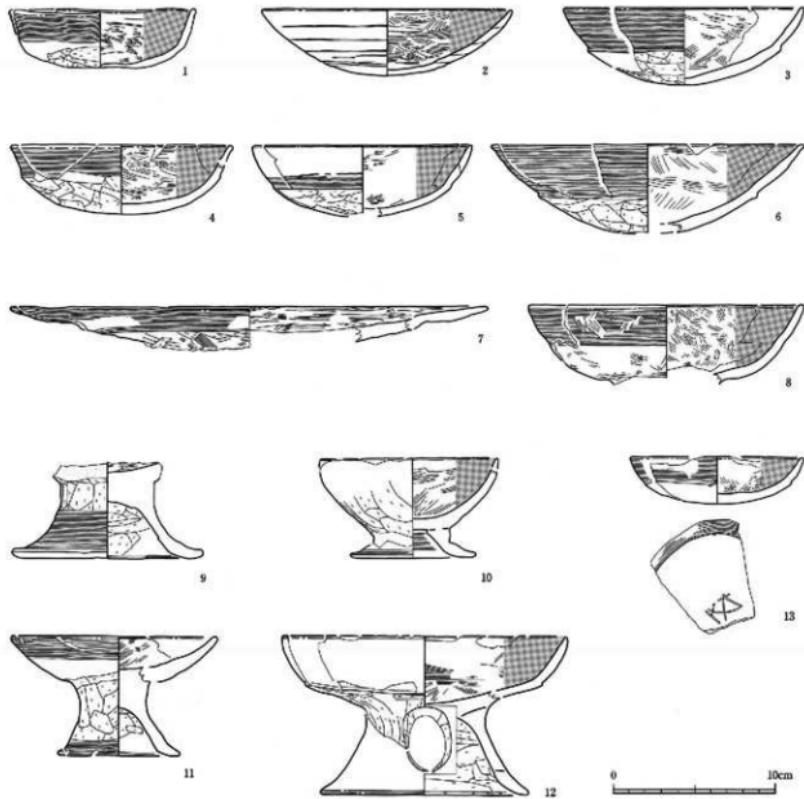
C-969高坏 (第14図9)、坏部が小形の土師器C-971高坏 (第14図11)、口縁部がS字に屈曲する半球形の関東系土師器C-942坏 (第13図13)、C-963坏 (第13図14)、C-974坏 (第13図17)、外面に稜を有し、口縁部が外傾するが内面が関東系土師器の発色を呈するC-975坏 (第13図18)、丸底の須恵器E-482坏 (第16図11)、内外面ロクロ目が明瞭で、口縁部がくの字に内湾する須恵器E-494坏 (第16図8)、平底で底部がヘラケズリされた須恵器E-497坏 (第16図10)、小型でカエリがあり、上部に自然釉が顕著な須恵器E-478蓋 (第16図3)、ツマミが欠損した大型で天井部に丸みをもつ須恵器E-480蓋 (第16図6)、カエリがあり扁平な須恵器E-481蓋 (第16図7)、焼成時に蓋頸を載せていた可能性がある須恵器E-477脚付盤 (第15図6)、外面にボタン状の突審が付き、内面に使用痕跡が観察される須恵器E-479擂鉢 (第15図4)、脚部に装飾性のない須恵器E-483高坏 (第15図5)、小片ではあるが火熱を受けたと見られる土師器C-958坏 (第13図12)、その他N-119刀子 (第15図7)、N-120不明品 (写真94)、N-121金具 (写真93) が出土している。

第2層中よりは外面に輪積み痕跡があるハの字状に開く形態の土師器C-954坏 (第14図2)、小型で口縁部が直立する土師器C-960坏 (第13図1)、C-962坏 (第13図3)、丸底で口縁部が直線気味に内湾する土師器C-949坏 (第14図5)、内面が黒色処理された小型の土師器C-961坏 (第13図2)、小型で口縁部が内湾気味となる半球形の関東系土師器C-950坏 (第13図15)、口径が13.6cm程度で、口縁部がS字に屈曲する小型の関東系土師器C-973坏 (第13図19)、体部から短く脚部が開く土師器C-972高坏 (第14図10)、平底風で扁平な須恵器E-496坏 (第16図9)、小型でカエリを持つ天井部に丸みをもつ須恵器E-484蓋 (第16図5)、小型でカエリを持ち、ツマミが欠損した須恵器E-486蓋 (第16図2)、小型でカエリを持ち、ツマミが中心から離れて付けられた須恵器E-487蓋 (第16図4)、脚部のみの須恵器E-490高坏 (写真97)、E-479擂鉢と類似した須恵器E-493擂鉢 (写真90)、口縁部のみの須恵器E-495長颈瓶片 (第15図3)、第2層底面よりカエリがあり、ツマミが欠損した須恵器E-488蓋 (第16図1)、口径が42.6cm程度と推定される須恵器E-492盤 (第15図2) が出土している。



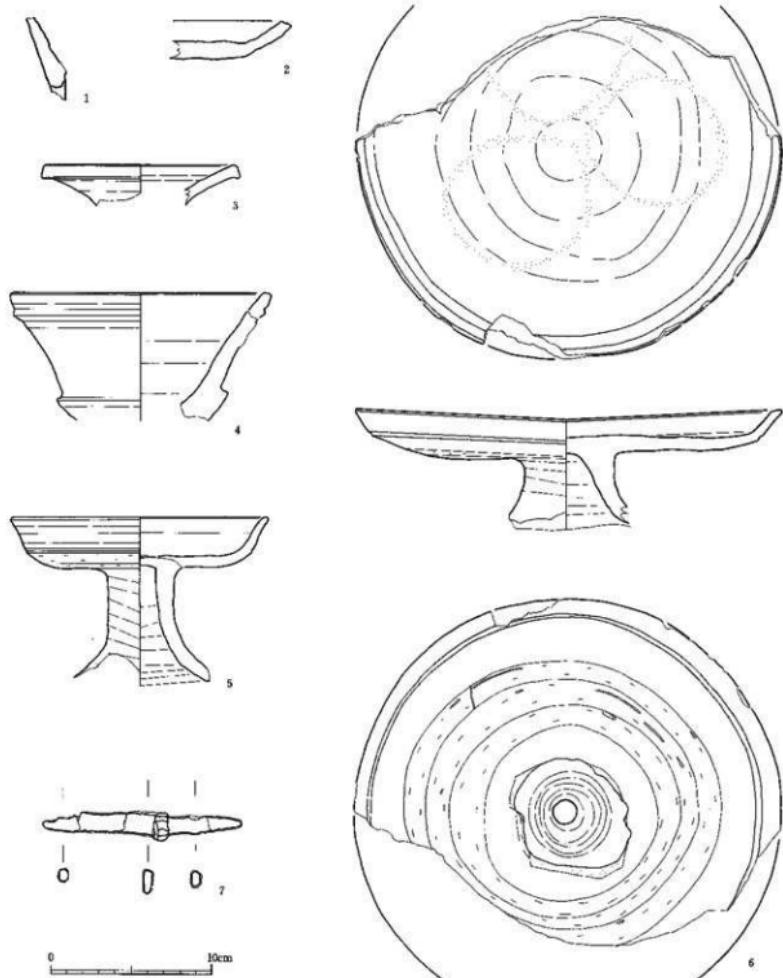
第147次調査区出土遺物(1)

器種 番号	登録 番号	種別	器形	出土場所 位置	法 長(cm)	外 面 圖 案	内 面 圖 案	備 考	写真 番號	
1	C-960	土師器	坪	SX2093	2	器高2.6 口徑7.9	口縁部ヨコナデ、底部ハラケヅリ	ヘラミガキ・黒色処理	38	
2	C-961	土師器	坪	SX2093	2	器高3.9 口徑8.9	口縁部ヨコナデ、各部ハラケヅリのちヘラミガキ、ヘラケヅリ	ヘラミガキ・黒色処理	39	
3	C-962	土師器	坪	SX2093	2	器高2.6 口徑8.9	口縁部ヨコナデ、底部ハラケヅリ	ヘラミガキ・黒色処理	40	
4	C-943	土師器	坪	SX2093	1	器高3.1 口徑10.6	口縁部ヨコナデ、底部ハラケヅリ	ヘラミガキ・黒色処理	43	
5	C-944	土師器	坪	SX2093	1	器高2.2 口徑10.6	口縁部ヨコナデ、底部ハラケヅリ	ヘラミガキ・黒色処理	41	
6	C-970	土師器	坪	SX2093	1	器高4.6 口徑10.8	口縁部ヨコナデ、底部ハラケヅリ	ヘラミガキ・黒色処理	56	
7	C-965	土師器	坪	SX2093	1	器高2.7 口徑9.8	口縁部ヨコナデ、底部ハラケヅリ	ヘラミガキ・黒色処理	63	
8	C-962	土師器	坪	SX2093	1	器高3.1 口徑11.2	口縁部ヨコナデ、底部ハラケヅリ	ヘラミガキ・黒色処理	42	
9	C-951	土師器	坪	SX2093	3	器高4.1 口徑10.6	口縁部ヨコナデ、底部ハラケヅリ	ヘラミガキ・黒色処理	74	
10	C-964	土師器	坪	SX2093	1	器高3.7 口徑11.0	口縁部ヨコナデ、底部ハラケヅリのちヘラミガキ	黒化放付審	44	
11	C-967	土師器	坪	SX2093	1	器高4.4 以降	口縁部ヨコナデ、底部ハラケヅリのちヘラミガキ	ヘラミガキ・黒色処理	45	
12	C-968	土師器	坪	SX2093	1	器高2.3 口徑11.6	口縁部ヨコナデ、底部ハラケヅリ	ヘラミガキ・黒色処理	再発化の可能性あり	52
13	C-942	土師器	坪	SX2093	1	器高3.3 口徑10.8	口縁部ヨコナデ、底部ハラケヅリ	ヨコナデ	47	
14	C-963	土師器	坪	SX2093	1	器高3.5 口徑10.4	口縁部ヨコナデ、底部ハラケヅリ	ヨコナデ	53	
15	C-960	土師器	坪	SX2093	2	器高3.6 口徑10.4	口縁部ヨコナデ、底部ハラケヅリ	ヨコナデ	48	
16	C-966	土師器	坪	SX2093	3	器高3.5 口徑10.9	口縁部ヨコナデ底部、底部ハラケヅリ	口縁部ヨコナデ、底部ハラケヅリ	49	
17	C-974	土師器	坪	SX2093	1	器高4.4 口徑11.0	口縁部ヨコナデ、底部ハラケヅリ	ヨコナデ→ヘラミガキ	54	
18	C-975	土師器	坪	SX2093	1	器高3.9 口徑11.4	口縁部ヨコナデ、底部ハラケヅリ	ヨコナデ→ヘラミガキ	57	
19	C-973	土師器	坪	SX2093	2	器高3.5 口徑(13.6)	口縁部ヨコナデ、底部ハラケヅリ	ヨコナデ	56	
20	C-947	土師器	坪	SX2093	1	器高約4.3 口徑約11.9	口縁部ヨコナデ、底部ハラケヅリのちヘラミガキ	ヘラミガキ・黒色処理	50	
21	C-966	土師器	坪	SX2093	1	器高3.8 器径14.6	口縁部ヨコナデ、底部ハラケヅリ	ヘラミガキ・黒色処理	51	
22	C-948	土師器	坪	SX2093	1	器高約5.1 口徑18.4	口縁部ヨコナデ、底部ハラケヅリ	ヘラミガキ・黒色処理	58	



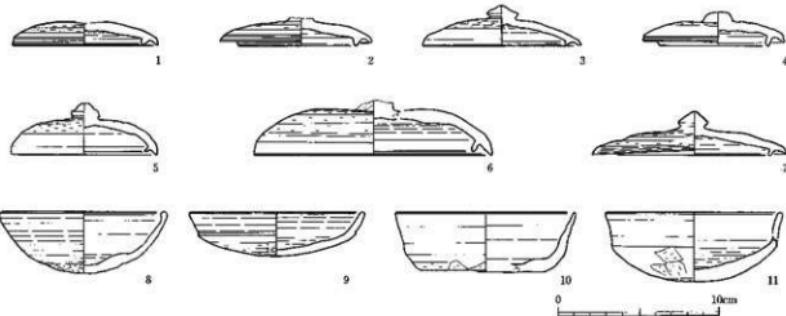
件號	登錄 番号	種別	器形	出土場所 (出土層級)	層位	法量 (cm)	外面調査	内面調査	備考	写真 図版
1	C-045	土師器	环	SX2000	1 恵美37 口徑11.7	口縁部ヨコナギ、体部ヘラケズリ ハラミガキ・馬色处理				69
2	C-054	土師器	环	SX2000	2 彰義42 口徑13.4	口縁部・体部恩相接 ハラミガキ・馬色处理				59
3	C-067	土師器	环	SX2000	1 彰義48 口徑15.4	口縁部ヨコナギ、体部ヘラケズリ ハラミガキ				70
4	C-053	土師器	环	SX2000	1 彰義43 口徑13.9	口縁部ヨコナギ、体部ヘラケズリ ハラミガキ・馬色處理				71
5	C-049	土師器	环	SX2000	2 恵美44 口徑13.6	口縁部ヨコナギ、体部ヘラケズリ ハラミガキ・馬色處理				60
6	C-055	土師器	环	SX2000	1 恵美55 口徑19.4	口縁部ヨコナギ、体部ヘラケズリ ハラミガキ・馬色處理				72
7	C-068	土師器	高环	SX2000	1 恵美高27 口徑29.8	口縁部ヨコナギ、底部ハメヘラケズリ ハラミガキ・馬色處理				62
8	C-046	土師器	高环	SX2000	1 恵美高49 口徑17.1	口縫ヨコナギ・ハメヘラケズリ ハラミガキ・馬色處理				61
9	C-069	土師器	高环	SX2000	1 恵美高46 馬色環附11.9	背脂ハケメヘラケズリヨコナギ	背脂ハケメヘラケズリヨコナギ	背脂ハケメヘラケズリヨコナギ	氧化放水書	67
10	C-072	土師器	高环	SX2000	2 恵美11.11 馬色 縞附17.8	背脂ハケズリ、縞部ヘラナギ	背脂ハケズリ、縞部ヘラナギ	背脂ハケズリ、縞部ヘラナギ		68
11	C-071	土師器	高环	SX2000	1 恵美74 口徑12.8 馬色 縞附17.8	口縫部ヨコナギ、縞部ヘラケズリヨコナギ	縞部ヘラナギ	縞部ヘラナギ		74
12	C-041	土師器	高环	SX2000	1 恵美19 口徑18.8 馬色 縞附13.0	口縫部厚縮、体部ヘラケズリ	縞部ヘラナギ	縞部ヘラナギ	意は一列	75
13	C-059	土師器	环	F.212	春高29 口徑10.8	口縫部ヨコナギ	ハラミガキ・馬色處理	口縫部ヨコナギ	底面に裂隙あり	64

第14回 第147次調査区出土遺物(2)



図版 番号	登録 番号	種別	形態	出土地点 出土地層 層位	法 量 (ca)	外 面 高 度	内 面 高 度	備 考	参考 文献
1	E-481	輪窓器	PINW孔	SX2122	1 残存高3.6	ロクロナデ	ロクロナデ		73
2	E-492	伝忠器	盤	SX2093	2底面 口径42.6	等高ロコナデ、底部圓軸ヘラケズリ	ロクロナデ		65
3	E-495	伝忠器	長脚盤	SX2093	2 残存高2.6 口径12.0	ロクロナデ	ロクロナデ	LJ埋蔵	66
4	E-479	東忠器	舟形	SX2093	1 高さ0.0 口径12.2	ロクロナデ	ロクロナデ	外側に自然縫	77
5	E-483	須忠器	舟形	SX2093	1 高さ0.5以上 口径13.7 (鉢底) 8.62cm	山根ロコナデ、底部ワコナデ+斜面ヘラケズリ、斜面ロクロナデ	ロクロナデ		78
6	E-477	須忠器	舟形盤	SX2093	1 残存高7.0 口径26.5	山根ロコナデ、底部ワコナデ+ヘラケズリ、斜面ロクロナデ	ロクロナデ		76
7	E-119	全輪器	刀子	SX2093	1 残存高12.4 幅 5.08 厚1.5	山根ロコナデ、底部ワコナデ+ヘラケズリ、斜面ロクロナデ	ロクロナデ		95

第147図 第147次調査区出土遺物(3)



回数 番号	空段 番号	種別	形態	所 在 点		法 量 (cm)	外 面 調査	内 面 調査	考 参	写真 番号
				出上遺物	層 位					
1	E-488	須恵器	壺	SX2093	2	腹高15 口径5.1	クロナダ・凹面へラケズリ	ロクロナダ	79	
2	E-486	須恵器	壺	SX2093	2	腹高18 口径5.4	クロナダ・凹面へラケズリ	ロクロナダ	80	
3	E-478	須恵器	壺	SX2093	1	腹高25 口径5.6	クロナダ・凹面へラケズリ	ロクロナダ	81	
4	E-487	須恵器	壺	SX2093	2	腹高21 口径6.8	クロナダ・凹面へラケズリ	ロクロナダ	83	
5	E-484	須恵器	壺	SX2093	2	腹高33 口径6.1	クロナダ・凹面へラケズリ	ロクロナダ	82	
6	E-486	須恵器	壺	SX2093	1	腹高34 口径14.8	クロナダ・凹面へラケズリ	ロクロナダ	85	
7	E-481	須恵器	壺	SX2093	1	腹高27 口径12.1	クロナダ・凹面へラケズリ	ロクロナダ	84	
8	E-494	須恵器	壺	SX2093	1	腹高36 口径10.4	体部ロクロナダ、底部へラケズリ	ロクロナダ	86	
9	N-496	須恵器	壺	SX2093	2	腹高27 口径10.9	口部ロクロナダ、体部ロクロナダ・凹面へラケズリ	ロクロナダ	87	
10	E-497	須恵器	壺	SX2093	1	腹高35 口径12	体部ロクロナダ、底部へラケズリ	ロクロナダ	88	
11	E-482	須恵器	壺	SX2093	1	腹高43 口径10.8	体部ロクロナダのち口部ロクロナダ	ロクロナダ	89	

第16図 第147次調査区出土遺物(4)

第3層中より丸底で体部外縁のヘラケズリが顕著に観察される土器C-951壺（第13図9）、小型で口縁部が内湾気味となる半球形の関東系土器C-956壺（第13図16）、内面に漆の付着した須恵器E-485半瓶（写真96）、さらに第3層底面より弥生土器B-291鉢（第17図12）、その他多量の関東系土器片を含む土器や須恵器の破片や人頭大の河原石、焼け面を持つ切石が多量に出上している。

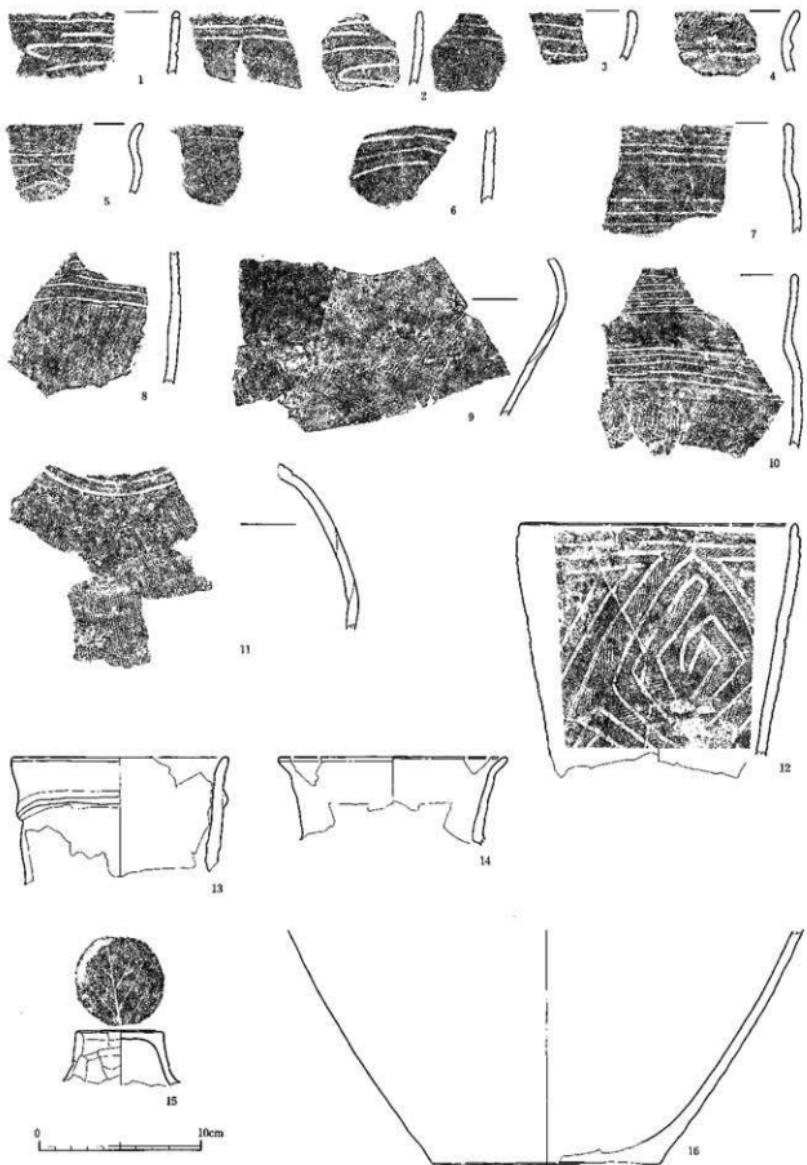
SA2005a・2005b材木列を切り、SB2045掘立柱建物跡、SD2000・2086・2087・2103・2106・2107・2108・2109・2114・2116・2117・2118溝跡、SX2122性格不明遺物に切られている。

SX2122性格不明遺構 東西3m、南北5.8~5.9m程で、深さは10~13cm程である。壁は角度を持って直線的に立ち上がり、底面はほぼ平坦である。南部には上幅180~200cm、深さ1.15m程の円形な土坑状の落ち込みがある。方向は西辺でN-35°-Eで、南辺はE-30°-Sあるが、東辺は不整形である。堆積土は7層である。

遺物は1層中より外面に突唇を有する円面鏡E-491（第15図1）、土器高窓、壺、半球形の関東系の壺、須恵器壺など多数の土器・須恵器の破片が出土している。

SX2093性格不明遺構を切り、SD2086・2087溝跡に切られている。

この他にSX2093性格不明遺構を切るP212より内面黒色処理された土器C-959壺（第14図13）が、また表土中より平瓦1点が、遺構検出面上より弥生土器B-301鉢（第17図8）、弥生土器B-302壺（第17図9）、弥生土器B-303鉢（第17図3）、弥生土器B-304鉢（第17図5）、弥生土器B-292鉢（第17図10）が、Ⅲb層中より弥生土器B-293壺（第17図11）、弥生土器B-294壺（第17図4）が、VI層中より弥生土器B-299（第17図14）、板状節理を利用してした安山岩製の石器片が出土している。これらの弥生土器、石器は古代の遺構の検出面の第IV層下の第V層が部分的に上昇し、その層中に含まれている遺物が削平され出土したと考えられる。



第17図 第147次調査区出土遺物(5)

周辺 番号	跡番 番号	種別	基部	柱上 出土遺物	地 層	法 長(cm)	外 面 調 査	内 面 調 査	備 考	号言 用語
1	B-207	柱生土器	不明	SD2006	底面	残存高39 口徑(20.2)	LE調査文	ヨコナデ		
2	B-206	柱生土器	鉢	SD2006	底面	残存高45	口縁部ミガキ 底部ミガキ・沈澱	ミガキ-沈緑、ミガキ	調査文が実施されているが断滅	
3	B-303	柱生土器	鉢	選擇後底面		残存高32	ミザタ-沈緑	ミガキ		
4	B-204	柱生土器	底	SB2006		残存高38	LE調査文 底部ミガキ	ヘラナナ		
5	B-304	柱生土器	鉢	選擇後底面		口径58	ミガキ-沈緑	ミガキ-沈緑		
6	B-208	柱生土器	不明	SD2006	底面	残存高47	LE調査文	ヨコナデ		
7	B-205	柱生土器	鉢	SB2006	SB205穴 抜き取り	残存高67	平行沈緑文	ミガキ		
8	B-301	柱生土器	鉢	選擇後底面		残存高62	口縁部ミガキ-沈緑 底部LE調査文	ミガキ		
9	B-302	柱生土器	底	選擇後底面		残存高89	LE調査文、ミガキ	ヘラナナ、ミガキ		
10	B-202	柱生土器	鉢	選擇後底面		残存高103	口縁部ミガキ-沈緑 底部LE調査文	ミガキ		
11	B-203	柱生土器	底	SB2006		残存高104	ハケメ、ミガキ-沈緑	ヘラナナ		
12	B-201	柱生土器	鉢	SX2003	3.底面	残存高158 口徑17.0	口縁部ミガキ 底部ミガキ・沈緑・LR調査文	ヘラナナ		91
13	B-306	柱生土器	底	SD2006	2	残存高79 口徑13.4	ミガキ、隆起	ミガキ		
14	B-209	柱生土器	底	N'2006		残存高15.5 口徑14.2	ミガキ	ミガキ		
15	B-300	柱生土器	底	SA1283	裏り方柱上	残存高35 腹径54	頂部小窓痕 底部ミカヅキ・滑ナナ	ヘラナナ		
16	B-306	柱生土器	底	SD2006	1	残存高14.6 腹径14.0	底部LR調査文、底部水差痕	ナダ		

第4表 第147次調査区出土遺物(5)観察表

3.まとめ

今回の調査区はこれまで南方官衙地区で発見されているような大型の建物跡が存在し立ち並んでいるのかどうか、またはI期官衙東辺の様相について明らかにすることを目的としていた。特に昨年度の時点で南方官衙に間わる建物が小規模なものが1棟のみであることを確認していたのでI官衙の東辺の様相を第152次調査と合わせて検討する調査となった。今回発見された造構のうち、主な造構の重複関係は以下のようなものである(P28参照)。なお並列関係は必ずしも同時性を示すものではない。

I期官衙については第138次調査区でI期官衙東辺の材木列が3列発見されている。今回はそのうちのSA1855・2005材木列の詳細について調査し、これまで東辺と考えられていた2列の材木列との接続や構造の違いについて調査を行った。

SA1855・2005材木列は伴に抜き取りが施されている。抜き取られた際の深度は一定しておらず、材木列掘り方底面よりも深く抜き取られた箇所がある。特にSA1855材木列は抜き取りが深く、材痕跡もほとんど残っていない。これはSA2005材木列の抜き取りが底面まで及ばず、ほとんど材痕跡が残っているとは大きな違いを示している。今回の調査区の南に位置する平成12年度の第135次調査でもSA1855材木列は抜き取りが材木列掘り方底面まで及んでいた箇所では、柱痕跡は全く検出されていないことと同様である(註1)。このような抜き取りの様相の違いは何を物語るのであろうか。徹底した抜き取りは材の再利用を可能にするのか、又は大きな立替えの準備段階なのか、今回の調査と第138次調査の様相からは把握しきれない問題である。今後ともこの抜き取りの違いや、掘り方の様相を充分に観察し、各辺における連続性ならびに変遷の手がかりになるよう考えていただきたい。

SB2050掘立柱建物跡は、周官衙の総柱建物跡であり、方向は東柱列でN-28°-Eとなっている。周官衙の建物は総じて30~40°東偏しているが、SB2050掘立柱建物跡は東偏する向きがやや小さい。第85次調査区では2棟のI期官衙の側柱建物であるSB1278・1280掘立柱建物跡が発見されている。方向はSB1280掘立柱建物跡が東西柱列でE-31°-Sであるのに対し、SB1278掘立柱建物跡は南北柱列でN-17°-Eとなっている。また南に隣接する



回復番号	登録番号	種別	型形	出土地点	出土遺構	層位	法 度 (cm)		備考	写真 図版
							長さ	幅		
1	K-286	石製品	敲石	SX2093	1	長さ12.8 幅6.1 最大厚3.3				
2	K-285	石製品	凹石	SX2093	1	長さ12.0 幅6.7 厚3.4~3.5			102	
3	K-284	石製品	凹石	SX2093	1	長さ9.1 幅6.5 厚3.4			103	
4	K-301	石製品	敲石	SX2093	2	長さ5.80 幅6.1 最大厚2.8			101	標準あり
5	K-288	石製品	敲石	SX2093	2B面	残存長11.6 幅5.32 厚5.6			105	標準あり

第18図 第147次調査区出土遺物(6)

第93次調査区でもI期官衙と推定される小規模な建物の柱穴が存在する(註2)ことから、I期官衙の時期にはこの地区に複数の建物が存在し機能している。規模や方向にばらつきがあることから、各建物が同時期に建つのではなく、一定の機能毎に数時期の変遷をしているものと見られる。

SX2093性格不明遺構はII期官衙外溝であるSD2000に切られていることと、I期官衙のSA2005を切っていることからI期官衙期内の遺構と位置付けられる。多量に出土した遺物はI期官衙内で使用されたものが投棄されたものと考えられる。須恵器ではすべての蓋にカエリがあり、またこれら小形の蓋をのせて焼成したと考えられる脚付盤(写真3)がある。関東系の土師器環についても橙色に発色し、半球形を呈するものである。これまでI期官衙に先行する竪穴住居跡から出土している関東地方の古墳時代の土師器「鬼高式」と類似した土師器は出土していない。在地の土師器には古墳時代後半の標識土器とされる「栗圓式」の土師器环に見られるような口縁部がやや外反するもの(第14図4)も含まれている。これらの遺物はI期官衙の創建まではさかのばらないが、I期官衙の時期内に確

実におさまり、新たな資料を得たことになる。なおSA2005a・b材木列とSX2093性格不明遺構の間違は、SA2005a→SA2005b→SX2093となっている。遺構の近接する部分でSA2005a材木列からSA2005b材木列へSX2093性格不明遺構の外部の形状に合わせるように東に屈曲していたものと考えられる。このことはSX2093性格不明遺構が材木列の配置・形状に影響を与えた可能性が高いと考えられる。そのような影響を与えたSX2093性格不明遺構とはどのような機能を有したのであろうか。官衙の外部の形状を変えてまでもこの地点でこの地点で掘られた大きな穴である。この場所にこだわった何らかの理由があるはずである。深

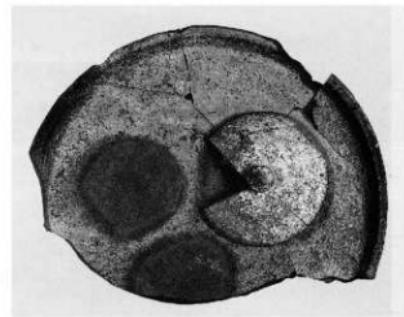
さが一定の面をなしていることと、堆積が同質の土により広範囲に埋まっていることからは、一定の深度で掘る行為とその後方四町II期官衙の外郭が掘られるまでの間に埋まると考えられるであろう。

II期官衙の調査としては、方四町II期官衙南外側にあたる南方官衙西地区での調査にあたる。

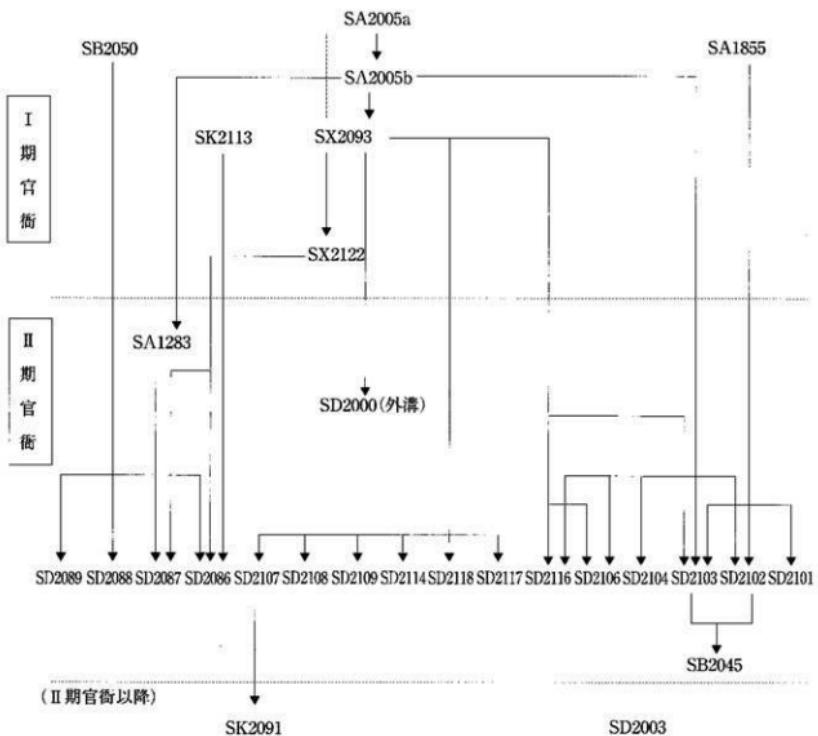
SB2045掘立柱建物跡は梁行4.2m~4.4m、桁行7~7.1mの南北棟の建物跡である。これまでの南方官衙地区で発見されてきたII期官衙の時期の建物跡と比較すると、建物全体の規模が小さく、柱穴・掘り方も小規模である。郡山庵寺東部を調査した第65次調査では、II期官衙の時期に13棟の建物跡が3小期に変遷して発見されており、その地区は「寺院東方建物群」と呼ばれている。これらの建物も総じて方四町官衙中枢部や南方官衙地区で発見されてきた建物跡と比較すると、建物全体の規模が小さく、柱穴・掘り方も小規模である(註3)。このことからSB2045掘立柱建物跡は寺院東方建物群の建物群と同様にこれまで南方官衙地区で発見された大規模な建物跡とは、やや異なる役割を担っている可能性を考えておきたい。

また第85次調査B区で発見されていたSD1283溝跡は今回の調査で材木列であることが確認された。SA1283材木列はII期官衙のSA2005b材木列と重複する地点で途切れている。西側に位置する第85次調査B区ではII期官衙の時期には方四町II期官衙正殿(SB1250)を上回る規模を持つSB1277掘立柱建物跡が発見されている。SA1283溝跡とSB1277掘立柱建物跡の関係はSD1283溝跡がSB1277掘立柱建物跡の南東隅の柱穴に切られており、SD1283→SB1277と変遷している(註4)。東に隣接する平成13年度の第138次調査区では同じII期官衙の遺構と考えられるSB2010・2015掘立柱建物跡の2棟の大型建物が発見されている。この2棟の大型建物は近接していることから同時存在することは考えにくい。このことはSA1283材木列がSB1277掘立柱建物跡と同様にSB2010・2015掘立柱建物跡と関連しながらも変遷していることを示唆する。南方官衙西地区の様相については若干「Ⅶ 総括」で検討を加える。

今回の調査で発見されたSD2086~9・2101~9・2116~7溝跡は堆積土や遺構の方向性などから一連の遺構群であると考えられる。このような溝跡群は東に隣接する第138次調査区や第85次調査B区、第135次調査区などの周辺での調査では発見されていない。これらの遺構群はI期官衙の遺構と考えられるSA1855・2005材木列、SB2050掘立柱建物跡、SX2093・2122性格不明遺構を切っていることや方向性からII期官衙の時期に属するものと考えられる。また同じII期官衙の時期に属するSA1283材木列を切り、SB2045掘立柱建物跡に切られている。このことからII期官衙の時期には147次調査区内では土地利用のあり方が数時期に変化しており、他の調査区とは異なる特徴であろう。何らかの耕作痕跡である可能性もあり、周辺の建物の変遷を考えいく際の重要な要素と見るべきであろう。



3 E-477脚付盤とE-478蓋



註 1 「1 郡山遺跡 5. 第135次発掘調査」仙台市文化財調査報告書第250集 「郡山遺跡21」 2001.3

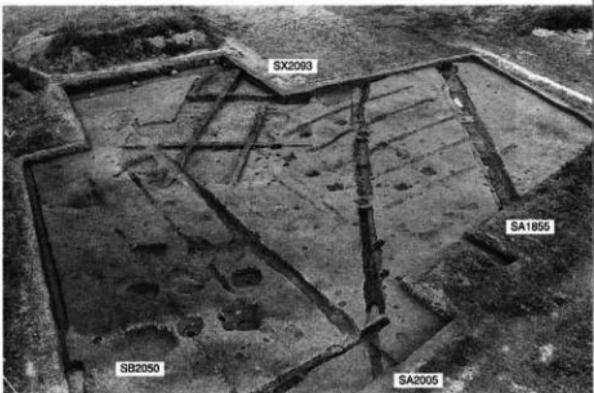
註 2 P101~102 古代城柵官衙遺跡検討会 第18回古代城柵官衙遺跡検討会資料 1992.2

註 3 仙台市文化財調査報告書第156集「宮城県仙台市郡山遺跡 - 第65次発掘調査報告書 -」1992.3

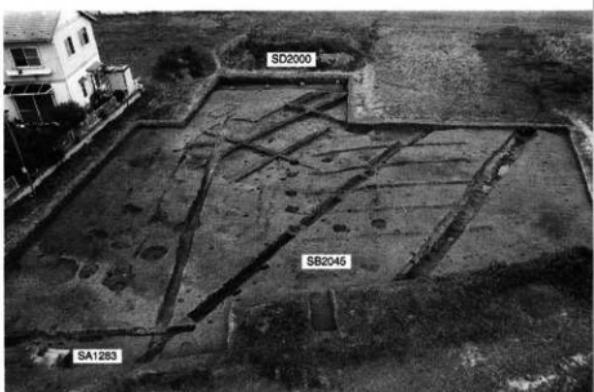
註 4 仙台市文化財調査報告書第145集「仙台市郡山遺跡 - 第84次・85次発掘調査報告書 -」1990.6



4 第147次調査区全景（北より）



5 造構配置（Ⅰ期）



6 造構配置（Ⅱ期）



7 SA2005木材列



8 SA1855木材列



9 SA1283木材列



10 SA2005b木材列断面



11 SA1855木材列



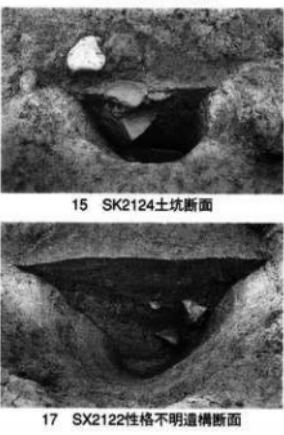
12 SA1283木材列断面



13 SA2005a+b木材列



14 SA2005a+b木材列、SX2093断面



15 SK2124土坑断面

16 第147次調査区南壁断面

17 SX2122性格不明遺構断面



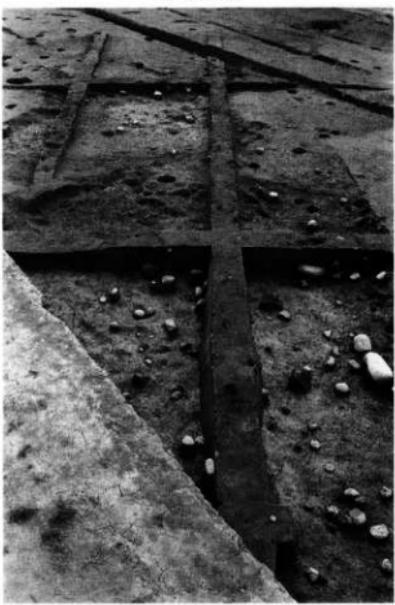
18 SX2093遺物出土状况



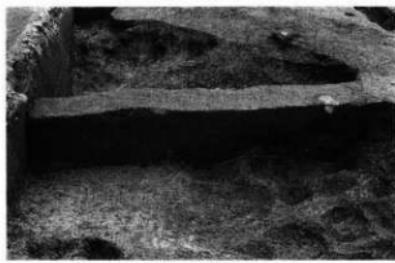
19 SX2093



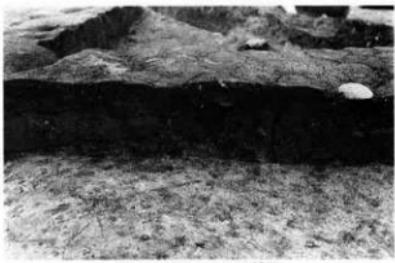
20 SX2093



21 SX2093



22 SX2093



23 SX2093・2122断面



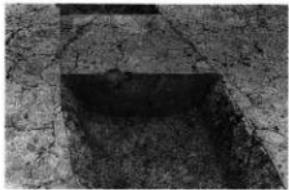
24 SD2101溝跡断面



25 SD2102溝跡断面



26 SD2103溝跡断面



27 SD2104溝跡断面



28 SD2106溝跡断面



29 SD2116溝跡断面



30 SD2117溝跡断面



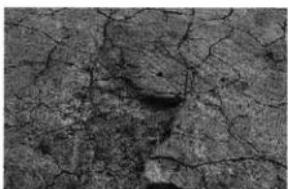
31 SD2107溝跡断面



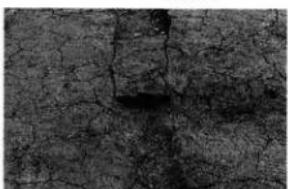
32 SD2108溝跡断面



33 SD2109溝跡断面



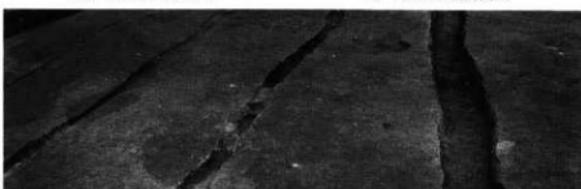
34 SD2087溝跡断面



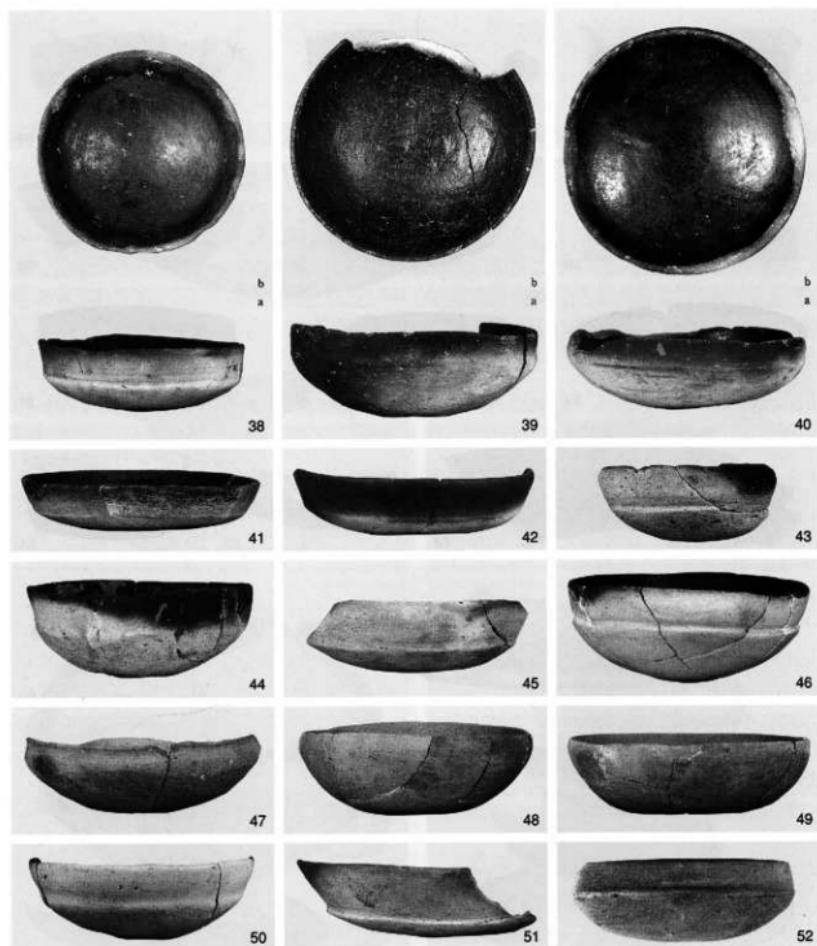
35 SD2088溝跡断面



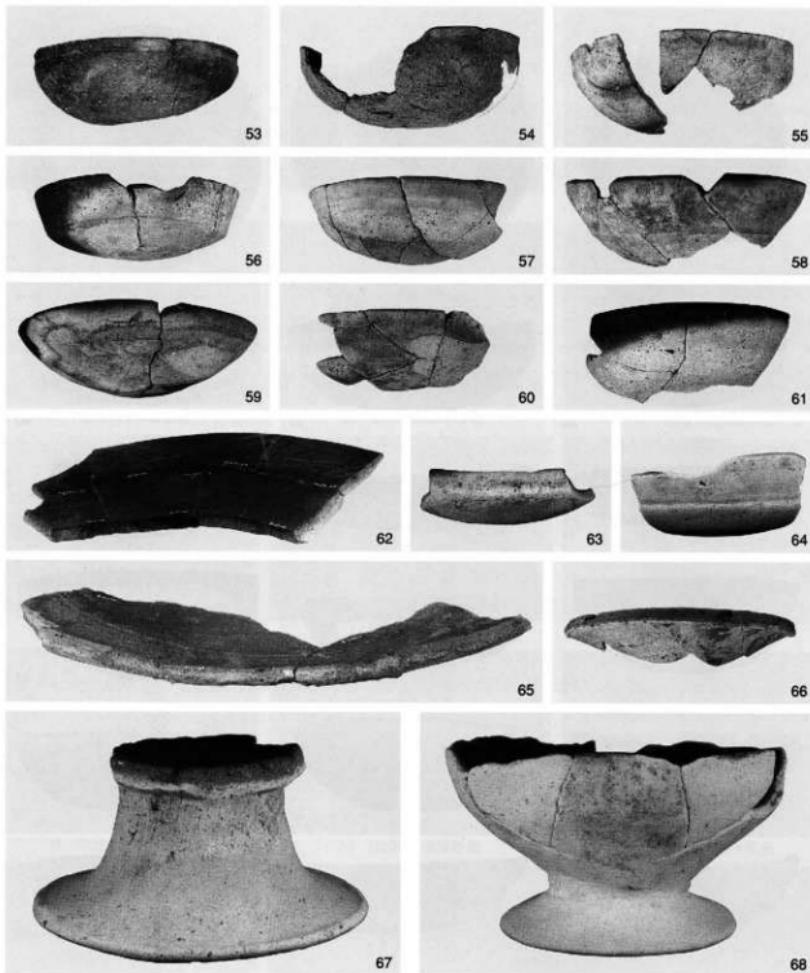
36 SD2089溝跡断面



37 SD2086 · 2087 · 2088 · 2089溝跡

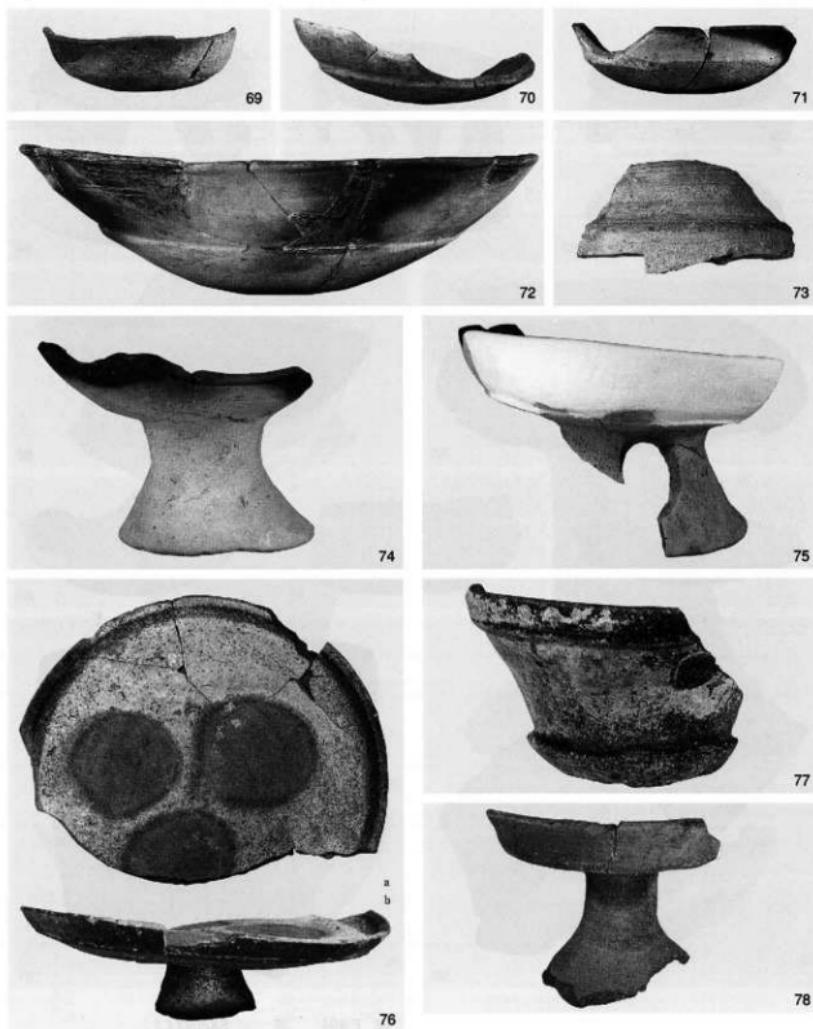


38a C-960 坏 (侧面) SX2093 Ʌ 2	44 C-951 坏 SX2093 Ʌ 2 · Ʌ 3
b C-960 坏 (上面) SX2093 Ʌ 2	45 C-964 坏 SX2093 Ʌ 1
39a C-961 坏 (侧面) SX2093 Ʌ 2	46 C-957 坏 SX2093 Ʌ 1
b C-961 坏 (上面) SX2093 Ʌ 2	47 C-942 坏 SX2093 Ʌ 1
40a C-962 坏 (侧面) SX2093 Ʌ 2	48 C-950 坏 SX2093 Ʌ 1 · Ʌ 2
b C-962 坏 (上面) SX2093 Ʌ 2	49 C-956 坏 SX2093 Ʌ 1 · Ʌ 3
41 C-944 坏 SX2093 Ʌ 1	50 C-947 坏 SX2093 Ʌ 1
42 C-952 坏 SX2093 Ʌ 1	51 C-966 坏 SX2093 Ʌ 1
43 C-943 坏 SX2093 Ʌ 1	52 C-958 坏 SX2093 Ʌ 1

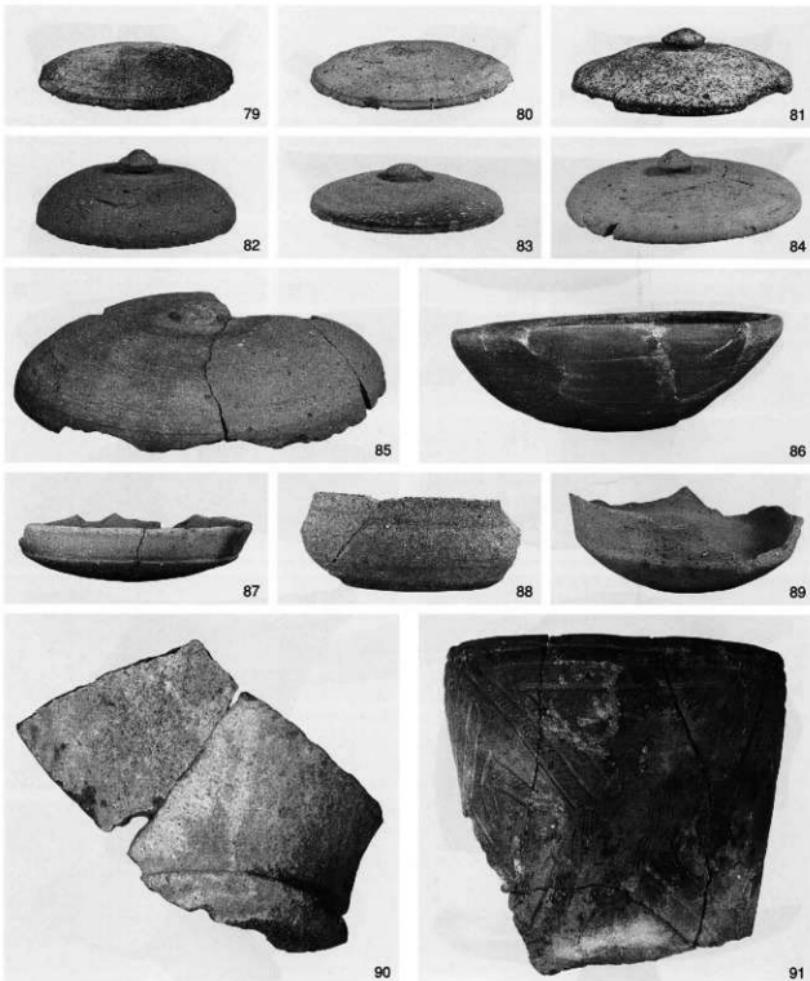


53 C-963 坯 SX2093 Ʌ 1
 54 C-974 坯 SX2093 Ʌ 1
 55 C-973 坯 SX2093 Ʌ 1 · Ʌ 2
 56 C-970 坯 SX2093 Ʌ 1 · 表土
 57 C-975 坯 SX2093 Ʌ 1 · SX2086 Ʌ 1
 58 C-948 坯 SX2093 Ʌ 1
 59 C-954 坯 SX2093 Ʌ 2
 60 C-949 坯 SX2093 Ʌ 1 · Ʌ 2 · SD2118 Ʌ 1

61 C-946 高坏 SX2093 Ʌ 1
 62 C-968 高坏 SX2093 Ʌ 1
 63 C-965 坯 SX2093 Ʌ 1
 64 C-959 坯 Pit212
 65 E-492 盆 SX2093 Ʌ 2
 66 E-495 長頸壺 SX2093 Ʌ 2
 67 C-969 高坏 SX2093 Ʌ 1
 68 C-972 高坏 SX2093 Ʌ 2



69 C-945 壁 SX2093 2 1	75 C-941 高壁 SX2093 2 1 · SD2114 2 1
70 C-967 壁 SX2093 2 1	76a E-477 脚付盤（上面）SX2093 2 1
71 C-953 壁 SX2093 2 1	b E-477 脚付盤（側面）SX2093 2 1
72 C-955 壁 SX2093 2 1 · Pit190	77 E-479 楔鉢 SX2093 2 1
73 E-491 円面観 SX2122 2 1	78 E-483 高壁 SX2093 2 1
74 C-971 高壁 SX2093 2 1	



79 E-488	蓋	SX2093 乙 2
80 E-486	蓋	SX2093 乙 2
81 E-478	蓋	SX2093 乙 1
82 E-484	蓋	SX2093 乙 2
83 E-487	蓋	SX2093 乙 2
84 E-481	蓋	SX2093 乙 1
85 E-480	蓋	SX2093 乙 1

86 E-494	坏	SX2093 乙 1
87 E-496	坏	SX2093 乙 2
88 E-497	坏	SX2093 乙 1
89 E-482	坏	SX2093 乙 1
90 E-493	搨鉢	SX2093 乙 1 · 乙 2
91 B-291	鉢	SX2093 乙 3 底面



92

93

94



95

a
b

96

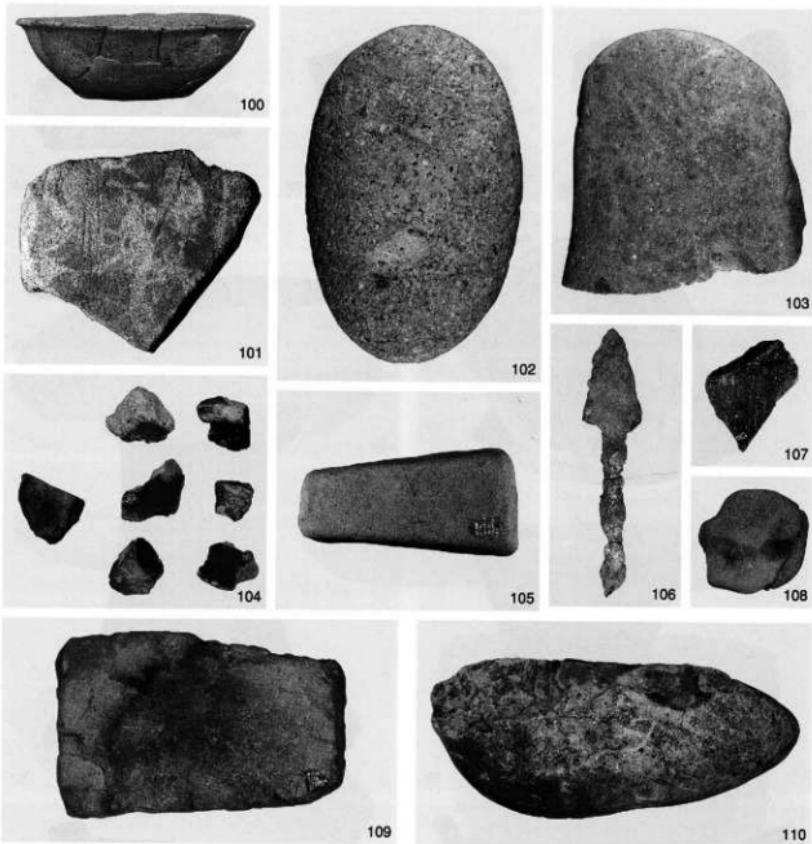
97

98

99

92	P-56	不明品	SX2093 # 1
93	N-121	金具	SX2093 # 1
94	N-120	不明品	SX2093 # 1
95	N-119	刀子	SX2093 # 1
96a	E-485	平瓶（上面）	SX2093 # 2 · # 3
b	E-485	平瓶（侧面）	SX2093 # 2 · # 3

67	E-490	高环	SX2093 # 2
68	E-489	坏	SX2093 # 3
99	D-94	坏	SX2093 # 3



100 D-93	坏	SD2000 # 1	105 K-288	砾石	SX2093 # 2
101 K-301	砾石器	SX2093 # 2	106 K-122	铁鎌	SD2000 # 3
102 K-285	凹石	SX2093 # 1	107 K-280	剥片	III b 层
103 K-284	凹石	SX2093 # 1	108 K-300	砾	SX2093 # 2
104 K-313 · 310 · 314 · 312 · 316 · 317 · 311	切石	SX2093 # 1	109 K-305	切石	SX2093 # 2
			110 K-296	砾	SX2093 # 2

IV 第152次発掘調査

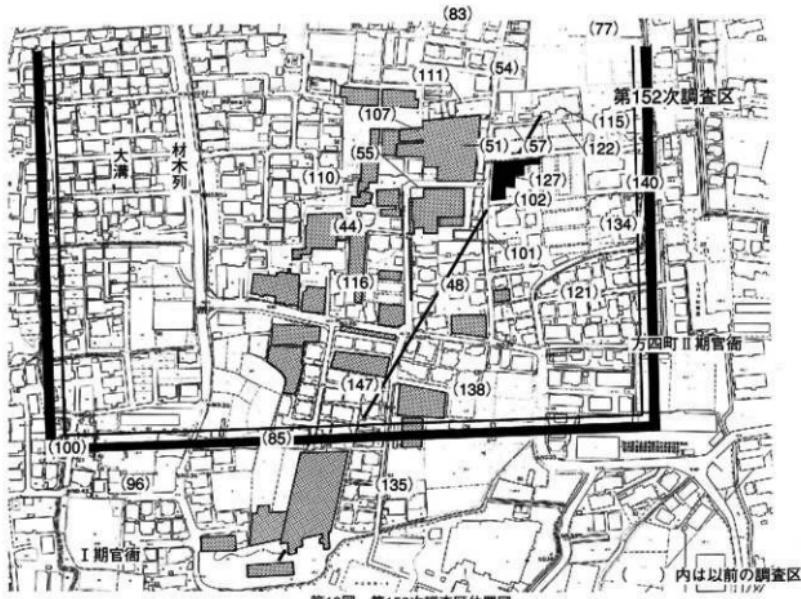
1. 調査経過

第152次発掘調査区は第147次発掘調査区で発見された官衙東辺部の延長線上に位置している。第147次発掘調査区のSA1855・2005材木列から北東へ300mほど離れ、ほぼ直線に延びるとするならばこの地区で延長部が発見されることが想定された。またこの付近は板解や一本柱列によって90m×120mの範囲に区画されたI期官衙中枢部の前面（東面）に位置している。

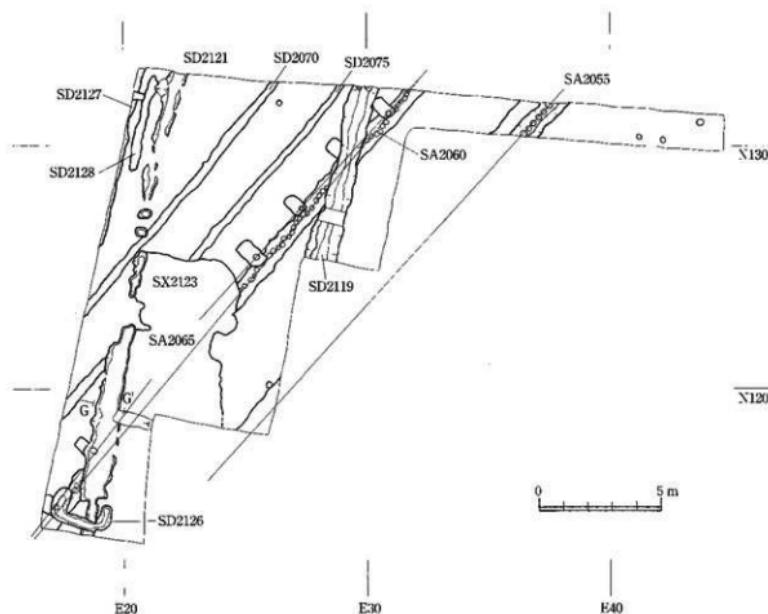
調査は7月初め頃から準備に入り、平成15年9月11日から表土排除を開始した。当初は調査地内の北部に幅1.5mの調査区を東西24mの長さで設定し、遺構の検出作業を行った。それによりⅠ期官衙方向の布壟状の遺構を数箇検出したことから、それらの検出状況に合わせて拡張し185m²の調査区とした。調査は官衙に伴うと見られる遺構の検出に留め、重複関係や細部の把握が必要な遺構のみについて掘り下げを行った。調査の成果がまとまった10月30日に報道発表をし、11月1日に現地説明会を開催した。その後補足の調査を行い、埋め戻しのち整地作業が終了したのは12月5日である。

2. 発見遺構・出土遺物

今回の調査で発見された遺構は、材木列2列、一本柱列1列、溝跡8条、性格不明遺構1、ピットなどである。基本層位は第Ⅰ層が砂による畑の盛土、第Ⅱ層が盛土前の畑の旧耕作土、第Ⅲ層が耕作により下層の基本層や遺構の堆積土が擾乱したものである。遺構は第Ⅳ層上面で検出されている。



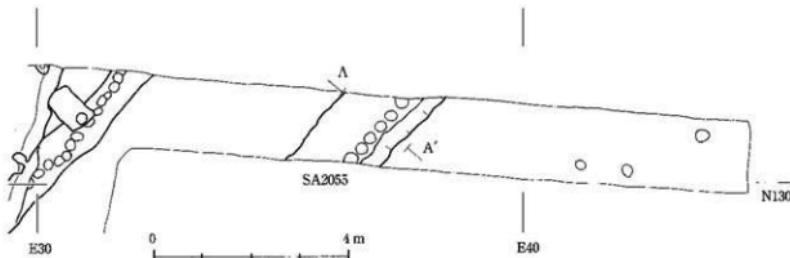
第152次調査区位置図



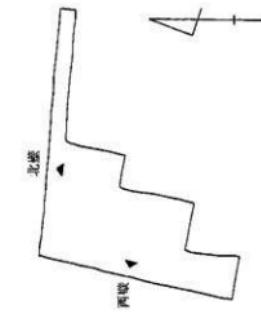
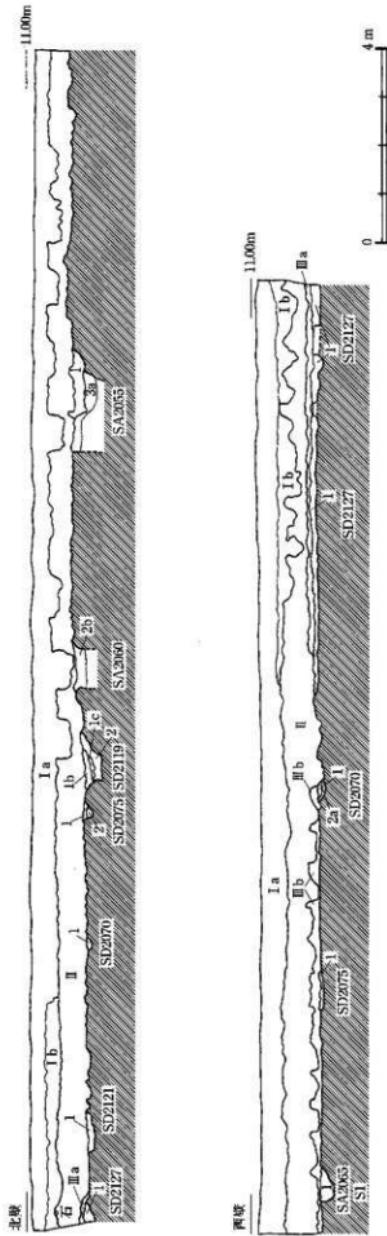
第20図 第152次調査区構造配置図 (1/200)

SA2055材木列 上幅150~155cmの溝状の抜き取り底面において、材木列の掘り方とそれに伴う柱痕跡を検出した。上幅120cmの掘り方の東壁沿いに直径23~28cmの柱痕跡が6本分検出された。方向はN-38°-Eで、調査区内の南部で抜き取りの一部を検出していることから、調査区を横断し外へ延びていると考えられる。掘り方の深さは32~42cmで、ほぼ底面まで抜き取りが及んでいる。

遺物は掘り方より内面がヘラミガキ黒色処理されロクロ不使用の土師器坏の小片が出土している。



第21図 第152次調査区平面図(1) (1/100)



第22圖 第152次調查區斷面圖 (1/100)

SA2060材木列 上幅55~90cmで掘り方とそのほぼ中央に直径15~25cmの柱痕跡が連続して検出された。方向はN-33°-Eで、検出した掘り方の総長は23.5mである。掘り方の深さは50cmである。

遺物は掘り方よりロクロ不使用の土師器壺の小片が出土している。

SA2065一本柱列、SD2119・2121・2126溝跡、SX2123性格不明遺構に切られている。

SA2065一本柱列 掘り方が一辺42~73×82~120cmの長方形で、柱痕跡が17~29cmの柱穴による跡跡が検出された。方向はN-34°-Eで、柱間寸法は250~280cmである。調査区内では8間分の柱穴が連続して並んでいたと推定されるが、他の遺構との重複により柱穴を4間分のみ検出した。柱穴は西側より段掘り状に掘られ、最深部で50cmの深さがある。

遺物は調査区南端の柱穴掘り方よりロクロ不使用の土師器壺の小片が出土している。

SA2060材木列を切り、SD2119・2121・2126溝跡、SX2123性格不明遺構に切られている。

SD2070溝跡 上幅25~37cm、底面幅15~25cm、深さ10~20cm程で、断面形はおおむね扁平なU字形である。壁は直線的に立ち上がり、底面は一部に凹凸がある。方向はN-33°-Eで、検出した総長は12mである。堆積土は2層で、SD2075溝跡の堆積土と同じである。遺物は出土していない。

SD2121溝跡に切られている。

SD2075溝跡 上幅20~44cm、底面幅10~30cm、深さ15cm程で、断面形はU字形である。壁はやや傾斜を持って直線的に立ち上がり、底面は凹凸が著しい箇所がある。方向はN-33°-Eで、検出した総長は18mである。堆積土は2層で、SD2070溝跡の堆積土と同じである。

遺物は焼け面のある砾が1点出土している。

SD2121溝跡、SX2123性格不明遺構に切られている。

SD2119溝跡 上幅75~125cm、底面幅20~45cm、深さ25~34cm程で、断面形はおおむね扁平なU字形である。壁は緩やかに立ち上がり、底面はやや凹凸がある。方向はN-7°-Eで、検出した総長は7.5mである。堆積土は2層である。

遺物は底面より高台の付いた陶器片が出土し、堆積土中からも陶器片や土師器、瓦、鉢片の小片が出土している。

SA2060材木列、SA2065一本柱列を切っている。

SD2121溝跡 上幅20~120cm、底面幅13~90cm、深さ5~13cm程で、断面形はおおむね扁平な逆台形である。壁は緩やかに立ち上がり、底面はやや凹凸がある。方向はN-5°-Eで、検出した総長は19mである。堆積土は1層である。

遺物は堆積土中から陶器片が少量出土している。

SA2060材木列、SA2065一本柱列、SD2070・2075・2126溝跡、SX2123性格不明遺構を切っている。

SD2126溝跡 上幅30~65cm、底面幅17~35cm、深さ15cm程で、断面形は逆台形である。壁は直線的に立ち上がり、底面はほぼ平坦である。平面形はコの字形を呈している。堆積土は2層である。

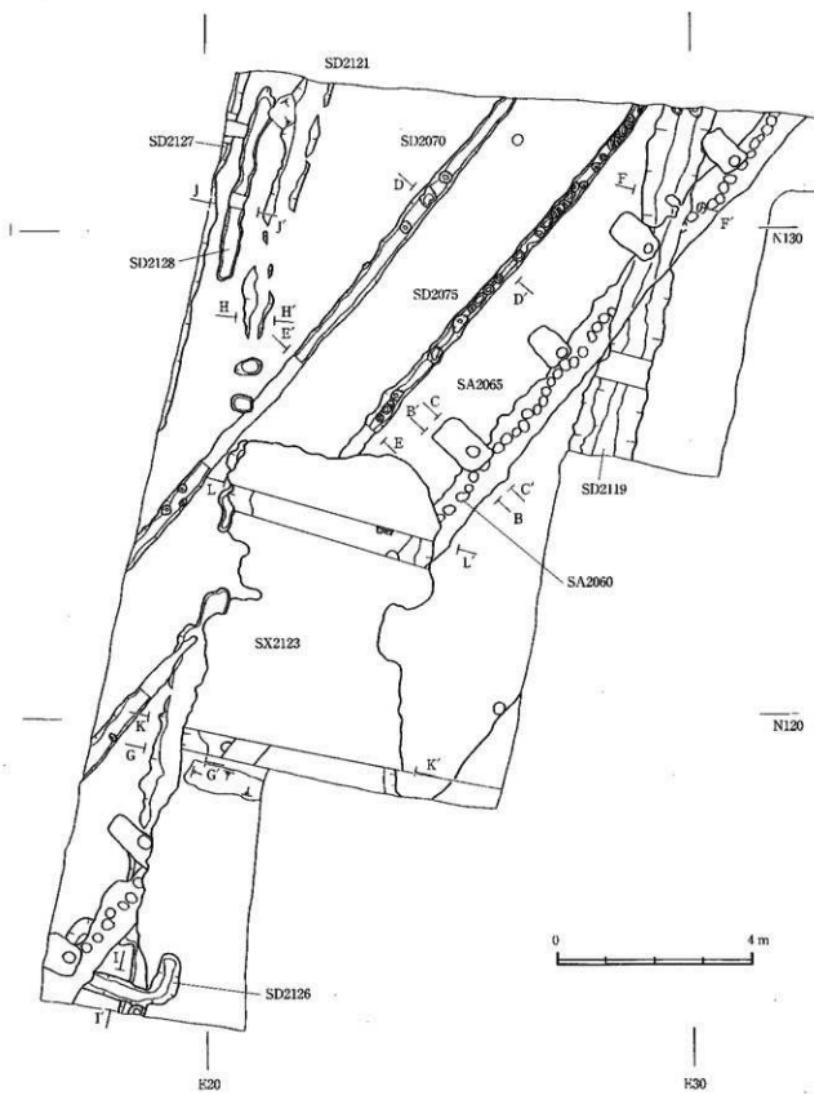
遺物は堆積土中から砾が少量出土している。

SA2060材木列、SA2065一本柱列、SX2123性格不明遺構を切り、SD2121溝跡に切られている。

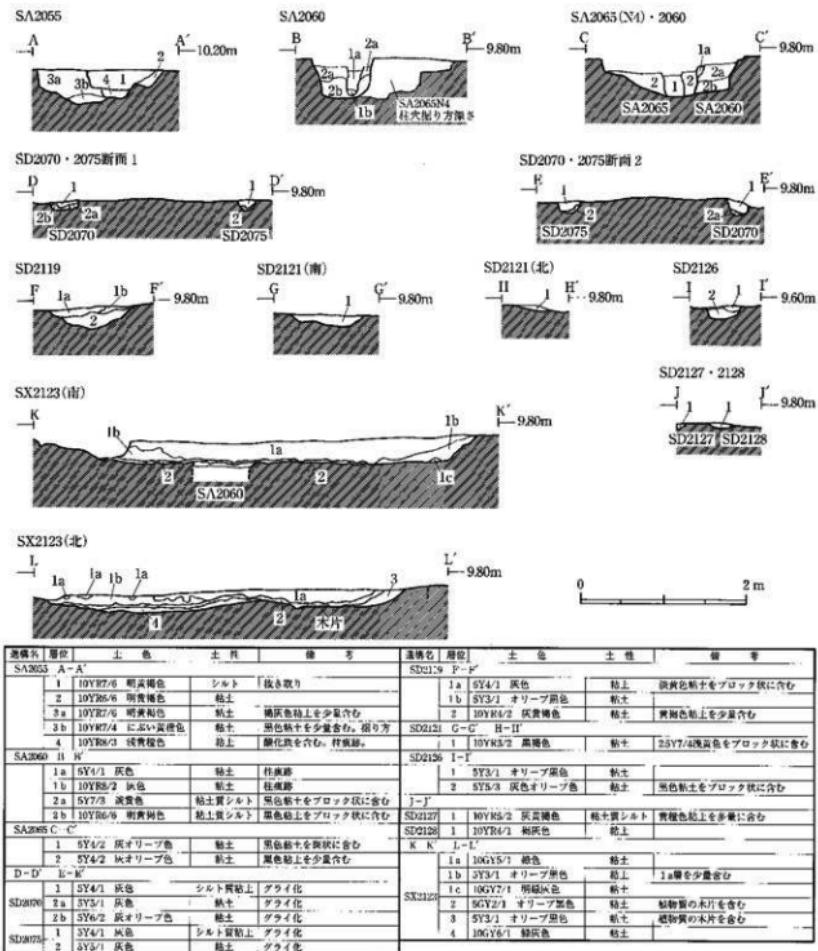
SD2127溝跡 上幅25cm以上、底面幅10cm以上、深さ20~25cm程で、断面形は舟底形かU字形である。壁は緩やかに立ち上がり、底面はほぼ平坦である。方向はN-8°-Eで、調査区北半の礫層で検出し総長は7.5mである。堆積土は1層である。遺物は出土していない。

SD2129溝跡に切られている。

SD2128溝跡 上幅25~40cm、底面幅18~30cm、深さ6cm程で、断面形は扁平なU字形である。壁は緩やかに立ち上がり、底面はほぼ平坦である。方向はN-7°-Eで、調査区北端で浅くなり途切れている。検出した総長は4

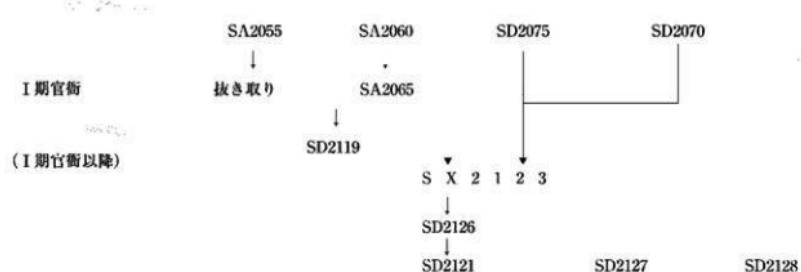


第23図 第152次調査区平面図 (2) (1/100)



3. まとめ

今回の調査は147次調査との間隔からⅠ期官衙の東辺部の検出を目的として実施した。発見された遺構は周辺の調査成果と合わせて考えれば以下のようになる。なお並列関係は必ずしも同時性を示すものではない。



発見された遺構はⅠ期官衙とそれ以降のものである。SD2119溝跡とSD2121溝跡については方向や形態からⅡ期官衙の遺構と捉えることもできるが、出土した遺物からは明らかに官衙より新しい時期の溝跡である。

Ⅰ期官衙に含まれる遺構の新旧については、SA2060材木列とSA2065一本柱列を除いて重複がないため明らかにすることは難しい。ただSA2055材木列とSA2060材木列の位置関係からは同時に存在することは考えがたく、新旧があると見られる。なおSA2065一本柱列については柱間寸法が250~280cmとばらつきがあり、柱筋も直線には通らず微妙な出入りが認められる。SA2060材木列を切っているためたりあえずⅠ期官衙内の別時期の遺構と考えているが、SA2060材木列の存続期間中における補修などの可能性も考えられよう。またSD2075溝跡とSD2070溝跡は底面や壁の形状が類似し、堆積土も同一なため、同時期に存在した溝跡と判断した。両溝間の距離は底面中央で210~220cmとなっており(註1)、この両溝跡が側溝となって道路状遺構を形成していた可能性を考えたい。両溝の間の距離と同位でSD2075溝跡がSA2060材木列と平行している。このような遺構の状況はSA2060材木列によってⅠ期官衙の東辺が遮蔽されていた時に、それに平行して官衙内に道路が造られたと見ることができないであろうか。これについては溝底面の凹凸と壁の立ち上がりの角度の状況から、SD2070・2075溝跡が「柴垣」の痕跡であるとする見解もある(註2)。確かに底面の凹凸やその箇所の堆積土の様相を見ると水性堆積した上層としてはやや不自然な点もある。これまでの調査で柴垣と断定される遺構の類例が少なく、比較検討が今のところ難しいが、今後の周辺での調査を積み重ねた上で他遺跡の検出例を参考にしながら検討する事としたい。

今回発見されたⅠ期官衙の材木列、一本柱列が第147次発掘調査で発見されている遺構とどのように接続するのか、Ⅰ期官衙中枢部との間隔等については後の「VII 総括」で検討を加える。

(註1) 方四町Ⅱ期官衙の東西幅が428.44mで、町 = 107.11m、一小尺 = 29.75cm、一大尺 = 35.70cmとなり、土地測量の単位の「歩」にすると、一步 = 214.2cmとなる。大宝律令の施行前は一步 = 6 大尺、施行後は一步 = 5 大尺に変更されるとのご教示を東北大文学部教授今泉隆雄氏より頂いた。さらに方四町Ⅱ期官衙の東西幅は1200大尺、200歩で造営されたことを指摘されている。

(註2) 東北芸術工科大学芸術学部歴史遺産学科教授宮本長二郎氏よりご教示を頂いた。



111 第152次調査区全景（南より）



112 第152調査区東半（南より）



113 第152次調査区北部遺構検出状況（西より）



114 SA2055検出状況（南より）



115 SA2055抜き取り断面（南より）



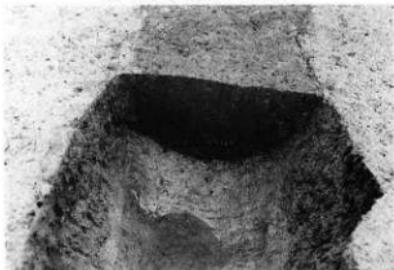
116 SD2070断面1（南より）



117 SD2075断面1（南より）



118 SD2070断面2（北より）



119 SD2075断面2（北より）

V 第153次・第155次発掘調査

1. 調査経過と発見遺構・出土遺物

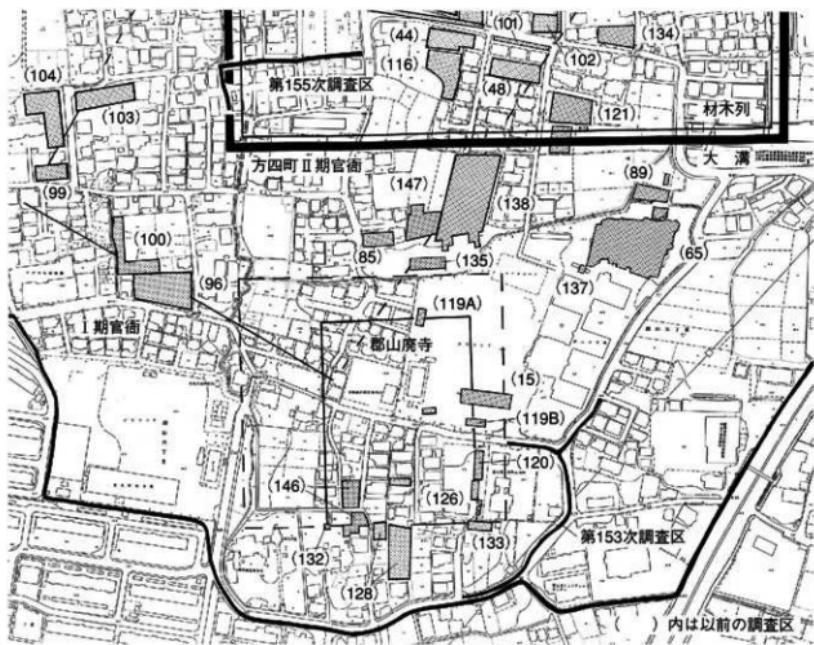
第153次調査と第155次調査は、仙台市太白区郡山2丁目と5丁目地内で行われた工事に対応した調査である。既に宅地化された中での工事ではあるが、郡山廃寺の東辺部や方四町Ⅱ期官街の西辺上を通過するために以下のような対応を取った。

(1)第153次調査

第153次調査は仙台市若林区沖野2丁目5-10東北電力株式会社仙台南営業所長より、郡山5丁目8-13他で地中線埋設工事のため、平成15年3月4日付けて発掘届が提出された。工事の対象地区は郡山廃寺の東面にあたり、掘削深度が0.8~4mに及ぶため、事前の遺構確認調査を平成15年5月13日から6月17日まで実施した。

調査は工事の予定されている部分において、幅1.5mから3m、長さ5mから15mのトレーナーを24箇所程設定して、遺構の確認調査を行った。調査の対象地は変電所内と市道上で、既に電力施設や上、下水道管が埋設されている箇所であった。調査の結果は、溝跡2条、土坑2基、ピット5などを検出したが、擾乱により削平されているなどしており、詳細の把握はできなかった。遺構の様相からは寺院を構成するような遺構ではないと考えられる。

各調査区から瓦、土師器、須恵器、弥生土器片が少量出土している。



(2)第155次調査

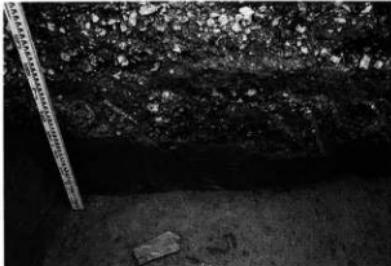
第155次調査は仙台市太白区長町南三丁目1-15仙台市太白区長より、郡山2丁目11-17から郡山2丁目10-10地先までにおける農業用排水路（天王堀）改修工事に伴って、平成15年11月28日付けで発掘通知が提出され、それに対応したものである。現況は水路となっているが、昨年度この工事区間の南において実施した第151次調査では、方四町Ⅱ期官衙の南西コーナーに取り付くSB51掘立柱建物跡の一部を発見している。工事では現況の水路底面より40cm程の掘削を作り、ほぼ同じ深さで排水路の土砂が堆積しており、掘削が遺構の検出面に及ばない地点も多かった。よって慎重な立会いを実施することとし、遺構の検出面を削平するような箇所では発掘調査を実施した。

工事区間の中で方四町Ⅱ期官衙西辺の大溝上では擾乱が著しいが、大溝の西壁の一部を検出した。材木列上で木質の材の頂部が水路底面の堆積土中より若干突出した状態で発見された。工事による掘削が遺構の掘り方等の検出面には及ばないため、露出した材の保護処置を取るに留めた。

工事地内の表土上より軒丸瓦、平瓦、瓦片が出土した。これらの瓦片は郡山廃寺の講堂基壇付近で出土する瓦類と同じ特徴を有している。ただ軒丸瓦については微細な違いがあり、それについては「Ⅳ 総括」の中で報告する。瓦が出土した地点は方四町Ⅱ期官衙の南西コーナー付近で、これまで軒丸瓦などの出土はなかった地区である。今回の工事対象になった農業用排水路に隣接した土地は、郡山廃寺の講堂基壇付近の畠地を所有していた地権者の自宅で、廃寺内の畠地より昭和50年代以前に大量の瓦が出土した際に自宅内に移動して敷いていたと言われている。講堂基壇のある地点から耕作により地表に露出したものが運搬され、今回の採集に至ったものと推定される。



120 第153次調査状況



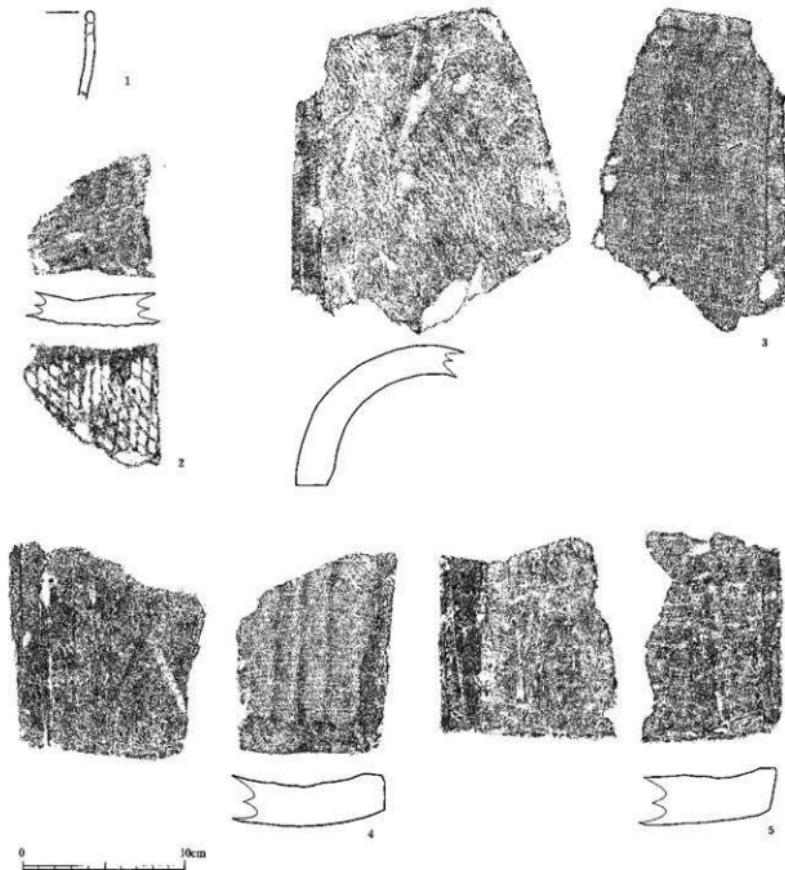
121 第153次遺物出土状況 (F-100)



123 第155次調査状況

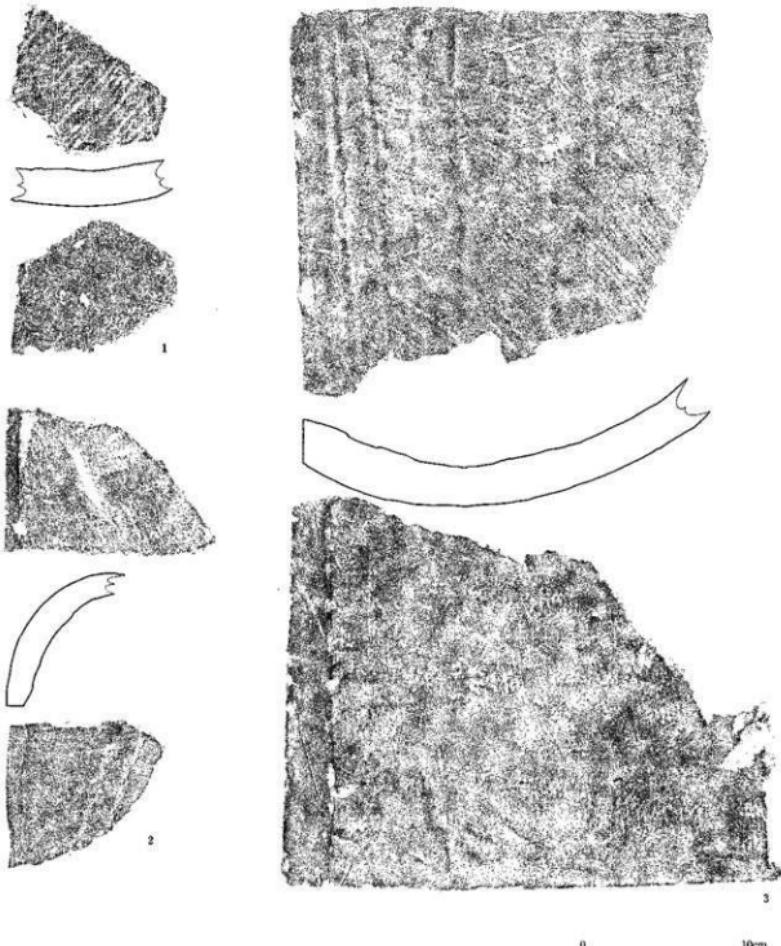


124 第155次方四町Ⅱ期官衙西辺材木列



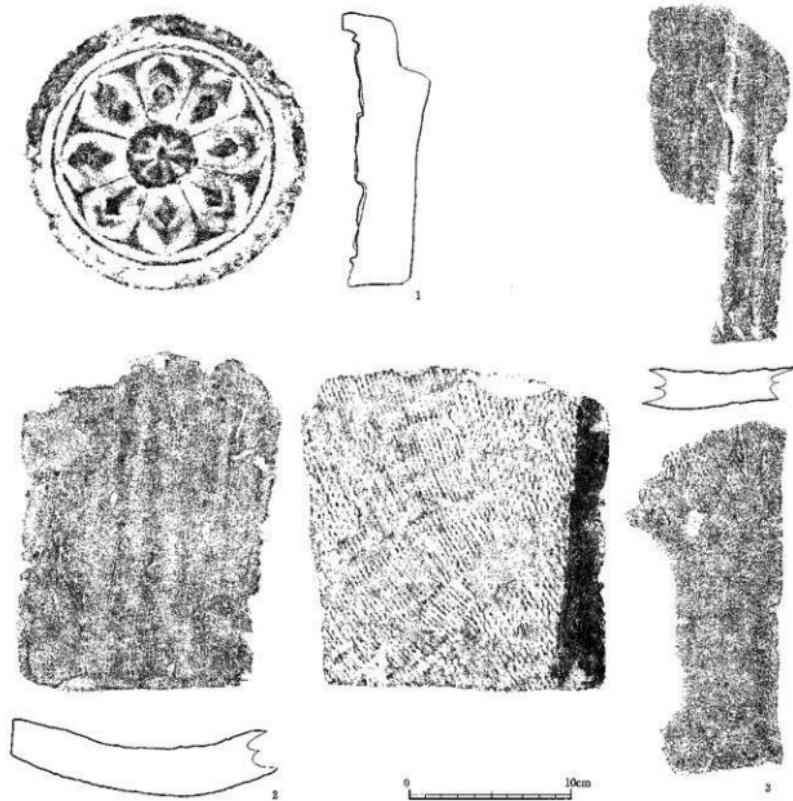
図版 番号	器種 等号	種別	形態	出上地點 山土遺跡	法 量(m)	外面調査	内面調査	備考	写真 番号
1	C-076	十脚器	瓦	153次発地点 近壁不規	長25.5 幅14.0	口縁部・体基部へラケズリ	口縁部・体部ケヅマヘラ ケズリ		125
2	G-120	瓦	平瓦	表七 153次発地点	長さ8 幅8.5	凸面側板子叩き・ヘラケズリ 凹面側板子叩き・ヘラケズリ			126
3	F-100	瓦	丸瓦	溝跡 153次発地点	長3.0 幅14	凸面側板子叩き・すり削し・側面ヘラケズリ、 凹面側板子叩き・側面ヘラケズリ			127
4	G-123	瓦	平瓦	表七 153次発地点	長さ13.2 幅9.7	凸面側板子叩き・すり削し・側面ヘラケズリ、 凹面側板子叩き・側面ヘラケズリ		円頭端瓦き痕	133
5	G-121	瓦	平瓦	表上 153次発地点	長さ12.7 幅9.2	凸面側板子叩き・すり削し・側面ヘラケズリ、 凹面側板子叩き・側面ヘラケズリ		円頭端瓦き痕	132

第26図 第153次・第155次調査区出土遺物(1)



図版 番号	登録 番号	種別	器形	出 土 場 所		法 長 (m)	調 査	備 考	写 真 番 号
				出土遺構	層位				
1	G-118	瓦	平瓦	表土		長さ83 幅10	凸面スリケシ、凹面布目模・余切り痕跡		130
2	F-101	瓦	丸瓦	表土		長さ90 幅11	凸面横河き→すり削し、鋪面ヘラケズリ、凹面布目模・ヘラケズリ		131
3	G-119	瓦	平瓦	表土		長さ238 幅25	凸面スリケシ、薄叩き、凹面布目模・余切り痕跡		129

第27図 第155次調査区出土遺物(2)



圖版 番号	器種 番号	種類	器形 出土地點	出土遺物 部位	法 量 (cm)	測 定	備 考	器種 回数
1	F-69	瓦	軒丸瓦	表土	長径17	甲子邊章文		129
2	G-122	瓦	平瓦	表土	長さ20.6 幅16.4	凸面繩印き、側面ヘラケズリ、円筒布目模・楕管模		134
3	G-124	瓦	平瓦	表土	長さ21.6 幅10.3	凸面繩印き→すり磨し、圓筒布目模・楕管模		135

第28図 第155次調査区出土遺物(3)



125



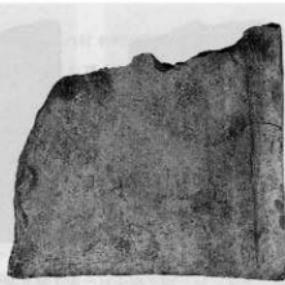
126



127



128



128



129

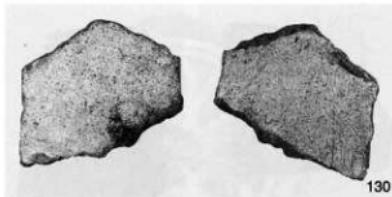


125 C-976 瓦
126 G-120 平瓦 (凸面)
G-120 平瓦 (凹面)
127 F-100 丸瓦 (凹面)
F-100 丸瓦 (凸面)

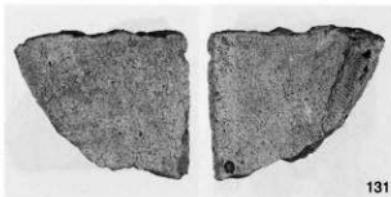
153次
153次表土
153次表土
153次检出面
153次检出面

128 G-119 平瓦 (凸面)
G-119 平瓦 (凹面)
129 F-99 轩丸瓦 (表)
F-99 轩丸瓦 (裏)

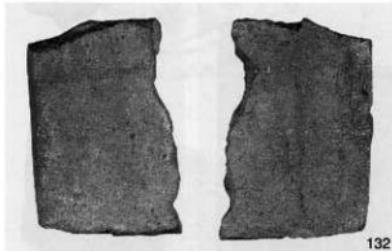
155次表土
155次表土
155次表土
155次表土



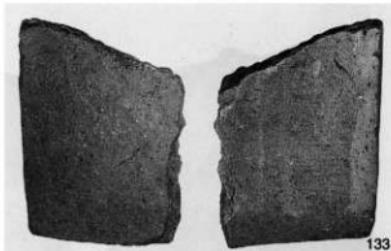
130



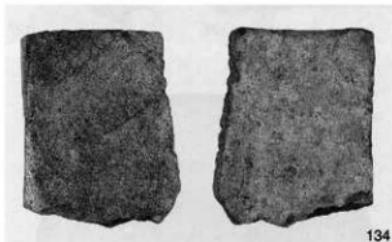
131



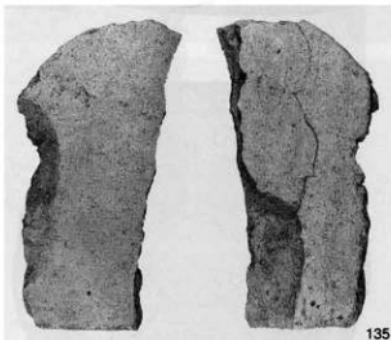
132



133



134



135

130 G-118 平瓦 (凸面)
G-118 平瓦 (凹面)
131 F-101 丸瓦 (凸面)
F-101 丸瓦 (凹面)
132 G-121 平瓦 (凸面)
G-121 平瓦 (凹面)

155次表土

133 G-123 平瓦 (凸面)
G-123 平瓦 (凹面)
134 G-122 平瓦 (凸面)
G-122 平瓦 (凹面)
135 G-124 平瓦 (凸面)
G-124 平瓦 (凹面)

155次表土

155次表土

155次表土

VI 第156次発掘調査

1. 調查經過

第156次調査は仙台市太白区郡山三丁目11-7高橋慎一氏より、仙台市太白区郡山三丁目35-62において住宅新築に伴う発掘届が、平成16年1月22日付で提出されたことにより実施した。住宅の基礎工事の深度が遺構の検出面より深く、遺構が損なわれると想定されたためである。調査地は平成15年度に調査した第148次調査区に隣接している。

第148次調査ではわずか70mの調査区からⅠ期官衙の材木列2列、建物跡1棟、方四町Ⅱ期官衙の北辺となる材木列1列などが発見された。よって隣接している今回の調査区からもⅠ期、Ⅱ期官衙に関連した遺構の発見されることが予想された。

今回の第156次調査は住宅の建つ部分を対象に東西9m、南北5mの調査区を設定し、平成16年2月3日に表土排除を行った。現況より深さ90cm程度で遺構を検出し、さらにその下層でも時期の異なる遺構を検出した。調査は2月16日に終了した。

2. 発見遺構・出土遺物

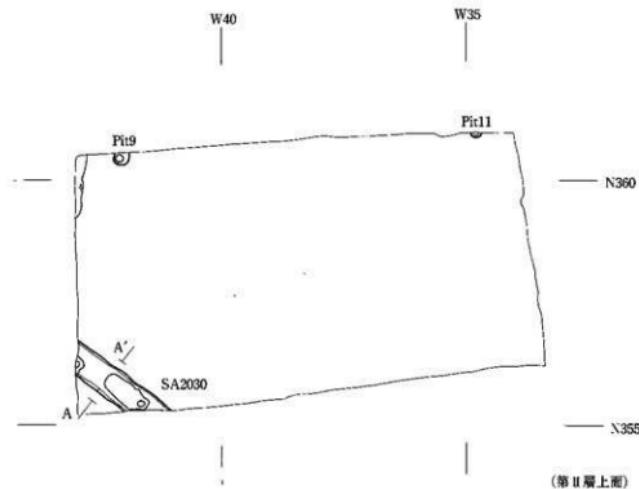
今回の調査で発見された遺構は、基本層位第II層上面で木材列1列、ピット2、第4層上面で溝跡5条、ピット5などである。以下で報告する遺構は木材列のみが官衙の時期で、それ以外は別時期と考えられる。

SA2030材木列 上幅60cmの溝状の抜き取り底面において、掘り方と直径15cm程の柱痕跡が検出された。抜き取りの深度が深いため、掘り方も断続しての検出となっている。方向はE-33°-Sである。検出した総長は2.4mである。遺物は出土していない。

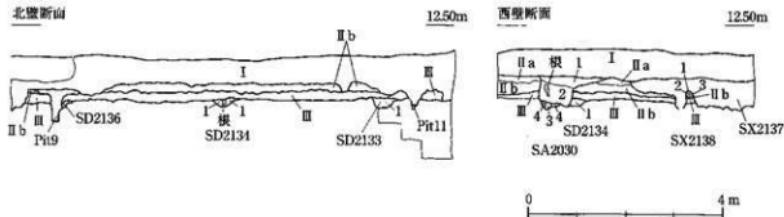
SD2131溝跡 上幅20~35cm、底面幅4~13cm、深さ11cm程で、断面形状は上半がハの字に開き下半がU字形の溝跡



第29図 第156次調査区位置図

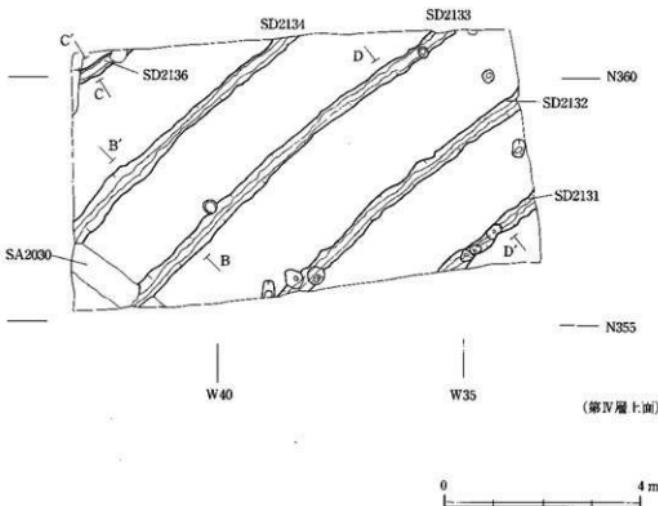


(第II層上面)



透構名	層位	地質			備考
		土色	土性	特徴	
無水帶位	I	HGYR4/3 にぶい黄褐色	シルト質粘土	灰土	
	Ia	HGYR4/2 灰黃褐色	粘土		
	Ib	HGYR4/4 淡黃褐色	粘土		
	II	HGYR4/4 淡黃褐色	粘土		
SA2030	1	HGYR5/2 灰黃褐色	粘土		
	2	HGYR7/4 にぶい黄褐色	シルト質粘土	黑色粘土を薄次に含む	
	3	HGYR8/4 淡黃褐色	粘土	粘土層	
	4	HGYR7/4 にぶい黄褐色	シルト質粘土	黑色粘土を少量含む	
SD2133	1	HGYR7/4 にぶい黄褐色	粘土	黑色粘土と薄らじるを含む。堅硬	
SD2134	1	HGYR7/4 にぶい黄褐色	粘土	黑色粘土質シルトを含む。堅硬	
SD2136	1	HGYR7/4 にぶい黄褐色	粘土	黑色粘土質シルトを含む。堅硬	
SX2137	1	HGYR5/3 にぶい黄褐色	粘土質シルト	堅硬	
	1	HGYR5/3 にぶい黄褐色	シルト質粘土		
SX2138	2	HGYR7/2 灰白色	粘土	飛化鉄を少量含む	
	3	HGYR6/3 にぶい黄褐色	粘土		
Pit9	1	HGYR6/6 黄褐色	粘土		
Pit11	1	HGYR6/3 にぶい黄褐色	粘土質シルト		

第30図 第156次調査区平面図・断面図 (1/100)



第31図 第156次調査区平面図 (1/100)

跡である。壁は中ほどで屈曲し、底面は凹凸がある。方向はN-45°-Eで、検出した総長は2.6mである。遺物は出土していない。

SD2132溝跡 上幅25~36cm、底面幅5~13cm、深さ12~18cm程で、断面形は逆台形の溝跡である。壁はほぼ直線的に立ち上がり、底面はほぼ平坦がある。方向はN-43°-Eで、検出した総長は6.6mである。遺物は出土していない。

SD2133溝跡 上幅22~40cm、底面幅5~15cm、深さ10~17cm程で、断面形は舟底形かおむね逆台形の溝跡である。壁はほぼ直線的に立ち上がり、底面はほぼ平坦がある。方向はN-43°-Eで、検出した総長は8.6mである。遺物は出土していない。

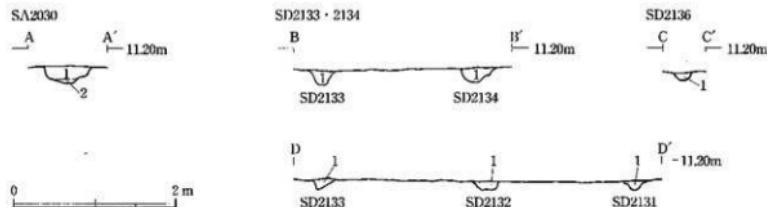
SD2134溝跡 上幅22~45cm、底面幅3~16cm、深さ8~16cm程で、断面形は舟底形かおむね逆台形の溝跡である。壁はやや屈曲を持って立ち上がり、底面はほぼ平坦がある。方向はN-40°-Eで、検出した総長は6.2mである。遺物は出土していない。

SD2136溝跡 上幅21~25cm、底面幅9~14cm、深さ9cm程で、断面形は扁平なU字形の溝跡である。壁は緩やかに立ち上がり、底面はほぼ平坦がある。方向はN-53°-Nで、検出した総長は1.3mである。遺物は土師器の小破片が1点出土している。

この他に西壁断面の土層観察の結果、SX2137はきわめて新しい植栽痕跡で、それに切られるSX2138は時期不明の堅穴住居跡の痕跡の可能性が考えられた。

3. まとめ

今回の調査では第II層上面で検出された材木列が、方向や第148次調査との関連からT期官衙の遺構と見るこ

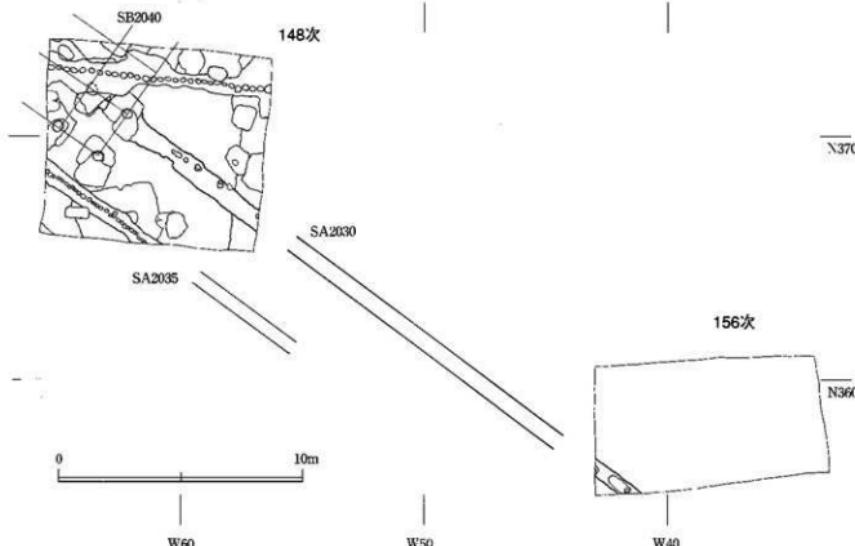


第32図 第156次調査区遺構断面図 (1/60)

とができる。深い抜き取りがなされていることや遺構の検出された位置から、第148次調査区から連続する材木列と考えられた。なおそれ以外には遺構は検出されず、第148次調査区とは様相が異なっていた。

第IV層上面で検出した溝跡は一定間隔で平行し、堆積土も同一なため一連の遺構と見られる。調査区が狭小であるため断定は難しいが、いわゆる「小溝状遺構群」を部分的に検出した可能性がある。小溝状遺構群は畑の歛立時の痕跡とする見解がある（註1）。検出層位からは明らかに官衙の成立以前に遡るものであり、新たな知見を得たことになろう。

註1 仙台市文化財調査報告書第249集 王ノ塙遺跡—都市計画道路「川内・柳生線」関連遺跡 発掘調査報告書。2000. 9



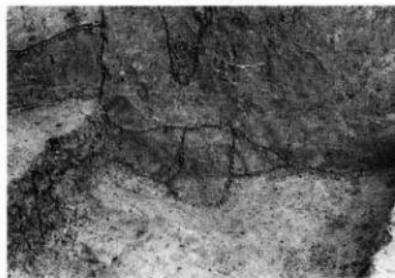
第33図 第148次・第156次調査遺構配置図 (1/200)



136 調査区全景（南より）



137 SA2030材木列



138 SA2030材木列断面



139 調査区全景（東より）

VII 総括

今年度の調査は第5次5ヵ年計画の第4年次目にあたる。今回はⅠ期官衙東辺の様相を明らかにするために第147次調査と第152次調査を実施した。また個人住宅の建替えのうち、基礎構造が深く造構を損なうような住宅建築については「仙台平野の遺跡群」として1件の小規模な調査を実施した。

(1)Ⅰ期官衙の調査

Ⅰ期官衙については、平成13年度に行った第138次調査区で東辺の材木列が3列(SA1855・1910・2005)発見されている(第35図参照)。第147次調査区ではそのうちの2列であるSA1855・2005材木列の詳細を、第152次調査区では北方の中軸部付近での様相を把握するために調査を行った。Ⅰ期官衙は東南方向に向いて造られた可能性があり、Ⅰ期官衙中軸部付近を調査することにより、官衙正面の様相を明らかにすることも期待された。

Ⅰ期官衙の東辺については、今回の調査によって広範囲に3列の跡跡(材木列・一本柱列)があることが明らかになった。これまでⅠ期官衙南部での調査では、南辺が第96次調査区でSA1380→SA272へ変遷し、2小期があることが確認されていた(註2)。また東辺では第48次調査区や第56次調査区での造構の検出状況(註2)からは3列の材木列の接続については明らかにできないでいる。

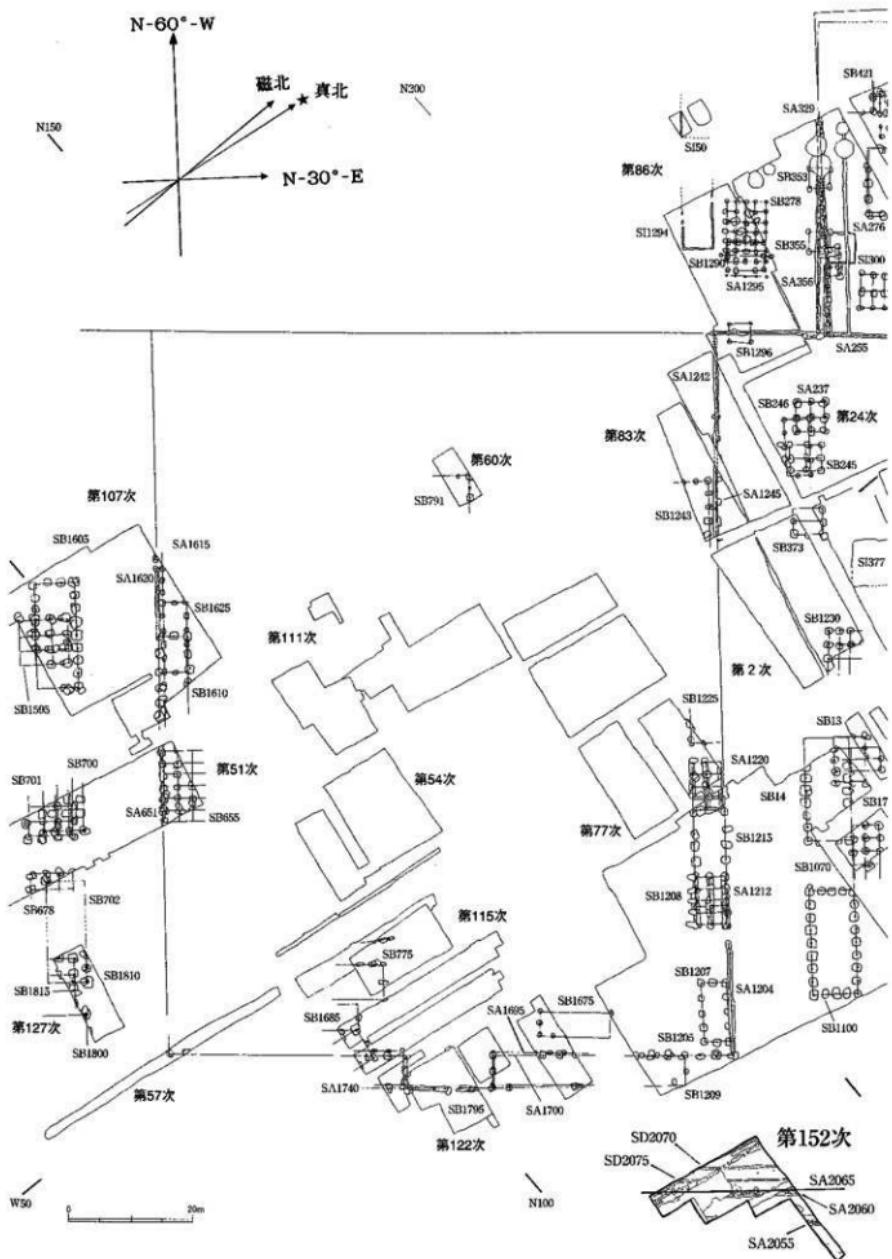
今回の第152次調査で発見された材木列のうちSA2055材木列は柱材の直径が25cmを超えるものであり、これまで発見されてきたⅠ期官衙の材木列の柱痕としては最大のものである。他のⅠ期官衙の材木列と比較しても突出しており、のちの方四町Ⅱ期官衙の外郭となる材木列とはほぼ同様の規模のものである。配置された位置からは中軸部の前面を厳重に区画していたと見ることもできるが、材木列掘り方の深度からは現地表から約1.3mの深さであるのに対して、方四町Ⅱ期官衙外郭の材木列では約2.3mに及ぶ箇所があり、削平を受けているものの地中に埋設された材の長さには違いがあり、方四町Ⅱ期官衙外郭の材木列ほどは地上に延びる構造にはなっていないと考えられる。(註3)

またこれまでの調査ではⅠ期官衙外周を巡る造構には材木列や溝跡が各辺から発見されているが、今回のSA2065一本柱列のような柱列としては初めてである(註4)。ただしSA2065一本柱列は調査区内を縦断するものの柱筋の通りが悪く、柱間寸法も250~280cmであり30cm程度の範囲で一定しない状況となっている。そのためSA2065一本柱列はSA2060材木列の部分的な補強と見ることもできよう。さらに第152次調査区と第48次調査区との距離は150m程度離れているため断定はできないが、Ⅰ期官衙東辺を構成する材木列についてはSA2005-SA577-SA2065、SA1855-SA578-SA2055と連続する(第35図参照)と見ることもできる。またSA2065一本柱列がSA2060材木列の補強と見た場合には、さらにはSA1910材木列の延長部分に相当する材木列がSA2055の外側に存在している可能性もある。Ⅰ期官衙の造構は調査地点により造られた方向に微妙な振れがあることや、同一の材木列でも屈曲する部分があるため、Ⅰ期官衙東辺の様相については、今後とも発掘調査によって再確認していく必要がある。

またⅠ期官衙の中軸部は板辦と建物で囲まれていることがこれまでの調査で明らかになっている(第34図)。第152次調査でさらにその外側にSA2055・2060材木列やSA2065一本柱列が存在し、中軸部付近が二重の区画となっていた。同じⅠ期官衙でも他の地区と異なる様相を示している。

(2)Ⅱ期官衙の調査

第147次調査は、方四町Ⅱ期官衙の南外側にある南方官衙西地区内での調査にあたる。発見されたSA1283材木列は西側に位置する第85次調査B区ではSB1277四面附建物に切られており、SD(SA)1283→SB1277と変遷してい



第34図 I期官衙主要遺構配置図 (1/800)

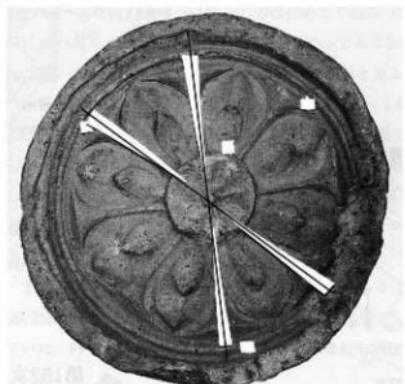
る。また第138次調査区で発見されたSB2010とSB2015掘立柱建物については、その後の出土遺物の検討により（註5）SB2010掘立柱建物跡の柱穴の抜き取り穴より回転ヘラ切り後に底部が再調整された須恵器坏（註6）や少量ではあるがクロを使用した土師器片が含まれていたことによって、この建物が8世紀半ば以降まで建物が建っていた可能性が出てきた。したがって真北方向に近いSB2015掘立柱建物跡から、やや西に傾きのあるSB2010掘立柱建物跡へ変遷していることが考えられる。SB2015掘立柱建物跡は三面に廟を有し、さらにその外側に小柱穴列を伴う建物跡である。東側のみには廟を有していないことから、東を背にし、西側を正面として配置されていると考えられる。そのような様相からはSB1277掘立柱建物跡とSA2015が同時期に並び建つ可能性が考えられよう。よってSA1283→SB1277・SB2015→SB2010の変遷が想定できる。しかしこれらの変遷が今回の第147次調査で発見されたSB2045掘立柱建物跡やSD2086~9・2101~9・2116~7溝跡などの遺構を含めての詳細については、周辺での調査成果を待ってさらに検討していただきたい。

（3）第155次調査出土の軒丸瓦について

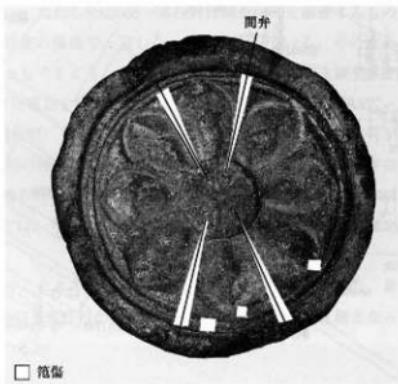
第155次調査の表土中から単弁蓮華文軒丸瓦が1点（F99）出土した。瓦当面が完全な形で残存している。文様の基本的な構成は、これまで出土していたものと同じであるが、やや径が小さく中房の蓮子も直線的な印象を受けた。今まで発見されていない別範の軒丸瓦である可能性が考えられる。

郡山遺跡出土の軒丸瓦については、東北学院大学文学部教授佐川正敏氏が論及し、2種類の範があることを明らかにしている（註7）。そのうちの「B種」とされたものに該当しないかと考え、ご助言をいただいた。その結果はこれまで発見されていたものとは全く別の新たな範であるとの指摘（註8）を受けた。

軒丸瓦F99は佐川氏の分類による「A種」、「B種」のいずれとも違う範のものであった。仮にC種と呼んだ場合に全体的な文様からは、A種に近いが間弁の配置などで精緻さを欠くようで型式的には後出の觀があると言う。佐川氏の研究手法によれば、これらの出土分布の把握によって、建物建設の前後関係や詳細な造瓦の技法がより明らかになると考えられる。



140 F-58 軒丸瓦



141 F-99 軒丸瓦

註1 仙台市文化財調査報告書第250集 「郡山遺跡21 - 郡山遺跡・仙台平野の遺跡群 平成12年度発掘調査概報 -」 2001

註2 「Ⅶ 総括 (z) I 期官衙の調査」 P60 仙台市文化財調査報告書第258集 「郡山遺跡22 - 平成13年度発掘調査概報 -」

2002. 3

- 註3 「VI 第148次調査」 仙台市文化財調査報告書第263集 「郡山遺跡23」 2003. 3
- 註4 I期宮衙の一本柱列としては、中核部付近から昭和57年度の第24次調査のSA342一本柱列、平成元年度の第83次調査のSA1245一本柱列、平成7年度の第107次調査のSA1615一本柱列などの例がある。
- 註5 仙台市文化財調査報告書第258集 「郡山遺跡22」 2002. 3
- 註6 「3 第138次調査」 第8回 仙台市文化財調査報告書第258集 「郡山遺跡22」 2002. 3
- 註7 「仙台市都山発古所用軒丸瓦の調査報告」 東北学院大学「東北文化研究所紀要第35号」 2003年9月
- 註8 佐川正徳氏より以下の御見解をいただいた。記して謝したい。

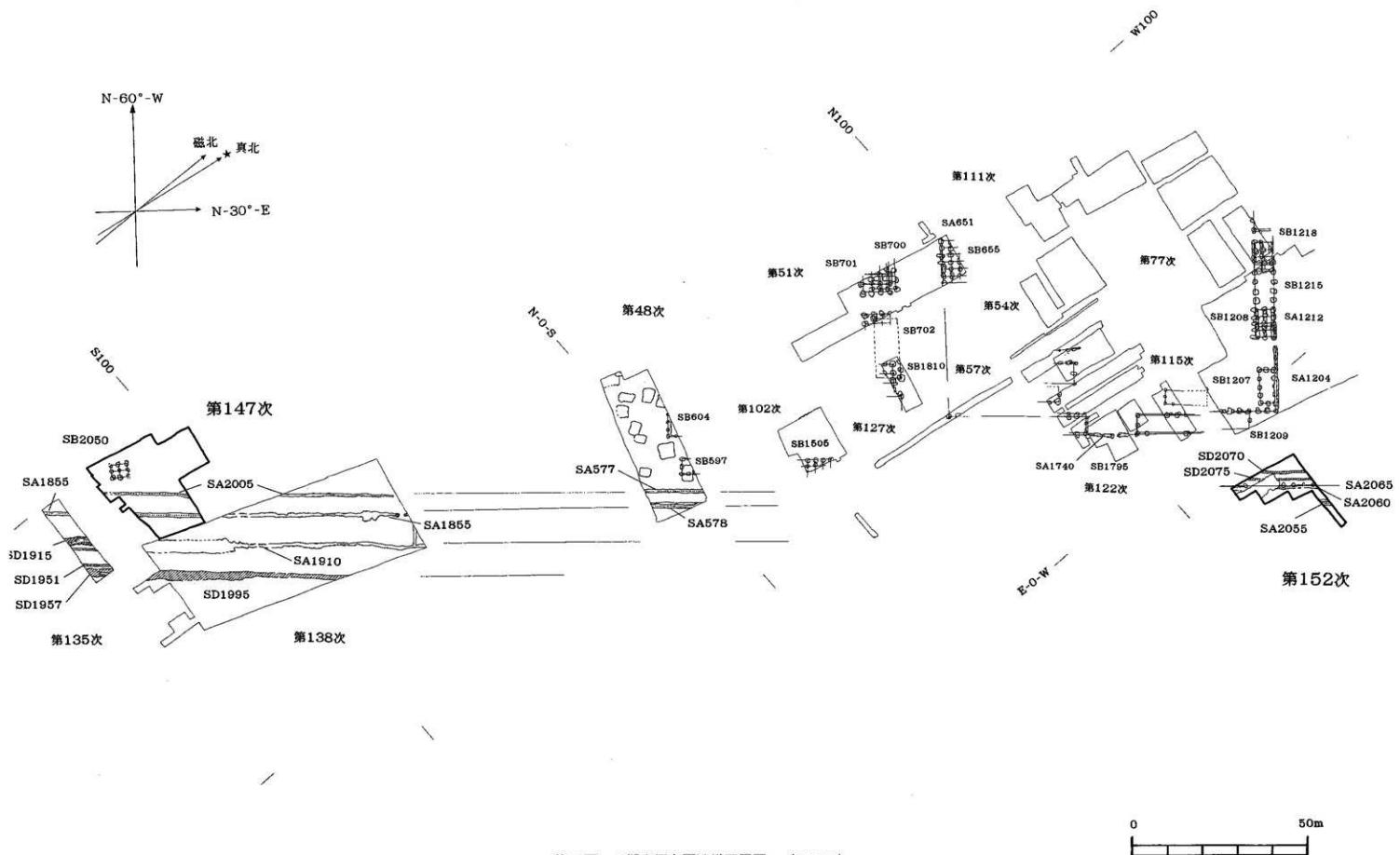
「F99軒丸瓦はA種、B種のいずれとも異なる範のものであろう。A種との比較では、まずA種の範囲進行Ⅰ段階(F11)、範囲進行Ⅱ段階(F58)と比較して泡彫の位置が全く異なり、さらにA種の間弁が中房を挟んで向かい合いで直線的に延びているのに對して、軒丸瓦F99は中房を挟んでずれを生じている。次にともに小片であるB種(F35・39)との比較では、F35のような子葉の盛り上がりがなく、蓮弁の最大幅も弁の先端に近い部分にある。またF39が圓錐の幅や外側の外縁との間の溝の幅が細いのに對し、F99は圓錐が太く引際であり、外縁との間の溝も一定の幅を有している。F35・39の破片の間弁は共に太めであり、F99はA種と同様にやや細く作られている。軒丸瓦F99は蓮弁や間弁の形状ではA種に類似するもので、小破片の場合はこれまでA種と見てきたものの中に含まれていた可能性もあり、今後の検証が必要である。」

なお、A種、B種との呼称は、検討の余地があるとの指摘を受けた。

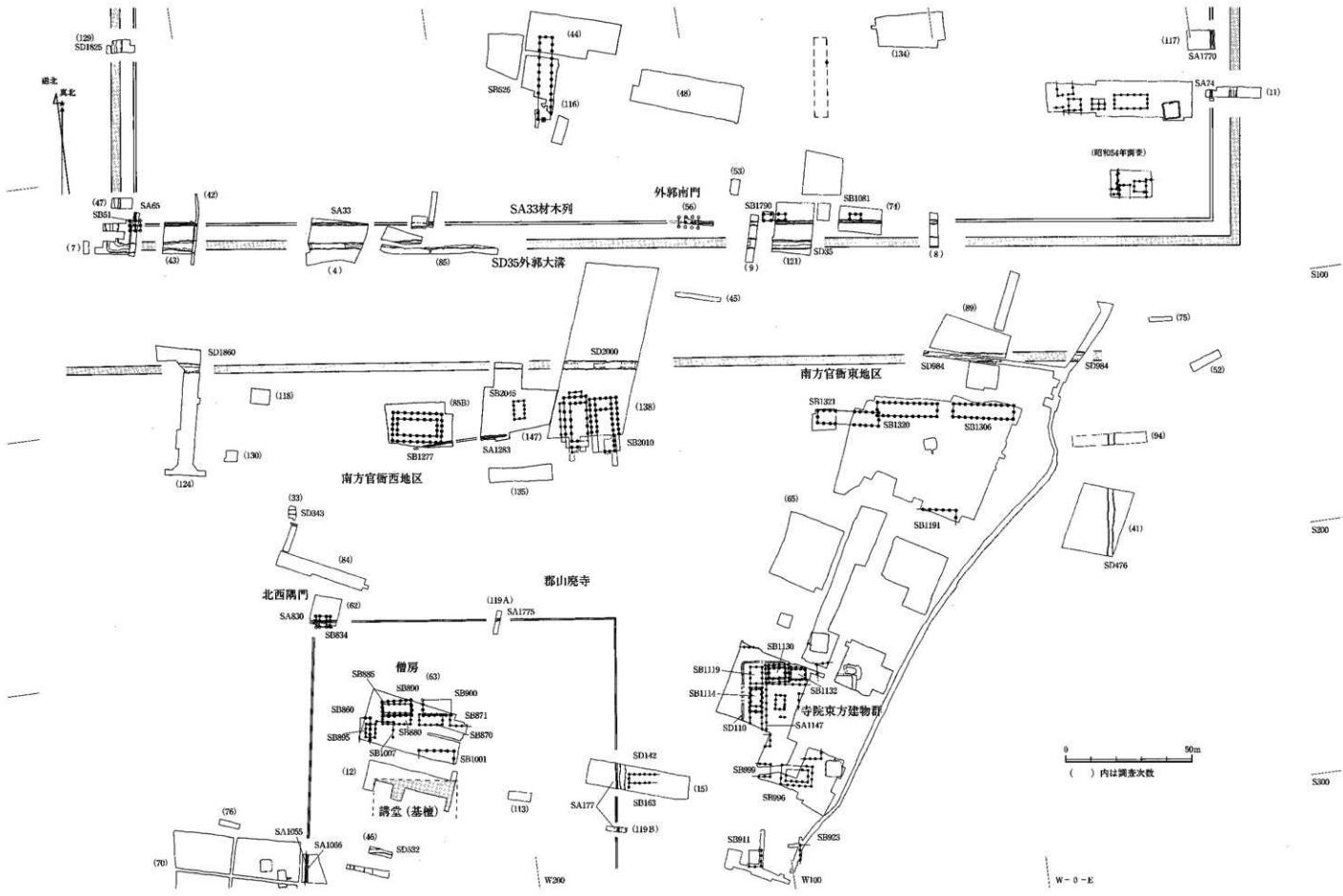
参考文献

- 仙台市文化財調査報告書第23集 「年報1」 「郡山遺跡発掘調査概報」 1980. 3
- 仙台市文化財調査報告書第29集 「郡山遺跡I」 1981. 3
- 仙台市文化財調査報告書第38集 「郡山遺跡II」 1982. 3
- 仙台市文化財調査報告書第42集 「郡山遺跡-第13次-」 1982. 3
- 仙台市文化財調査報告書第46集 「郡山遺跡III」 1983. 3
- 仙台市文化財調査報告書第64集 「郡山遺跡IV」 1984. 3
- 仙台市文化財調査報告書第74集 「郡山遺跡V」 1985. 3
- 仙台市文化財パンフレット第10集 「郡山遺跡」 1985. 10
- 仙台市文化財調査報告書第86集 「郡山遺跡VI」 1986. 3
- 仙台市文化財調査報告書第96集 「郡山遺跡VII」 1987. 3
- 仙台市文化財調査報告書第110集 「郡山遺跡VIII」 1988. 3
- 仙台市文化財調査報告書第124集 「郡山遺跡IX」 1989. 3
- 仙台市文化財調査報告書第133集 「郡山遺跡X」 1990. 3
- 仙台市文化財調査報告書第145集 「郡山遺跡-第84・85次-」 1990. 6
- 古代城柵官街道跡検討会 第17回古代城柵官街道跡検討会資料 1991. 2
- 仙台市文化財調査報告書第146集 「郡山遺跡XI」 1991. 3
- 仙台市文化財パンフレット第18集 「郡山遺跡」 1989. 12
- 仙台市文化財調査報告書第156集 「郡山遺跡-第65次発掘調査報告書-」 1992. 3
- 仙台市文化財調査報告書第161集 「郡山遺跡XII」 1992. 3
- 仙台市文化財調査報告書第169集 「郡山遺跡XIII」 1993. 3
- 仙台市文化財調査報告書第178集 「郡山遺跡XIV」 1994. 3

- 仙台市文化財調査報告書第194集 「郡山遺跡X V」 1995. 3
- 仙台市文化財調査報告書第210集 「郡山遺跡X VI」 1996. 3
- 仙台市文化財調査報告書第215集 「郡山遺跡X VII」 1997. 3
- 仙台市文化財調査報告書第222集 「郡山遺跡 - 第112次 - 」 1997. 3
- 仙台市文化財パンフレット第40集 「発掘！郡山遺跡 - 郡山遺跡に埋もれた歴史を掘る - 」 1997. 10
- 仙台市文化財調査報告書第227集 「郡山遺跡X VIII」 1998. 3
- 仙台市文化財調査報告書第234集 「郡山遺跡X IX」 1999. 3
- 仙台市文化財調査報告書第244集 「郡山遺跡X X」 2000. 3
- 仙台市文化財調査報告書第250集 「郡山遺跡21」 2001. 3
- 仙台市文化財調査報告書第251集 「郡山遺跡 - 第124次発掘調査報告書 - 」 2001. 3
- 仙台市文化財調査報告書第258集 「郡山遺跡22」 2002. 3
- 仙台市文化財調査報告書第263集 「郡山遺跡23」 2003. 3



第35図 I期官衙主要造構配置図 (1/1000)



第36図 II期官衙 南方官衙地区周辺図

調査成果の普及と関連活動

1. 広報・普及・協力活動

年月日	行事名稱	担当職員	主催
2003. 5. 17	遺跡調査報告会	長島	宮沢保存館
2003. 6. 24	発掘現場・展示室・ピロティ見学	長島・松本	郡山中学校1年
7. 22	展示室撮影	長島	東日本放送
10. 22	展示室・ピロティ見学	長島・松本	太白区まちづくり推進課
10. 30	報道発表	長島・松本	仙台市教育委員会
11. 1	現地説明会	長島	仙台市教育委員会
12. 20	宮城県遺跡調査成果発表会	長島・松本	宮城県考古学会 仙台市博物館
2004. 2. 6	八本松市民センター講座	長島・松本	八本松市民センター
2. 28~9	第30回古代城柵官衙遺跡検討会	長島・松本	古代城柵官衙遺跡検討会

2. 調査指導委員会の開催

第33回 郡山遺跡調査指導委員会 平成16年3月9日 教育局北庁舎5階会議室

○平成15年度の調査成果について

○平成16年度の調査計画について

3. 資料の貸し出し・展示

東北歴史博物館	常設展「古代」城柵とエミシ
仙台市博物館	常設展「原始・古代・中世」
栃木県立しまつけ風土記の丘資料館	企画展「律令国家の誕生と下野國」
多賀城市埋蔵文化財調査センター	企画展「木とくらし」
富沢遺跡保存館	企画展「土の中からのメッセージ 発掘された仙台の遺跡7 -古代のみちのおく郡山遺跡-」

4. 展示室の利用者

平成15年4月～平成16年3月

197名



142 栃木県立しまつけ風土記の丘資料館企画展「律令国家の誕生と下野國」での
郡山遺跡出土遺物の展示風景

報告書抄録

ふりがな	こおりやまいせき							
書名	郡山遺跡 24							
副書名	平成15年度発掘調査概報							
卷次	24							
シリーズ名	仙台市文化財調査報告書							
シリーズ番号	第269集							
編著者名	長島榮・松本知彦							
編集機関	仙台市教育委員会							
所在地	〒980-8671 宮城県仙台市青葉区国分町三丁目7-1 TEL022-214-8893~8894							
発行年月日	2004年3月31日							
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯 東經	調査期間	調査面積 (m ²)	調査原因	
		市町村	遺跡番号					
郡山遺跡	宮城県仙台市 太白区郡山三丁目他	04100	01003	38° 12' 58"	140° 53' 41"	20030512 ~20040304	1620m ²	重要遺跡 の範囲確 認調査
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物		特記事項		
郡山遺跡	官衙跡 寺院跡	弥生 ~ 近世	掘立柱建物跡・材木列 溝跡・土坑	弥生土器 上師器・須恵器・瓦 土製品・石製品・金属品		I期官衙の中軸部 の区画の外側にさ らに塙が存在し二 重区画されている ことを確認		

仙台市文化財調査報告書第269集

郡山遺跡 24

—平成15年度発掘調査概報—

2004年3月

発行 仙 台 市 教 育 委 員 会
仙台市青葉区国分町三丁目7-1
文化財課 022(214)8893

